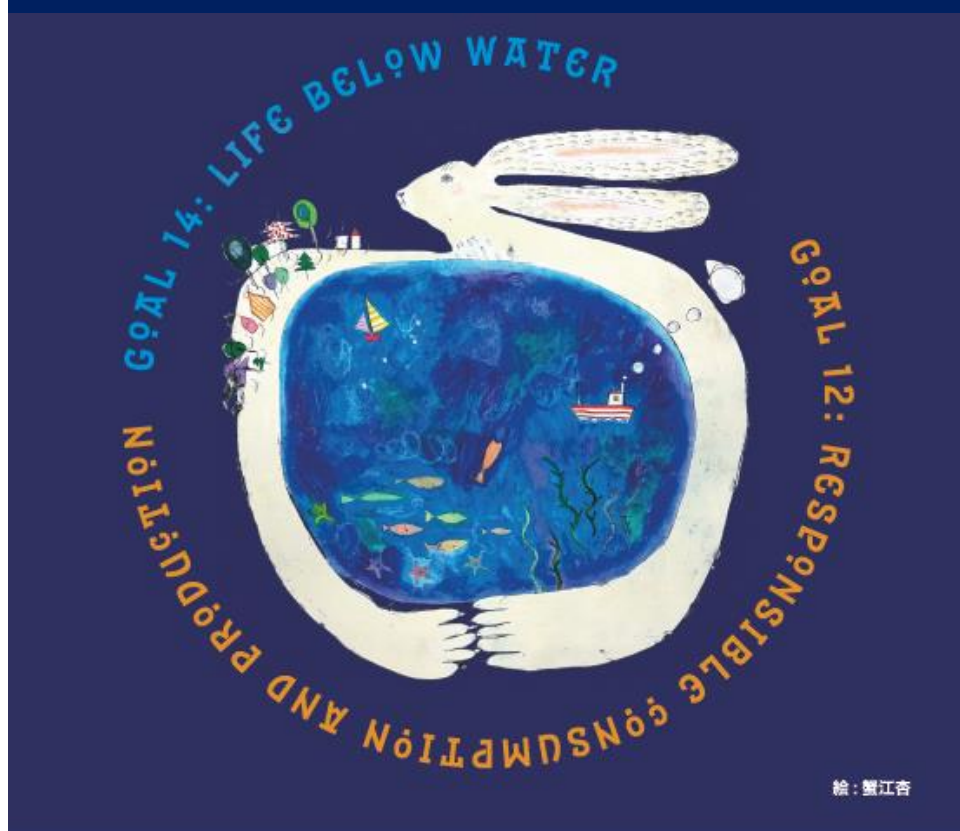


2020年度（令和2年度）  
日野市環境基本条例第18条に基づく年次報告書

# 日野市環境白書

～日野市プラスチック・スマート宣言～  
私たちの暮らしが海を汚さない社会にしたい



私たちの青い海を守る白うさぎは、みんなの気持ちの代弁者です。  
まあるい形は、繋がりと循環を表しています。

## 日 野 市

TRANSFORMING OUR WORLD  
**SDGs IN ACTION HINO** 

日野市から“次世代に引き継ぎたい世界”に変えていくアクションを！

#### 日野市プラスチック・スマート宣言(表紙の絵)

日野市はプラスチックごみの削減に取り組むべく、「プラスチック・スマート宣言」を行いました。

表紙の絵は、日野市出身の画家 蟹江杏さんが作成したものになります。

プラスチック類資源化施設が 2020 年 4 月に本格稼働し、プラスチック類の分別・収集・資源化を推進し、次の世代に「持続可能なまち」を引き継ぐため、継続的に活動してまいります。

## はじめに

日野市には、多摩川・浅川を代表とする河川と、これらの流れによってつくられた肥沃な沖積低地や多摩丘陵、市役所や多くの企業が立地する日野台地が広がっています。

また、低地と台地の崖線には屏風のような緑地が連なり、丘陵地の緑や、ハケ下からの湧水など、様々な地形・自然環境が存在しています。

日野市は、こうした恵まれた環境のなか、市内全域に広がる用水路や自然の姿を活かした公園があり、自然の恩恵を身近に感じながら暮らしを営むことができるまちです。

その一方で、2019 年末から世界に広がった新型コロナウイルス感染症は依然として猛威を振るっており、自然が持つ未知の脅威を改めて感じざるを得ません。また、近年の気温上昇、局地的豪雨の増加等の気候変動や海洋プラスチック問題への対応強化も喫緊の課題となっています。日野市の恵まれた自然環境を守ることはもちろんですが、これらの課題に対しても取り組まねばなりません。

市では 2020 年 12 月に、より持続可能な社会を実現するために、諸力融合でプラスチックごみゼロを目指す「プラスチック・スマート宣言」を行いました。この宣言はプラスチックの削減及び再資源化に取り組むと共に、市民や事業所の皆様へも意識と行動の変容をお願いするものであります。

本白書を通じて、地球規模の環境問題や日野市の環境の現状について、そして私たちの暮らしに直結している身近な環境の保全などを再確認いただき、環境への負荷の少ない日野市を創りあげていくために、お一人おひとりが一歩ずつ着実に行動されることを切にお願いいたします。



2021 年 9 月

日 野 市 長

大 坪 冬 彦

# 日野市の概況

## 位置と面積

日野市は東京都のほぼ中央に位置し、都心から西に約35kmにあります。東西7.59km、南北5.85kmで、東西にやや広がった形をしており、面積は27.55km<sup>2</sup>です。

## 地形

日野市の地形は北西部の日野台地、南部に位置する多摩丘陵、多摩川と浅川の周辺に広がる沖積地（低地）、日野台地と沖積地の境界である崖線（段丘崖）、多摩川と浅川に代表される河川の5つに大きく分けられます。このように様々なタイプの地形があることが日野市の特徴であり、環境的な豊かさの基盤となっています。



日野市全域立体地図

(実践女子大学空間デザイン研究室制作 日野市立カワセミハウス所蔵)

## 人口

日野市の人口は昭和30年代から昭和60年代にかけて急増しており、東京都全体の爆発的人口増加の受け皿となっていました。1990年代以降は人口の増加は緩やかになったものの依然として増加傾向で推移し、2021年4月1日の時点で人口は187,048人です。

現在の日野市の人口は微増傾向ですが、2025年をピークに減少局面に入ることが予想されています。



(C)2017 PASCO CORPORATION. (C)2017 INCREMENT P CORPORATION.

いかなる形式においても著作権者に無断でこの地図の全部または一部を複製し、利用することを固く禁じます。

# 日野市環境基本条例と 2020 年度日野市環境白書作成の経緯

## 日野市環境基本条例（抜粋）

### 〈前文〉

私たちは、豊かな自然の恵みを受けて、生命の糧を与えられてきた。現代社会において、私たちは、大量生産・大量消費の社会システムの中で、物質的に豊かで便利な暮らしを享受する一方、自然環境の消失や資源とエネルギーの限りない消費と多量の廃棄を生みだしてきた。このような生産と生活の在り方は、地球規模での環境破壊をもたらしている。

日野市民は、野生生物が棲み、水を育む森林、暮らしに潤いをもたらす川、農地や崖線の緑などの自然や、それらによって培われた歴史的・文化的環境を祖先から受け継いできた。

このような環境を私たちの世代限りで終わらせることなく、次の世代に引き継いでいかなければならない。

私たちは、これまでの生産と生活を見直し、自然を育み、環境保全型のまちを創り出すとともに、持続可能な社会への展望を見いだすべきときにきている。

このような認識の下に、私たちは、日野市、日野市民及び事業者の責務と役割を明らかにし、良好で快適な環境を確保するとともに、環境への負荷の少ない日野市を創りあげていくために、この条例を制定する。

### 〈第 18 条〉

市長は、毎年、議会に、環境の保全等のために市が実施した事業の概要に、日野市環境審議会の意見を付けて、報告書を提出しなければならない。

1995 年に市民の直接請求により、上掲の前文に掲げる目的で日野市環境基本条例が制定されました。その条例の第 9 条に基づいて、1999 年に日野市環境基本計画が策定されました。この計画に定められた施策の進行状況は前記条例第 18 条に基づいて、日野市環境白書として環境審議会での審議、議会の承認を経て 1999 年度以降毎年公表してきました。2005 年には環境情報の発信拠点として日野市環境情報センター（かわせみ館）が設立され、これを契機にそれ以降の環境白書は同センターが作成してきました。2017 年に日野市環境情報センターの機能を引き継ぐ日野市立カワセミハウスがオープンしました。

この環境白書の特色は、環境基本計画で設定された分野ごとに計画の進捗を計るための数値目標を掲げ、それらの達成度から環境問題への対応を評価しているところです。

第 1 次となる環境基本計画の策定から 5 年後の 2004 年に環境基本計画の見直しが行われ、重点的に実施すべき項目とその進捗を計る数値目標を新たに追加しました。そして第 1 次計画の計画年度が満了となる 2011 年には、公募市民・事業者・市職員からなるワーキングチームにより、第 1 次計画の理念を踏襲した第 2 次環境基本計画を策定しました。その際着実にそして計画的に進められるよう、計画に掲げた施策には優先順位を設けて中長期の具体的な目標を盛り込みました。また計画の推進についても市民・事業者と各主管課が協働して実施できるような体制づくりに努めています。

今回の環境白書は第 2 次計画に掲げた施策を基本に、これまで取り組んできた内容や結果をまとめたもので、計画の策定にあたった市民と主管課が、1 年間活動した結果のコメントも掲載しています。

# 望ましい環境像

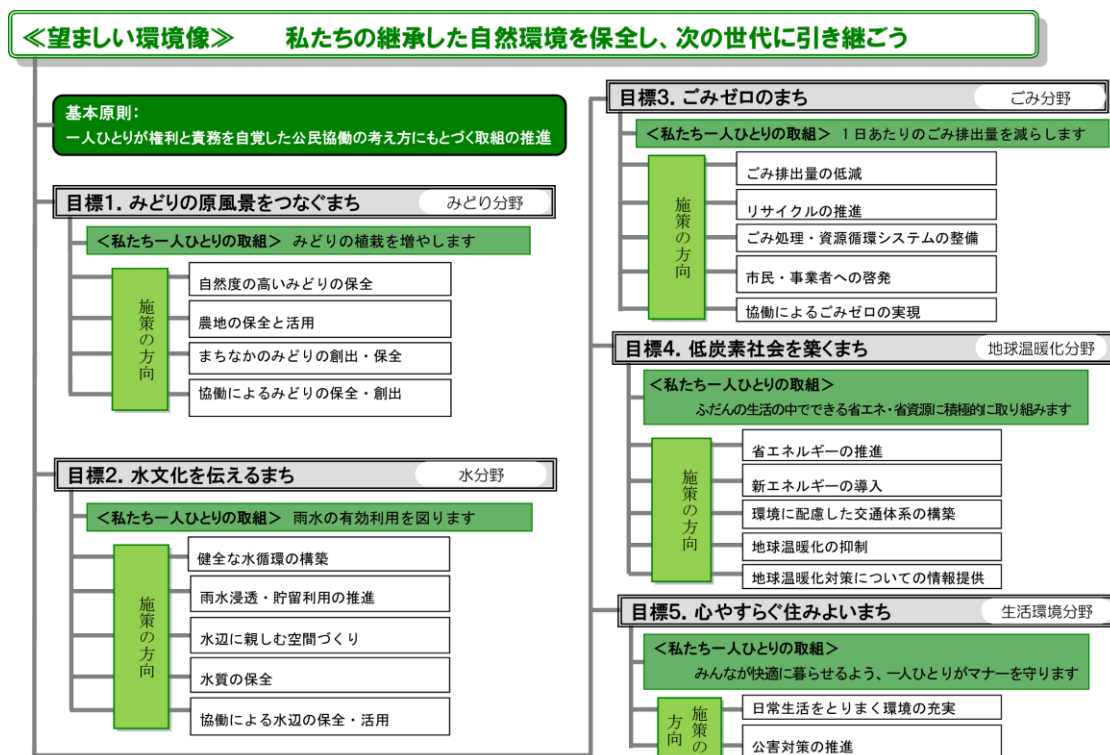
## 日野市環境基本計画とは

「将来にわたる日野市の目指すべき環境の姿や、市全体で環境保全・創出を行う上での基本的な考え方を示すとともに、着実に環境の保全・創出を行なっていくために取り組んでいく内容やその進め方を示すこと」を目的として策定します。目標である「望ましい環境像」は「私たちの継承した自然環境を保全し、次の世代に引き継ごう」とし、先人から受け継いだ豊かな自然を守り育て、少しでも質の高い形にして次の世代に引き継げるよう、一人ひとりが自覚をもって行動することを目指します。

### 【第2次環境基本計画の特徴】

- ① 潤いや安らぎを与えてきた水やみどり等の自然環境を市の財産として守り活かしながら、少しでも良くして次の世代に引き継ぐ。
- ② 計画的な施策の実施に向けた優先順位の設定や、市民一人ひとりの行動や意識をステップアップさせ、自覚と責任ある行動の浸透を目指し、確実に次の一步を進める。
- ③ 市民一人ひとりが日常生活において環境配慮を実践し、市全体の環境についても広い視点で考え行動するよう働きかけるなど、「公民協働」の考えを基本として計画を推進する。

計画の施策体系の柱は、日野市の特徴である水やみどりの分野に、ごみ、地球温暖化及び生活環境を加えた5分野です。推進主体である市民・事業者・市の役割を明確にし、お互いに連携して計画を推進していきます。



「第2次日野市環境基本計画」(2011年3月)より

# 2020 年度（令和 2 年度）日野市環境白書

## — 目 次 —

|                                   |           |
|-----------------------------------|-----------|
| ・ 日野市の概況                          |           |
| ・ 日野市環境基本条例と 2020 年度日野市環境白書作成の経緯  |           |
| ・ 望ましい環境像                         |           |
| <b>1. 2020 年度の日野市の環境に関するトピックス</b> | <b>1</b>  |
| (1) SDGs とプラスチック・スマートについて         | 1         |
| (2) 新型コロナウイルスと日野市のごみ排出量について       | 3         |
| (3) 黒川清流公園における湧水保全への対応について        | 4         |
| (4) 公共施設の CO2 排出量削減について           | 6         |
| <b>2. 環境基本計画目標達成状況</b>            | <b>8</b>  |
| (1) 環境の現状                         | 10        |
| (2) 分野別目標達成状況                     | 10        |
| <b>3. 環境の現状と取組状況の評価</b>           | <b>14</b> |
| みどり分野(環境の現状/市の取組状況/資料編/市民コメント)    | 15        |
| 水分野(環境の現状/市の取組状況/資料編/市民コメント)      | 22        |
| ごみ分野(環境の現状/市の取組状況/資料編/市民コメント)     | 36        |
| 地球温暖化分野(環境の現状/市の取組状況/資料編/市民コメント)  | 46        |
| 生活環境分野(環境の現状/市の取組状況/資料編)          | 56        |
| <b>4. 環境への取組状況</b>                | <b>64</b> |
| 行政による環境への取組状況                     | 64        |
| <b>5. 環境関連決算額</b>                 | <b>70</b> |
| <b>6. 市役所の環境配慮の状況</b>             | <b>75</b> |
| <b>7. 環境基本計画の推進体制</b>             | <b>77</b> |
| <b>8. 環境審議会の意見等</b>               | <b>80</b> |
| <b>9. 省エネ法に関する措置</b>              | <b>83</b> |
| <b>付表 指標・参考データ出典一覧</b>            | <b>84</b> |

## 1. 2020 年度の日野市の環境に関するトピックス

---

2020 年度に実施した環境に関する取り組みや出来事の中から、つぎの 5 項目を注目すべきトピックスとして取り上げました。

エス・ディー・ジーズ

### (1) SDGs とプラスチック・スマートについて

日野市は、令和元年（2019 年）に、都内で初めて「SDGs 未来都市」に選定されました。「SDGs」とは、2030 年までに持続可能でよりよい世界を目指す国際目標です。17 のゴール・169 のターゲットから構成され、地球上の「誰一人取り残さない」ことを誓っています。

さて、日野市が「SDGs 未来都市」に選定されたのと同じ頃、「G20 大阪サミット」が開催され、環境分野の重要な議題として、「気候変動問題」と合わせて、「海洋プラスチックごみ問題」が注目されました。

「海洋プラスチックごみ」とは、「海洋ごみ」の一つですが、その中でも特に多いプラスチック由来のごみのことです。

海洋に流出するプラスチックごみは、世界中で年間約 800 万トン（ジャンボジェット機 5 万機相当分）であり、海洋生物たちの誤飲による生態系への影響や 2050 年には海で生きる魚の量よりもプラスチックごみ量の方が多くなることが予測されるなど、以前から世界規模での環境汚染が危惧されてきました。

さらに、ここ最近では、プラスチックの化学的性質に着目した、「マイクロプラスチック問題」が広く認識されるようになりました。「マイクロプラスチック」とは、直径 5mm 未満のプラスチック粒子のことで、海洋に流出したプラスチックごみが、紫外線や波の衝撃などにより破碎・細分化されたもののことをいいます。

マイクロプラスチックは、海水を通して海洋生物たちの体に取り込まれますが、化学物質であるため体外に排出されず、そのまま「生体濃縮」という形で体内に蓄積されます。そして、食物連鎖の頂点に立つ私たち人間の体にも、海産物を通してマイクロプラスチックが蓄積されています。また、北極の雪の中からもマイクロプラスチックが検出されるなど、プラスチックは、既に世界中を巡っており、地球上の生き物全てへの悪影響が懸念されています。

SDGs では、「海の豊かさを守ろう」という目標が掲げられています（ゴール 14）。つまり、海洋プラスチック問題は、「世界が共有すべき深刻な課題」なのです。

海洋プラスチックごみの 8 割は、陸上に由来するものといわれています。陸上のごみが何らかの理由で河川や水路、下水などを通じて海に流れ出るのです。

日野市は、浅川・多摩川という二つの大きな河川が流れ、また 116km に渡る水路網が巡る水のまちです。これらの河川や水路が流れ着く先は海であり、道端に捨てられた菓子袋

## 1. 2020 年度の日野市の環境に関するトピックス

や洗濯による繊維くずなどが含まれた日常の生活排水にもマイクロプラスチックが含まれ、海に流れ出ています。

マイクロプラスチックは、今や地球上のあらゆる環境に拡散しており、現段階では、この問題を解決する効果的な方法は存在しません。

この問題を放置すれば、全ての人の安全な食と健康が脅かされ、また豊かな自然環境を喪失し、経済的損失が生じるなど、今の社会だけでなく、子どもや孫たちの世代にも大きな禍根を残すことになるでしょう。

このようにいうと、プラスチックそのものが非常に悪い存在のように思えますが、軽くて丈夫なプラスチックは、輸送に要するエネルギー資源の節約や、高機能包装材による賞味期限延長を通じた食品ロスの低減など、環境負荷の低減に貢献している面もあります。私たちの暮らしにとって、欠かせない製品であることも事実です。

SDGs は「環境」に関する取組だと思われがちですが、物事を「経済」「社会」「環境」という 3 つの側面から捉えることが重要なポイントとされています。

「海洋プラスチック問題」についても、「環境」だけではなく、私たちの健康、社会、経済などの面からも考える必要があります。

つまり、プラスチックに支えられている今の社会を生きる私たちには、プラスチック製品の適切な利用と廃棄を通して、正しく・賢く付き合うことが求められているのです。

これらを踏まえ、「日野市 SDGs 未来都市計画」では、環境分野において、プラスチックごみの削減に関する目標を設定しました。

具体的には、2020 年 4 月に、国分寺市・小金井市と共同で可燃ごみ処理施設を開設し、市単独でプラスチックごみのリサイクル施設を新設するなど、市民とのパートナーシップでごみの分別・資源化への取組を推進することとしています（「第二次ごみ改革」）。

さらに、同年 12 月には、環境省の「Plastic Smart」の取組に参加して「プラスチック・スマート宣言」を行い、地域の皆様と行政、市職員の一人ひとりが、プラスチックと賢く付き合っていくことを誓いました。

未来を持続可能なものにするためには、行政や企業の努力だけでなく、この社会で生活する一人ひとりが意識を持って、選択と行動をすることが必要です。

希望を持てる未来、安全・安心に暮らせる社会を実現するため、一人でも多くの皆様にこの取組に参加していただけることを願っています。

小さな一歩でも構いません。まずは、身近でできることから行動しましょう。



## (2) 新型コロナウイルスと日野市のごみ排出量について

2020 年度は新型コロナウイルスが地球規模で感染を拡大した年でした。日野市においても 2020 年 2 月に初の市内感染が確認され、2020 年度末には感染者が累計 876 人となりました。

新型コロナウイルス感染拡大により、私たちの生活や環境にも影響が出ました。特徴的なものとして、人々の移動が抑制されたことが挙げられるでしょう。数度に渡る緊急事態宣言により、私たちは可能な限り移動しないことや外に出ないことを求められ、日野市においても公共交通機関（ミニバス）の利用人数が令和元年度比で約 26.8% 下回るなど、人の移動が減じられました。

日野市はベッドタウンとして発展してきたという歴史があることから、住宅地が多いため、昼の時間帯においては通勤通学による他市への人口流出が 22,691 人（2015 年）と多いという特性があります。そのため、一般的に活動時間帯である昼間人口は 163,592 人（2015 年）と、夜間人口 186,283 人（2015 年）に比べ少ないという特性を持ちますが、新型コロナウイルスによる移動抑制の要請は、昼間人口流出を抑制する効果もあると考えられることから、2020 年度における日野市の昼間人口は近年に比べ高まっていたと考えられます。

昼間人口の増加による日野市民への影響として、市に寄せられる環境・苦情件数の増加が考えられます。2020 年度における悪臭及び騒音の苦情相談件数はそれぞれ 56 件、94 件であり、令和元年度の相談件数はそれぞれ 11 件、38 件であることから大幅に増えています。昼間人口が増えたことで、これまであまり気にならなかった悪臭や騒音が気になるケースが増えたと考えられます。

また、2020 年度は一人一日あたりのごみ排出量が増えました。2019 年度は、一人一日あたりのごみ排出量が 625g でしたが、2020 年度は 633g であり、約 1.3% の増加となります。理由として、昼間人口が増加し、宅食の増加等により一人あたりのごみの排出量が増加したと考えられます。一方 2019 年 1 月にプラスチック類の分別・収集を開始し、プラスチック類再資源化施設が稼働したことで、今まで可燃性残さとして処理していたプラスチック類を資源として 1 年間で約 3,200t 回収出来、総資源化率が 34.4% から 39.2% と 4.8 ポイント上昇しました。ごみ排出総量は増えたものの環境に与える影響を減らすことが出来ました。

このように、新型コロナウイルス感染拡大は我々の生活スタイルを変え、変化した生活スタイルが悪臭及び騒音の苦情増加や、ごみ排出量の増加という形で、環境に影響を与えたと言えるでしょう。同様に新型コロナウイルス感染拡大によって企業活動も影響を受け、企業活動の性質が変化し、企業活動が環境に与える性質も変化している可能性があります。

個人の生活スタイルや企業活動が変化するとき、ごみの排出やエネルギー消費が連動して変化し、環境に与える影響の形態も変化します。

個人の生活スタイルや企業活動が変化している影響により、我々は環境に対して負荷の大きい方向にも、環境に優しい方向にも変化してしまいます。望ましい将来の環境を維持していく上で、変化に対応した方向性を一人一人が自分自身で考え実践していきましょう。

## 1. 2020 年度の日野市の環境に関するトピックス

### (3) 黒川清流公園における湧水保全への対応について

#### ◇今までの経過

平成 30 年 7 月に黒川清流公園内湧水地にて発生した白濁・枯渇については、湧水対策検討委員会にて杭施工中に使用したベントナイトが湧水に漏洩し白濁・枯渇が発生したという原因究明がなされました。その後、杭打ち基礎工事が地下水や湧水へ与える影響の検証を行うため、モニタリング管理協議会を設置しました。

当協議会は令和元年 10 月、11 月及び令和 2 年 2 月、9 月の 4 回開催され、工事中断後の 1 年間のモニタリング結果について確認をしました。また、杭打工事再開時のモニタリング調査管理項目として工事の影響について判断するための濁度や湧水量等について協議してきました。

令和 2 年 9 月に開催された 4 回目のモニタリング管理協議会では、湧水に影響を及ぼすと考えられる濁度の基準値を 4、上限値を 10 と決めました。濁度基準値は 4 回連続で数値が超過した場合、上限値については 1 回でも数値が超過した場合には杭工事を一時中断するといった基準を設定して杭工事再開に向けた考え方となりました。

この後、10 月には事業者より（仮称）多摩平の森計画新築工事湧水白濁及び枯渇の再発防止に係る管理方針が提出され、これらを踏まえたモニタリング管理協議会としての報告書を 11 月に受領いたしました。同月に日野市は、黒川清流公園湧水白濁及び湧水枯渇の再発防止に向けた対策方針を策定し、事業者と協定書を取り交わしました。12 月に入り事業者による近隣住民説明会が開催され、日野市まちづくり条例に基づく「変更協定書」も締結されました。

令和 3 年 2 月 4 日には工事が再開され、試験杭の打設が行われ、同年 5 月には杭工事が完了しました。なお、令和 2 年度中の杭工事において黒川清流公園の湧水に異常は認められませんでした。

#### ◇モニタリング調査の結果

令和 3 年 2 月 4 日の工事再開から、日曜日等の休工日を除く日について 4 か所の湧水ポイントでのモニタリング調査を継続しております。あわせて杭工事を実施する際には杭先端位置が地下水位よりも上にあることを確認して杭打ちを実施しており、これらを記載した管理記録表によって市は管理方針に基づいた施工がされているかを確認しております。

#### ◇経過のまとめ（主に令和 2 年度のうごき）

令和 2 年 9 月 24 日 令和 2 年度モニタリング管理協議会開催

11 月 16 日 「湧水白濁及び枯渇の再発防止に係る管理方針」を含む「日野市清流保全-湧水・地下水の回復と河川・用水の保全-に関する条例に基づく湧水白濁及び湧水枯渇の再発防止に向けた協定書」締結

12 月 12 日 事業者による近隣説明会実施

12 月 25 日 日野市まちづくり条例に基づき「変更協定書」締結

## 1. 2020 年度の日野市の環境に関するトピックス

令和 3 年 2 月 4 日 工事再開（試験杭実施、杭工事着手）

### ◇日野市の対策方針の概要

- ・事業者に対して、白濁事故原因となったベントナイト（安定液）を使用させない。
- ・事業者に対して、基礎杭は羽根付き鋼管杭を使用させる。
- ・事業者に対して、モニタリング調査を徹底させ、杭の先端が地下水に触れないように管理し地下水の流れる日野礫層を貫通しない工法を採用させる。
- ・まちづくり条例及び清流保全条例の手続きを行い施工させる。
- ・事業者に対して、杭打ち基礎工事施工前 1 年間、施工中、施工後 1 年間はモニタリング調査（濁度・湧水量・地下水位）を実施させる。
- ・杭打ち基礎工事施工中、湧水の濁度管理値及び湧水量に異常が生じた際は作業を中断させ、原因を確認する。
- ・事業者に対して、清流保全条例及びまちづくり条例に基づく住民説明会を開催させ、地域住民に施工内容の周知をさせる。

### ◇今後

今回の事例により提起された反省点を検証し、令和 3 年度中に清流保全条例の改正を行う予定である。

## 1. 2020 年度の日野市の環境に関するトピックス

### (4) 公共施設の CO2 排出量削減について

#### ○市役所本庁舎及び市民会館の取組み

高効率設備を導入することにより、公共施設における CO2 排出量の削減を図ります。  
下記 4 工事を実施することにより、年間約 600 t（平成 29 年度比）の CO2 排出量削減を目指しています。

##### 【工事件名】

- ・日野市役所本庁舎空気調和設備改修工事（平成 30 年度～令和 2 年度）
- ・日野市役所本庁舎照明器具改修工事（平成 30 年度～令和 2 年度）
- ・日野市民会館空気調和設備改修工事（令和 2 年度）
- ・日野市民会館照明設備 LED 化改修工事（令和 2 年度）

##### 【空気調和設備改修工事】

ガス焚き吸収式冷温水発生機を高効率型機器に更新しました。また、冷温水ポンプと冷却水ポンプのインバータ制御、冷温水配管更新により、搬送動力の低減を図りました。

執務空間を含む各部屋においては、高効率の DC ブラシレスモーターを搭載したファンコイルユニットを導入しました。



本庁舎吸収式冷温水発生機



本庁舎ファンコイルユニット

##### 【照明器具改修工事】

安定器型蛍光灯照明器具及び誘導灯の LED 照明器具（明るさセンサー付き LED 照明器具を含む）への交換と照明器具の間引きを行いました。



本庁舎照明器具（直管型）



本庁舎照明器具（ダウンライト型）

#### ○地方公共団体カーボン・マネジメント強化事業（環境省）

本事業の補助を受けて、本庁舎及び市民会館の改修工事を実施しました。

## 1. 2020 年度の日野市の環境に関するトピックス

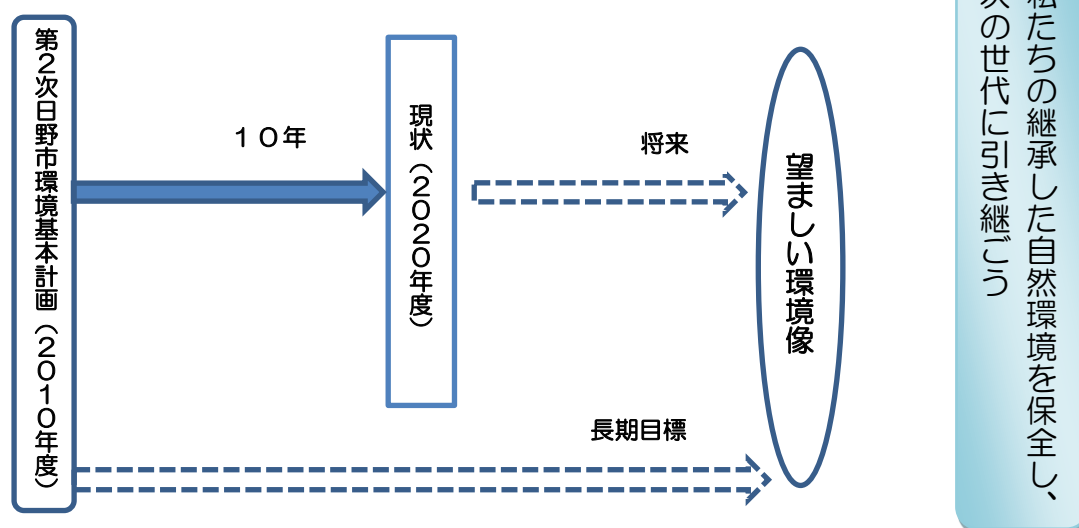
### 【事業概要】

地方公共団体実行計画及びこれに基づく取組みを強化・拡充し、先進的な取組みを行おうとする地方公共団体等に対して、カーボン・マネジメント体制の整備等を条件として、公共施設（庁舎等）への省エネ設備導入を補助するものです。

## 2. 環境基本計画目標達成状況

2011年3月に策定された「第2次日野市環境基本計画」では、“将来の望ましい環境像”が掲げられています。そして、“望ましい環境像”の実現に向けて、各分野(みどり、水、ごみ、地球温暖化、生活環境)別に、10年後に目指す環境の姿(目標)と、目標を達成するための市の取り組み(施策)が掲げられています。

これらの“望ましい環境像”の指標(環境の現状を評価する指標)および市の取組状況(施策の実施状況)が、環境基本計画の目標を達成しているかどうかの指標となっています。本白書に掲載している指標は全体で52項目です。



### 環境基本計画の計画期間と目標

ここでは、「環境の現状」「市の取組状況」「分野別目標達成状況」の順に、第3章で詳述している内容について目標達成状況の概況をとりまとめています。各指標の評価基準は以下の通りです。

| 凡例 | 評価                              | 評価の基準              |                  |
|----|---------------------------------|--------------------|------------------|
|    |                                 | 環境の現状(望ましい環境像)の指標  | 市の取組状況の指標        |
| 😊  | 達成                              | 計画目標を達成もしくは良くなる傾向  | 過去の実績を踏まえて良くなる傾向 |
| 😞  | 未達成                             | 計画目標を未達成もしくは悪くなる傾向 | 過去の実績を踏まえて悪くなる傾向 |
| ◇  | どちらとも言えない、判断できない(定量的な比較が困難なもの等) |                    |                  |

表1 本白書掲載の指標・データと目標達成状況

## 2. 環境基本計画目標達成状況

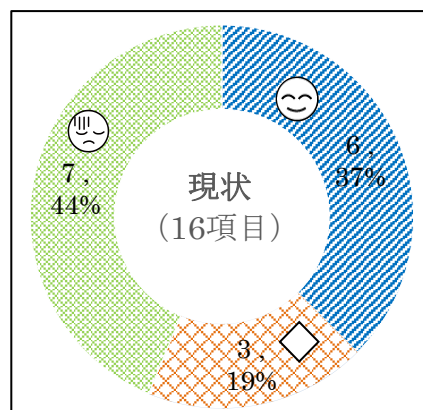
| 分野                 | 施策の方向             | 施策                     | 指標・参考データ          |                               | 達成状況                     | 掲載頁              |    |
|--------------------|-------------------|------------------------|-------------------|-------------------------------|--------------------------|------------------|----|
| みどり                | 環境の現状（望ましい環境像）の指標 |                        | 指標 1              | 土地利用現況調査「森林」の割合               | ×                        | 15               |    |
|                    |                   |                        | 指標 2              | 緑被率                           | ×                        | 15               |    |
|                    |                   |                        | 指標 3              | 農地面積                          | ×                        | 16               |    |
|                    |                   |                        | (参考 1)            | 生産緑地面積                        | -                        | 16               |    |
|                    |                   |                        | 指標 4              | 一人当たり都市公園面積                   | ×                        | 17               |    |
|                    |                   |                        | (参考 2)            | 多摩地域の一人当たり都市公園面積              | -                        | 17               |    |
|                    | 自然度の高いみどり         | 民有緑地の公有地化等の推進          | 指標 5              | 市が寄付や買収等で取得した樹林地面積            | -                        | 19               |    |
|                    |                   | 緑地管理協定等による保全の推進        | 指標 6              | 緑地信託面積                        | -                        | 19               |    |
|                    |                   | 市民緑地活動の積極的支援           | 指標 7              | 緑のトラストへの寄付件数                  | -                        | 19               |    |
|                    |                   | ボランティアによる里山の管理と活用      | 指標 8              | 雑木林ボランティア講座修了者数               | -                        | 19               |    |
|                    | 農地の保全と活用          | 市民農園等の拡充               | 指標 9              | 市民農園等の面積                      | -                        | 19               |    |
|                    |                   | 援農ボランティア制度の拡充          | 指標 10             | 援農人数                          | -                        | 20               |    |
|                    |                   | 地元野菜にふれる機会の充実          | 指標 11             | 「市」の開催日数                      | -                        | 20               |    |
|                    |                   |                        | 指標 12             | 学校給食における地元野菜等利用率              | -                        | 20               |    |
| 指標 13              |                   |                        | 給食野菜納品農業者数        | -                             | 20                       |                  |    |
| まちのなかのみどりの創出・保全    | 生け垣緑化の推進          | 指標 14                  | ウェルカムツリー、生け垣の助成件数 | -                             | 20                       |                  |    |
| 水                  | 環境の現状（望ましい環境像）の指標 |                        | 指標 15             | 浅川の平均河川流量・水位                  | △                        | 22               |    |
|                    |                   |                        | (参考 3)            | 浅川の流量測定結果                     | -                        | 23               |    |
|                    |                   |                        | 指標 16             | 月別雨量と調査地点の総湧水量                | △                        | 24               |    |
|                    |                   |                        | (参考 4)            | 湧水地点の状況                       | -                        | 24               |    |
|                    |                   |                        | 指標 17             | 各用水路の水質分析結果                   | ○                        | 27               |    |
|                    |                   |                        | 指標 18             | 河川・用水・湧水の水生生物の確認状況            | ○                        | 27               |    |
|                    |                   |                        | (参考 5)            | 水生生物による水質の生物学的判定              | -                        | 29               |    |
|                    |                   |                        | 指標 19             | 水辺に親しみやうるおいを感じる市民の割合          | ×                        | 30               |    |
|                    |                   |                        | 湧水・地下水の保全         | 地下水揚水量の把握                     | 指標 20                    | 地下水揚水量           | -  |
|                    | 雨水浸透・貯留利用の推進      | 家庭や事業所への雨水浸透・貯留施設の設置促進 | 指標 21             | 雨水浸透ます設置個数                    | -                        | 32               |    |
|                    |                   |                        | (参考 6)            | 第二次日野市バリアフリー特定事業計画の透水性舗装整備状況  | -                        | 33               |    |
|                    | 水質の保全             | 生活排水および汚水処理の施設整備       | 指標 22             | 下水道普及率                        | -                        | 34               |    |
|                    | 協働による水辺の保全・活用     | 水辺に親しむ活動の推進            | 指標 23             | 水辺イベントの開催数                    | -                        | 34               |    |
|                    |                   |                        | (参考 7)            | 「ピオトーフづくり」の取組件数               | -                        | 34               |    |
| 水辺の保全・管理活動の推進      |                   | 指標 24                  | 「用水守」の登録団体数       | -                             | 35                       |                  |    |
| ごみ                 | 環境の現状（望ましい環境像）の指標 |                        | 指標 25             | ごみ・資源排出原単位                    | ○                        | 36               |    |
|                    |                   |                        | (参考 8)            | ごみの行方                         | -                        | 37               |    |
|                    |                   |                        | 指標 26             | 総資源化率                         | △                        | 38               |    |
|                    |                   |                        | (参考 9)            | ごみ量内訳                         | -                        | 39               |    |
|                    |                   |                        | 指標 27             | マイバック持参率・レジ袋辞退率               | -                        | 41               |    |
|                    | ごみ排出量の低減          | レジ袋無料配布中止の拡大           | 指標 28             | ペットボトル、発泡トレーの行政回収率            | -                        | 41               |    |
|                    |                   | 容器包装お返し大作戦の展開          | 指標 29             | 焼却ごみの組成                       | -                        | 41               |    |
|                    | リサイクルの推進          | 分別ルールの徹底               | (参考 10)           | 焼却ごみの組成割合（湿ベース）               | -                        | 42               |    |
|                    |                   | 生ごみの家庭内循環（自家処理）の普及促進   | 指標 30             | 生ごみ減量・資源化への取組世帯数              | -                        | 42               |    |
|                    |                   |                        | 指標 31             | 生ごみリサイクルステッカー掲示世帯数            | -                        | 43               |    |
|                    | 市民・事業者への啓発        | 情報提供ツールの充実             | 指標 32             | 環境学習出前講座の実施回数                 | -                        | 43               |    |
|                    |                   |                        | 指標 33             | ごみ相談窓口への相談件数                  | -                        | 43               |    |
|                    | 協働によるごみゼロの実現      | 新聞紙の民間回収への移行           | 指標 34             | クリーンセンター見学者数                  | -                        | 44               |    |
|                    |                   |                        | 指標 35             | 新聞紙の行政回収量                     | -                        | 44               |    |
| 地球温暖化              | 環境の現状（望ましい環境像）の指標 |                        | 指標 36             | 二酸化炭素排出量                      | ○                        | 46               |    |
|                    |                   |                        | (参考 11)           | エネルギー使用量                      | -                        | 49               |    |
|                    |                   |                        | 指標 37             | 公共交通機関（ミニバス・バス）の整備率           | ○                        | 50               |    |
|                    |                   |                        | 指標 38             | 市内連絡バス（ミニバス）年間利用者数            | ×                        | 50               |    |
|                    |                   |                        | 指標 39             | 「ふだん着でCO2をへらそう宣言」の宣言数及びCO2削減量 | ○                        | 51               |    |
|                    | 省エネルギーの推進         | CO2の見える化の推進            | 指標 40             | ワットチェッカー等貸出状況                 | -                        | 53               |    |
|                    |                   | 省エネ診断の支援               | 指標 41             | 省エネ診断の参加事業者数                  | -                        | 53               |    |
|                    | 新エネルギーの導入         | 太陽光発電等導入補助の実施          | 指標 42             | 太陽光発電等の補助金による導入促進事業           | -                        | 54               |    |
| 太陽光、太陽熱、風力等の積極的な活用 |                   | 指標 43                  | 公共施設の新エネルギー導入状況   | -                             | 54                       |                  |    |
| 生活環境               | 環境の現状（望ましい環境像）の指標 |                        | (参考 12)           | 指標 44                         | 都市計画道路の整備率               | -                | 54 |
|                    |                   |                        |                   | 指標 45                         | 心やすらぐ快適な生活環境であると感じる市民の割合 | ×                | 56 |
|                    | 日常生活をとりまく環境の充実    | PRの実施                  |                   | 指標 46                         | マナーアップのための啓発活動状況         | -                | 58 |
|                    |                   |                        | 公害対策の推進           | 大気汚染物質の監視                     | 指標 47                    | 浮遊粒子状物質（SPM）年平均値 | -  |
|                    | 指標 48             | 二酸化窒素の年平均濃度            |                   |                               | -                        | 59               |    |
|                    | 指標 49             | 二酸化窒素 24 時間測定結果        |                   |                               | -                        | 59               |    |
|                    | 指標 50             | 雨の酸性度                  |                   |                               | -                        | 59               |    |
|                    | (参考 13)           | 富士山ウォッチング（富士山が見えた回数）   |                   |                               | -                        | 60               |    |
|                    | 道路交通騒音の測定および対策の実施 | 指標 51                  |                   | 道路交通騒音                        | -                        | 61               |    |
| 航空機騒音についての対策       | 指標 52             | 横田飛行場に係る航空機騒音          |                   | -                             | 62                       |                  |    |
| 放射線測定              | (参考 14)           | 市内空間放射線量測定             | -                 | 62                            |                          |                  |    |

○：達成 ×：未達成 △：どちらともいえない -：評価対象外（参考データ）

## 2. 環境基本計画目標達成状況

### (1) 環境の現状

環境の現状（望ましい環境像）を評価する指標は16指標あります。目標達成状況は前出の表1（P.9）と右の円グラフに示す通りで、16の指標のうち6指標で「達成」と評価され、「未達成」は7指標となりました。「未達成」の7指標の内訳は、「土地利用現況調査「森林」の割合」、「緑被率」、「農地面積」、「一人当たり都市公園面積」、「水辺に親しみやうるおいを感じる市民の割合」、「市内連絡バス（ミニバス）年間利用者数」、「心やすらぐ快適な生活環境であると感じる市民の割合」となりました。みどり分野において特に現状が厳しいことがうかがえます。

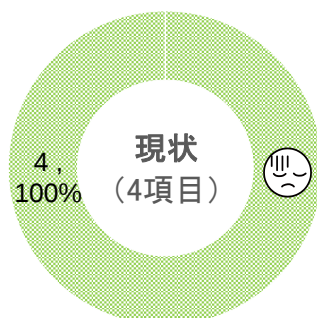


### (2) 分野別目標達成状況

😊 達成    😞 未達成    ◇ どちらともいえない

#### 〇みどり分野

みどり分野の現状（環境の現状）の目標達成状況は以下に示す通りです。現状は、4指標中全てが目標を未達成と評価されており、厳しい状況と言えます。

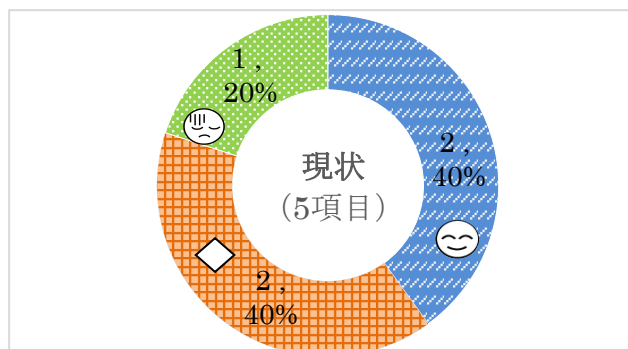


#### ここがポイント！

- 農地面積は毎年減少を続けていますが、相続が主な原因と考えられ、現在の施策では減少に歯止めをかけることが困難です。生産緑地制度など、国の法整備に準じた新たな施策に期待します。
- 一人当たりの都市公園面積は、2020年度に新たな公園の供用開始がありましたが、人口増により、減少しました。今後も継続的な都市公園面積の増加に期待します。
- 雑木林ボランティア講座の累計終了者数は、新型コロナウイルス感染拡大の影響があったものの、17人増加しました。修了生が活動するためのネットワークも立ち上がり、緑地管理への貢献が期待されます。

## ○水分野

水分野の現状（環境の現状）と取組（市の取組状況）の目標達成状況は以下に示す通りです。現状は、5 指標中 2 指標で「達成」、2 指標が「どちらともいえない」、1 指標が「未達成」でした。数字で見れば悪くない状況ですが、「どちらともいえない」と評価された「浅川の水質」については単年度での評価が難しいこともあり、引き続き注視していく必要があります。

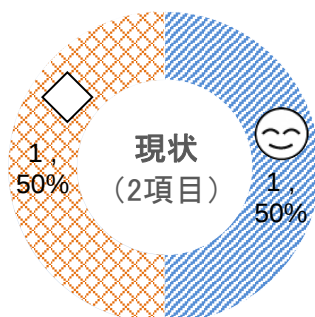


## ここがポイント！

- 下水道普及率は高い水準を保ちながら微増し、河川や用水の水質は良好です。このことで、水生生物も重要種を含む多くの種が確認されています。
- 市による湧水量調査や水生生物調査の実施、河川の清掃イベントなど、水環境保全のための取組が行なわれています。
- 水辺に親しみやうるおいを感じる市民の割合は目標である 85%を達成することが出来ませんでした。今後も良好な河川や用水の水質を維持し、水生生物を PR することで、上記割合を増加させることが期待できます。

## ○ごみ分野

ごみ分野の現状（環境の現状）の目標達成状況は以下に示す通りです。現状は、2 指標中 1 指標で「達成」、1 指標が「どちらともいえない」で、悪くない状況です。2020 年 4 月よりプラスチック類再資源化施設が本格稼働したことにより、状況が良くなることが期待できます。



## ここがポイント！

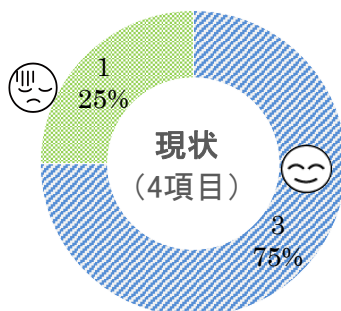
- 1 人 1 日当たりのごみ排出量は増加したものの、2020 年 1 月からプラスチック類の分別回収が始まり不燃ごみ量は減少しました。プラスチック類の資源化によりごみ排出量や資源化率が目標値に近づいていくことに期待したいところです。

## 2. 環境基本計画目標達成状況

- レジ袋辞退率について、2020年7月の全国一律レジ袋有料化の影響により、前年度から大幅に増加しました。
- 生ごみ減量・資源化への取組世帯数について、新型コロナウイルス感染拡大の影響があったものの、例年より高い水準を示しています。

### ○地球温暖化分野

地球温暖化分野の現状（環境の現状）の目標達成状況は以下に示す通りです。現状は、4指標中3指標で「達成」、1指標が「未達成」でした。新型コロナウイルス感染拡大により1つの指標が未達成となりましたが、概ね行政や市民の努力が評価できると言えます。

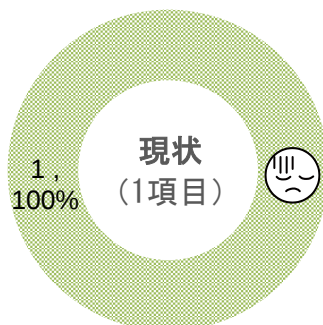


### ここがポイント！

- 二酸化炭素排出量は6年続けて減少し、中期目標(2020年度に設定)まで達成することができました。
- 「ふだん着でCO<sub>2</sub>をへらそう宣言」や「環境家計簿（エコキング）」といった、市民一人ひとりの取り組みについても多数の市民に参加いただいていることから、市民の意識の高さが評価できます。
- 新型コロナウイルス感染拡大による緊急事態宣言等により、移動の自粛が要請された結果、公共交通機関（ミニバス・バス）の利用者数が例年に比べ大幅に減少しました。

### ○生活環境分野

生活環境分野の現状（環境の現状）の目標達成状況は以下に示す通りです。現状を評価する指標は1つだけで、「未達成」と評価されています。



**ここがポイント！**

- 大気質や騒音、水質（水分野の指標）の調査結果からは良好な生活環境が維持されていると言えますが、市民意識調査の結果では、良好な生活環境が確保されていると感じる市民の割合が目標値である 50%に達することが出来ませんでした。
- 2020 年度は日野市への苦情受付件数が大幅に上昇しました。新型コロナウイルス感染拡大による在宅化進行により、今まで気にならなかった騒音等が気になるケースが増加した可能性があります。
- 「雨の酸性度」や「空間放射線量測定」といった、市民の関心が高いデータも掲載しています。

### 3. 環境の現状と取組状況の評価

ここでは、第2次日野市環境基本計画における望ましい環境像を実現する5つの分野である、みどり、水、ごみ、地球温暖化、生活環境について以下の流れで順に紹介します。

評価の凡例と基準は第2章に記載していますが、以下に再掲します。

| 凡例 | 評価  | 評価の基準                           |
|----|-----|---------------------------------|
|    |     | 環境の現状（望ましい環境像）の指標               |
| ☺  | 達成  | 計画目標を達成もしくは良くなる傾向               |
| ☹  | 未達成 | 計画目標を未達成もしくは悪くなる傾向              |
| ◇  |     | どちらとも言えない、判断できない(定量的な比較が困難なもの等) |

#### (1) 環境の現状

第2次日野市環境基本計画では、分野ごとに現在の環境（環境の現状）を評価する「環境の状況を測る指標と目標」が設定されています。これらの指標の目標年度の多くは、計画策定時から10年後の2020年度としており、本白書で年度ごとに各数値を確認することにより、「望ましい環境像」に近づいているかを把握することができます。ここでは、指標ごとに現在までの推移をグラフや表にまとめています。

なお、ごみ分野については「第3次日野市ごみゼロプラン（2017（平成29）年3月）」で定められた目標年度と目標値を2016年度以降適用していきます。

#### (2) 市の取組状況

第2次日野市環境基本計画で施策として位置付けられた取り組みについて資料として表にまとめました。

なお、第2次日野市環境基本計画により2020年度の目標が設定されている指標については目標値を掲載し、評価の参考としました。また、ごみ分野に関しては、「第3次日野市ごみゼロプラン（2017（平成29）年3月）」で目標値が定められているものについてはその値を掲載しています。

# みどり分野

< 目 標 >

## みどりの原風景をつなぐまち

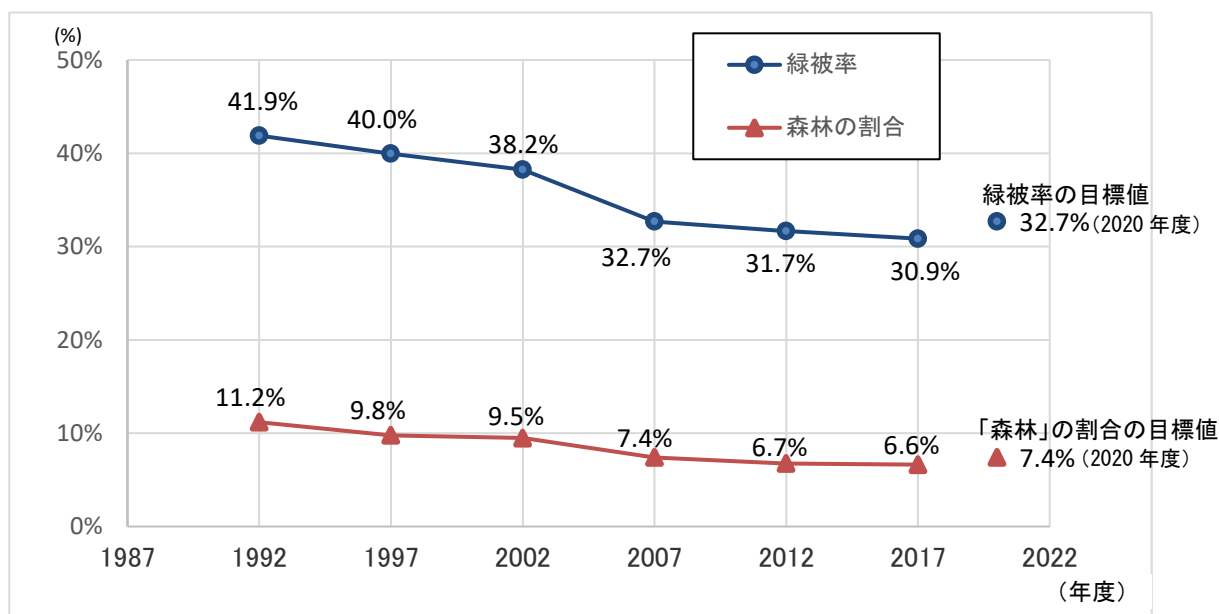
### 1. <環境の現状>

#### 1.-1 土地利用現況調査「森林」の割合と緑被率

指標 1: 土地利用現況調査「森林」の割合〔5 年毎調査〕

指標 2: 緑被率〔5 年毎調査〕

森林の割合  
目標値: 7.4%  
緑被率  
目標値: 32.7%  
(2020 年度)



環境基本計画では、みどり全体の量の保全を目指しています。みどりの量を計る指標である緑被率と、その中でも自然度が高い「森林」（樹木樹林被覆地）の割合については、2007 年度数値の維持を目標として掲げています。

調査は 5 年ごとに実施しており、本白書では直近の 2017 年のデータを掲載しています。なお、次回調査は 2022 年を予定しています。

2017 年度の「森林」の割合は 6.6% で、2012 年度に比べ 0.1 ポイント減少しました。また、緑被率も 30.9% と 0.8 ポイント減少しています。

日野市では、民有緑地の公有地化（指標 5）や緑地信託制度（指標 6）、住宅地の生け垣等緑化の促進（指標 14）により緑地の確保に努めていますが、森林の割合は減少傾向が続いています。また、後述の農地面積（指標 3）の目標未達成に見るように、農地の減少も緑被率減少の一因と思われます。

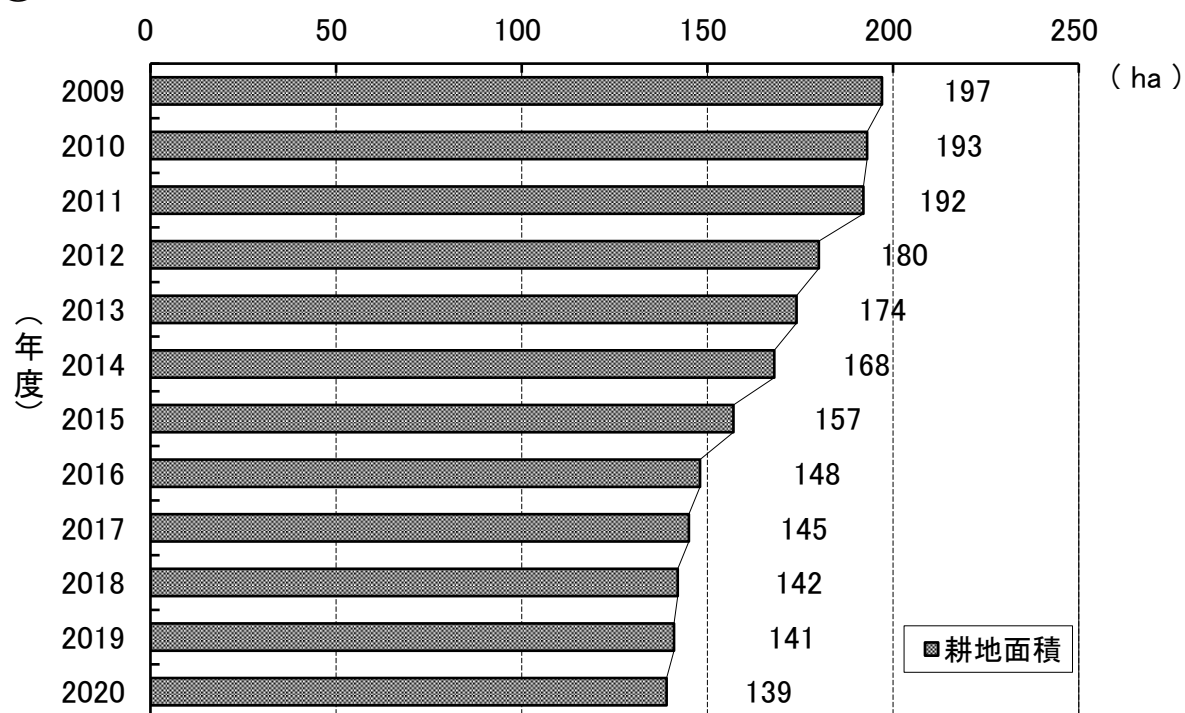
2019 年 4 月に改定された日野市まちづくりマスタープランでは、複数の緑地保全施策の方向性をあげており、それらに基づき各主体が協働することで日野市の良好なみどりを保全することが望まれます。

## 1.-2 農地面積

目標値:160ha

(2020 年度)

③ 指標 3 : 農地面積 ※農林水産省発表の耕地面積の数値を使用

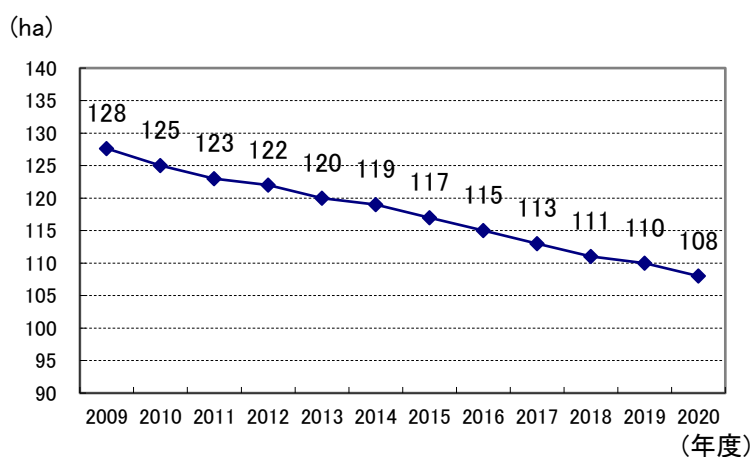


農地は年々減少し、2015年度には157ha と目標値を割り込んでしまいました。2016年度以降も減少傾向は続き、2020年度では139ha となり、目標値である160ha を下回りました。

農地減少の主な原因は、農業後継者不足により農地を維持することが出来ず相続の際に宅地化してしまうことと考えられます。

日野市では「生産緑地地区」について、指定の条件となる面積要件を緩和して追加指定を促しています。貸借などの政策を実施していますが、生産緑地の面積も毎年減少が続いています（参考1）。また、当初指定の1992年（平成4年）から30年が経過する、2022年（令和4年）が目前に迫っています。引き続き都市農地の保全を図るため、当初指定の生産緑地の所有者に対して、優遇装置を10年延伸できる特定生産緑地指定推奨の取り組みを進めています。

（参考1）生産緑地面積



### 生産緑地地区とは

市街化区域内において緑地機能及び多目的保留地機能の優れた農地等を計画的に保全し、良好な都市環境の形成に資することを目的として定める都市計画の制度。

都市農地として「あるべきもの」として位置づけ、一定の要件を満たす一団の農地について、都市における農地等の適正な保全を図る。

生産緑地制度については、特定生産緑地指定推奨などの取り組みが行われている。

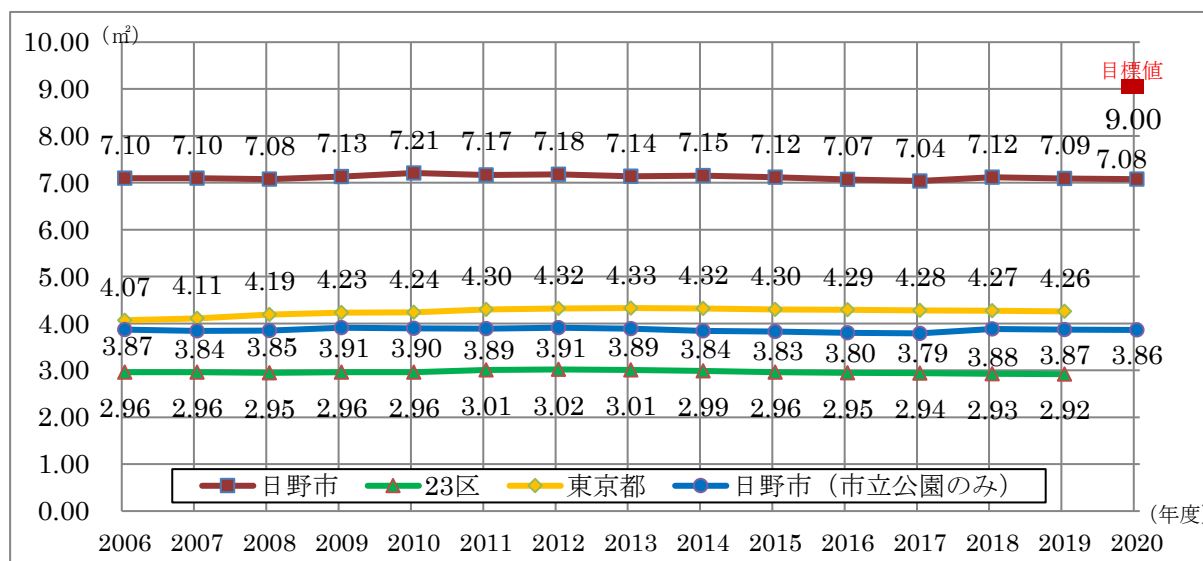
# 1. 3市民一人当たり都市公園面積

目標値：9.00 m<sup>2</sup>/人

(2020 年度)

## 指標 4：一人当たり都市公園面積

一人当たり都市公園面積は、2020 年度は前年度より 0.01 m<sup>2</sup>減少し 7.08 m<sup>2</sup>となりました。日野市の総人口が増加傾向にある中、目標を達成することは出来ませんでした。目標値である 9.00 m<sup>2</sup>/人を達成するためには、2020 年 4 月日野市人口を基準とすると都市公園面積を約 35.9ha 増加させる必要があります。2020 年度には川原畑北公園など 0.046ha を供用開始するなど、都市公園面積の増加に努めています。



※23 区と東京都は、本書編集時点で最新となる 2019 年度までの数値を掲載しています。

### 都市公園とは

下記に該当する公園または緑地である。

- ・都市計画施設である公園又は緑地で、国又は地方公共団体の設置するもの。
- ・都市計画法による都市計画区域内において、地方公共団体が設置する公園又は緑地。

### (参考 2) 多摩地域の一人当たり都市公園面積

(2020 年 4 月 1 日現在)

| 10 m <sup>2</sup> 以上 | 7 m <sup>2</sup> 以上 | 4 m <sup>2</sup> 以上 | 4 m <sup>2</sup> 未満 |
|----------------------|---------------------|---------------------|---------------------|
| 瑞穂町(37.77)           | 昭島市(9.9)            | 府中市(6.83)           | あきる野市(3.75)         |
| 武蔵村山市(17.46)         | 町田市(9.86)           | 小金井市(6.32)          | 日の出町(3.26)          |
| 多摩市(15.91)           | 立川市(9.37)           | 羽村市(6.2)            | 三鷹市(3.1)            |
| 八王子市(11.97)          | 東大和市(8.27)          | 調布市(5.15)           | 小平市(2.63)           |
| 稲城市(10.96)           | 福生市(7.04)           | 東村山市(5.26)          | 東久留米市(2.22)         |
|                      |                     | 青梅市(4.53)           | 国立市(2.05)           |
|                      |                     | 武蔵野市(4.15)          | 国分寺市(1.74)          |
|                      |                     |                     | 狛江市(1.27)           |
|                      |                     |                     | 西東京市(1.33)          |
|                      |                     |                     | 清瀬市(0.67)           |

※指標 4 と「多摩地域の一人当たり都市公園面積」では出典が異なるため、参考として他自治体の状況を掲載しています。

## 2. <市の取組状況>

| 目標          | 施策<br>の方向 | 施策                 | 具体的な取組            | 実施状況                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                         |
|-------------|-----------|--------------------|-------------------|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 緑の原風景をつなぐまち | 自然度の高いみどり | 丘陵地・斜面緑地等の保全       | 民有緑地の公有地化等の推進     | 国費、都費を導入し、約 4,309 m <sup>2</sup> の用地買収を行なった。<br>(緑と清流課)<br>→指標 5(P19)                                                                                                                                                                                                                                                                                                                        |
|             |           |                    | 緑地管理協定等による保全の推進   | 緑地信託、緑地協定ともに新規追加はないが、土地所有者と協働・連携し、みどりの保全推進を図った。<br>(緑と清流課)<br>→指標 6(P19)                                                                                                                                                                                                                                                                                                                     |
|             |           |                    | 市民緑地活動の積極的支援      | 2020年度の「ひの緑のトラスト」の寄付は無かったが、この運動の発端となった新葉山緑地(真堂が谷戸)の取得は2018年度に公有地化済み。<br>(環境保全課)<br>→指標 7(P19)                                                                                                                                                                                                                                                                                                |
|             |           |                    | 「残したいみどり」の選定      | 今後の緑地保全の方向性について、第2次環境基本計画推進会議「みどりグループ」で検討を行なった。<br>(緑と清流課)                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                   |
|             |           | 里山文化の継承を兼ねた管理体制    | ボランティアによる里山の管理と活用 | 雑木林を守るための専門的な知識と技術を持ったボランティアを育成するため、雑木林ボランティア講座を実施した。本講座は2005年度より開始され、2020年度で第16期目となり、受講生は18名であった。<br>講座は南丘雑木林を愛する会を中心に、主催である水と緑の日野市民ネットワークに加入している団体や大学教授からの講義、道具を使用しての体験学習を行った。(年9回)。結果2020年度は17名が課程を修了し、3月の修了式で初級日野市雑木林管理士の修了証を交付。7名の修了生が雑木林お助けネットワークに登録した。また、2019年度に引き続き、東豊田緑地保全地域等を活動の拠点として緑と清流の保全リーダーの育成と地域づくりへの参加を促すことを目的とした、黒川マイスター講座を全11回実施し、黒川マイスター認定者は6名であった。(緑と清流課)<br>→指標 8(P19) |
|             | 農地の保全と活用  | 農のある風景の保全          | 市民農園等の拡充          | 低利用の宅地化農地を市民農園として利用していくほか、生産緑地でも開設可能な農業体験農園として活用するなど民設の農園も増やすことで、市民の農業体験機会を創出するとともに、農地の保全に努める。<br>・市営市民農園は10園597区画15,504m <sup>2</sup> 現状維持<br>・民営市民農園1園開園 合計3園37区画3,221m <sup>2</sup><br>・農業体験農園は4園7,024m <sup>2</sup> で現状維持<br>(都市農業振興課)<br>→指標 9(P19)                                                                                                                                     |
|             |           |                    | 援農ボランティア制度の拡充     | 2005年1月に「農の学校」を開校し、現在までに16期合計270名の援農ボランティアを輩出した。卒業生はNPO法人日野人・援農の会に所属し、ボランティア活動を行なっている。また、NPO法人日野人・援農の会により、土・日等の休日に援農ができる方などを対象に1年単位で実習を行い、終了後に援農ボランティアとして活動する「野菜栽培塾」を開催。<br>2020年度は103名が42農家で援農。2021年度は17期生22名が受講予定。<br>(都市農業振興課)<br>→指標 10(P20)                                                                                                                                             |
|             |           | 地産地消による生産流通システムの確立 | 地元野菜にふれる機会の充実     | 農産物の流通過程におけるCO <sub>2</sub> 排出量を削減するための「市(いち)」や直売所などの既存の機会や施設を活かし、さらにスーパーや駅前など、あらゆる場所で地元野菜を購入できるようなネットワークを構築する。また、日野産野菜を積極的に購入してもらうための制度など、ソフト的な取り組みも検討する。<br>・学校給食で日野産野菜を積極的に利用しており、2020年度の利用率は31.8%であった。<br>・市役所本庁舎1階ロビーにて毎月第2、第4木曜日にファーマーズセンター「みのり処」の出張販売を行ない、来庁者への販売を行なっている。また、ファーマーズセンターにて市内農産物を使用したランチの提供も行なっている。<br>(都市農業振興課)<br>→指標 11.12.13(P20)                                    |
|             |           | 民有地等の緑化            | 生け垣緑化の推進          | ブロック塀撤去と生け垣設置補助に関する実態を把握し、より使いやすい補助制度を検討する。また、地域で生け垣緑化に取り組むモデル事業などを実施するとともに、地区計画で生け垣設置を推奨する。<br>2020年度は、ウェルカムツリー補助16件、生け垣補助2件を実施した。<br>(緑と清流課)<br>→指標 14(P20)                                                                                                                                                                                                                                |

|             |                |               |                 |                                                                                  |                                                                                                                                                                                                     |
|-------------|----------------|---------------|-----------------|----------------------------------------------------------------------------------|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 緑の原風景をつなぐまち | 協働によるみどりの保全・創出 | みどりに関する普及啓発   | 市民・事業者への情報提供・PR | 農地を含むみどりの保全・創出の大切さや、みどりの良さを市民と協働で整理し、市民・事業者へPRする。また、窓口での相談や、緑地に関する講習会等を実施する。     | まちの緑化事業として、市民参加のもと毎年コスモスアベニュー事業に取り組んでいたが、新型コロナウイルスによる健康への影響を考慮し市民参加で実施することが出来なかった。そのため、市が市民に緑化推進の啓発や花や緑に親しんでもらえるように、コスモスやチューリップの植え付け等を実施した。(公財)日野市環境緑化協会を通じ、春秋に花の苗木や球根を配布、緑化に関する講習会等を実施している。(緑と清流課) |
|             |                | 協働によるみどりの実態把握 | みどり・生き物マップの作成   | 市民参加のもと、市域の植生や街路樹・生け垣等の樹種、みどりの連続性、外来種の侵入状況などの現状を調査してマップを作成し、今後の取り組みの基礎資料として活用する。 | 今後の市民参加によるマップ作りのため、植生調査を行った。また、水と緑のつながりを学び、その重要性を再認識した。(緑と清流課)                                                                                                                                      |

## 資料編

### 2-1 自然度の高いみどりの保全 関連

(指標 5)：市が寄付や買収等で取得した樹林地面積

| 年度<br>種別※ | 2016 | 2017 | 2018 | 2019 | 2020 | 2001 年度以降累計 |
|-----------|------|------|------|------|------|-------------|
| 寄付 (ha)   | 0.02 | 1.23 | —    | —    | —    | 18.20       |
| 買収 (ha)   | 0.37 | 0.34 | 0.35 | 0.41 | 0.43 |             |

※種別には、ほかに「区画整理」、「無償貸付」があります。

(指標 6)：緑地信託面積

| 年度        | 2016 | 2017 | 2018 | 2019 | 2020 |
|-----------|------|------|------|------|------|
| 合計面積 (ha) | 4.88 | 4.19 | 4.10 | 4.10 | 3.94 |

(指標 7)：緑のトラストへの寄付件数

| 年度       | 2016 | 2017 | 2018 | 2019 | 2020 | 累計件数  | 累計金額※       |
|----------|------|------|------|------|------|-------|-------------|
| 寄付件数 (件) | 13   | 3    | 1    | 1    | 0    | 1,620 | 3,417,947 円 |

※2009 年度以降の累計金額

(指標 8)：雑木林ボランティア講座修了者数

| 年度      | 2016 | 2017 | 2018 | 2019 | 2020 | 2005 年度以降累計 |
|---------|------|------|------|------|------|-------------|
| 修了者 (人) | 26   | 27   | 16   | 23   | 17   | 352         |

### 2-2 農地の保全と活用 関連

(指標 9)：市民農園等の面積

| 年度            | 2016 | 2017 | 2018 | 2019 | 2020  |
|---------------|------|------|------|------|-------|
| 市民農園等の面積 (ha) | 2.51 | 2.51 | 2.41 | 2.41 | 2.57※ |

※2020 年度市民農園等の面積内訳

|       | 市民農園（市が開設） | 市民農園（民営） | 農業体験農園 |
|-------|------------|----------|--------|
| 数（園）  | 10         | 3        | 4      |
| 面積（㎡） | 15,504     | 3,221    | 7,024  |

（指標 10）：援農人数

| 年度      | 2016 | 2017 | 2018 | 2019 | 2020 |
|---------|------|------|------|------|------|
| 援農人数（人） | 90   | 99   | 98   | 99   | 103  |

（指標 11）：「市」の開催日数

| 「市」の開催場所(2020 年度)  | 区分     | 開催時期                | 開催日数  |
|--------------------|--------|---------------------|-------|
| みなみの恵み             | 共同直売所  | 通年、木～火曜             | 292   |
| マルシェひらやま（平山農産物直売所） | 共同直売所  | 通年、月～土曜             | 292   |
| JA 七生地区農産物直売所      | 共同直売所  | 通年、月～土曜             | 292   |
| 日野市立七ツ塚ファーマーズセンター  | 共同直売所  | 通年、月～日曜             | 359   |
| 日野駅東側広場            | 定期即売会  | 通年、火・木・土曜           | 155   |
| 多摩平第七公園            | 定期即売会  | 通年、火・木・土曜           | 155   |
| 日野市役所（NPO 法人めぐみ）   | 定期即売会  | 月 2 回 第 2 木曜・第 4 木曜 | 24    |
| 暮れの野菜即売会           | 定期即売会  | 1 2 月下旬             | 2     |
| ブルーファーマーズ若手農業者即売会  | イベント販売 |                     | 2     |
| 合計                 |        |                     | 1,573 |

（指標 12）：学校給食における地元野菜等利用率

| 年度     | 2016 | 2017 | 2018 | 2019 | 2020 |
|--------|------|------|------|------|------|
| 利用率（％） | 25.6 | 27.2 | 29.8 | 28.1 | 31.8 |

（指標 13）：給食野菜納品業者数

| 年度     | 2016 | 2017 | 2018 | 2019 | 2020 |
|--------|------|------|------|------|------|
| 業者数（人） | 42   | 44   | 42   | 41   | 40   |

## 2-3 まちなかのみどりの創出・保全 関連

（指標 14）：ウェルカムツリー、生け垣の助成件数

| 年度       | 2016 | 2017 | 2018 | 2019 | 2020 | 累計件数※ |
|----------|------|------|------|------|------|-------|
| ウェルカムツリー | —    | 8    | 17   | 13   | 16   | 183   |
| 生け垣（件）   | 3    | 3    | 1    | 5    | 2    |       |

※2001 年度以降の累計

### 3.<市民コメント>

白書の数字をみていて、ほぼ横ばいで推移しているのは公園の面積、これは都市計画上あまり減る要素はないでしょう。しかし、緑被率や農地面積の減少は、私有地も含まれるという性質上、今後も歯止めがかからないでしょう。緑豊かだと思っていた日野市も緑被率は少しずつ減少しているのが現実の姿です。多摩地域にあって、農地と雑木林、背後に丘陵地が織りなす魅力的な景観の広がりも、無秩序に林立するマンション群や、区画整理による画一的な住宅開発によって、すっかり変わりつつあります。日本中どこにでも見られる、郊外の住宅地の景観へと変わってきているように感じます。

環境基本計画に「原風景を守ろう」という趣旨のことが書かれていたように思いますが、原風景とは、いつの時代の風景を指しているのでしょうか。明治時代でしょうか。しかし、現在の頃の風景を知る人はほとんどいません。昭和30年代の、高度成長が始まる前の風景が、おそらく急激に変化を始める直前であったはずですが、でも、そうした時代の風景を知る人は、年月の進行とともにどんどんいなくなります。昭和40年代、昭和50年代の急速に緑が失われた時代の景色がこれからの人にとっての原風景になるでしょう。

コロナ禍が続く中、みどりグループの活動もほとんど進まず、第3次環境基本計画の策定作業もいつの間にかうやむやになり、情報も入ってこないままです。みどりを守ること、あるいはみどりを育てることは、街づくりでもあります。新しい世代の人たちが増えていく中で、どんな街にしたいのか、改めて考える必要があるのだと思います。

単に面積を維持することがもはや難しいということならば、緑の質、中身をよくしていくという方向もあります。人の手が入らなくなった、荒れた雑木林や緑地を人が気持ちよく歩ける、生きものがたくさん住む雑木林や緑地に変えていくこともその一つでしょう。コロナ禍で行き場の失った人たちは、河原や公園に多く集まりました。やはり人は緑との触れ合いや、自然とのふれあいがどうしても必要なのです。それが今回は浮き彫りになりました。身近な緑、身近な自然は市民一人一人の共通の財産、今回それがどれだけありがたいかを知ることのできたいい機会でした。だからこそ、多くの市民と一緒に今後の日野市のみどりについて考えなければならないのだと思います。

# 水分野

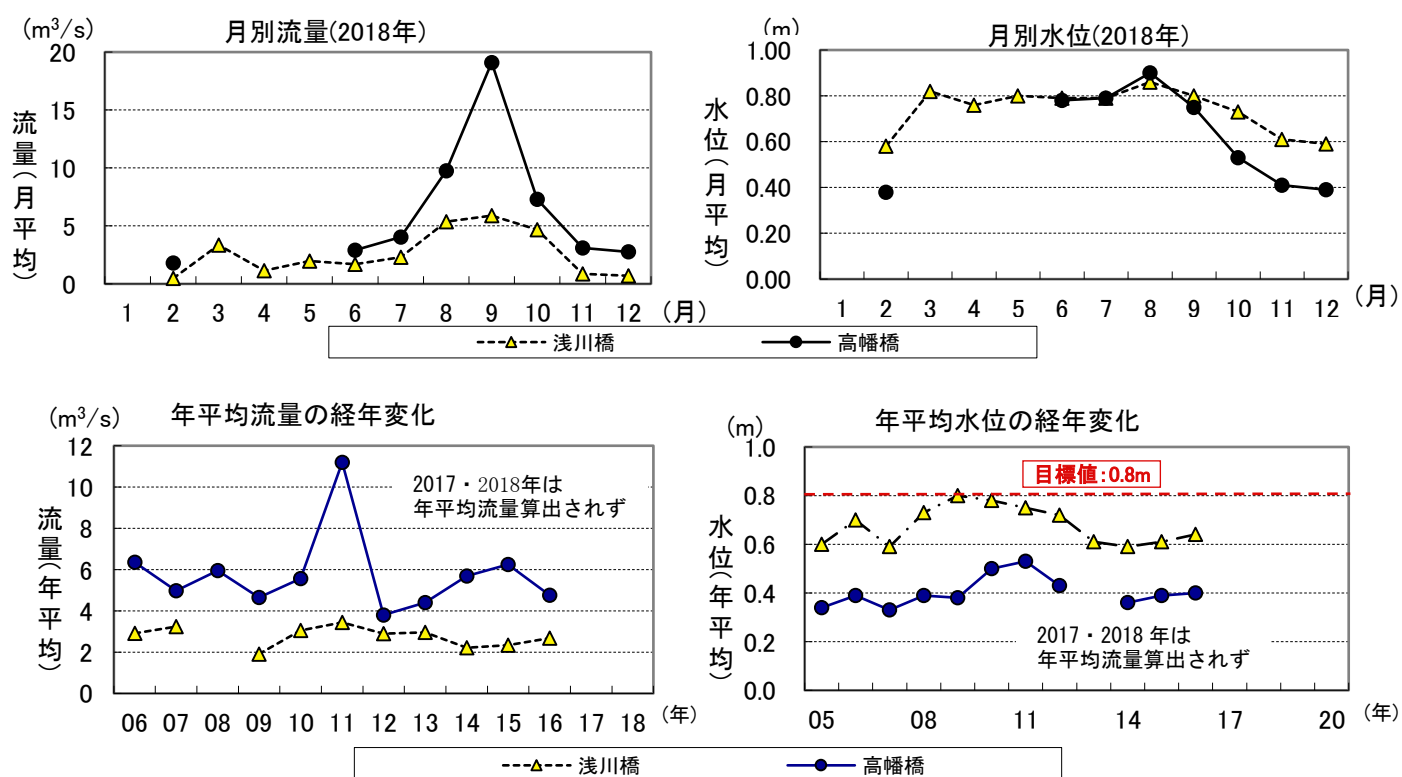
## < 目 標 > 水文化を伝えるまち

### 1. <環境の現状>

#### 1-1 浅川の水位

◇ 指標 15 : 浅川の平均河川水量・水位

目標値: 【浅川橋】年平均 0.8m  
(2020 年度)



執筆時点で最新データである浅川橋、高幡橋の 2018 年の水量、水位については、水位計の土砂の堆積の状況が改善されておらず、年平均値は欠測と整理されています。計測可能であった期間の月平均流量最大値は浅川橋で 9 月に  $5.89\text{m}^3/\text{s}$ 、高幡橋で 9 月に  $19.1\text{m}^3/\text{s}$ 、また最小値は浅川橋で 2 月に  $0.47\text{m}^3/\text{s}$ 、高幡橋で 2 月に  $1.80\text{m}^3/\text{s}$  となりました。月平均水位の最大値は浅川橋で 8 月に 0.86m、高幡橋で 8 月に 0.90m、月平均水位の最小値は浅川橋で 2 月に 0.58m、高幡橋で 2 月に 0.38m となりました。月別流量・水位を見ると 2017 年と比べ多くなっていますが、目標値を満足しているかどうかは判断できない状況です。

日野市内を流れる浅川の水源の一つになっている八王子市北野処理場の分流式分が 2015 年 7 月に流域下水道に編入されたことにより、日野市内を流れる浅川の水量は 1 日に約 2 万  $\text{m}^3$  減少したことになります。さらに 2021 年 1 月に残る合流区域についても流域下水道に編入され、浅川の水量は更に減少しま

した。これは日野市にとって大きな問題ですが、それに対処するために浅川流域一帯で雨水浸透を促進し、浅川へ湧水・地下水の流入を増加させることが大切です。

なお、日野市では、浅川の水量減少に対処するプロジェクトチーム(PT)が 2016 年度に発足し、日野市内の浅川流量測定を実施しています(参考3)。

### (参考 3) 浅川の流量測定結果

#### ○ 日野市浅川 PT による流量測定結果

浅川の水量減少と水位低下の課題に対処するプロジェクトチーム (PT) が 2016 年度に発足し、流量測定を実施している。PT の構成は環境共生部 (緑と清流課、環境保全課、下水道課) である。

#### 【2020 年度の測定日・測定場所・参加者】

第 9 回 2020 年 10 月 6 日 午前 場所 一番橋上流 約 320m

#### 【測定方法】

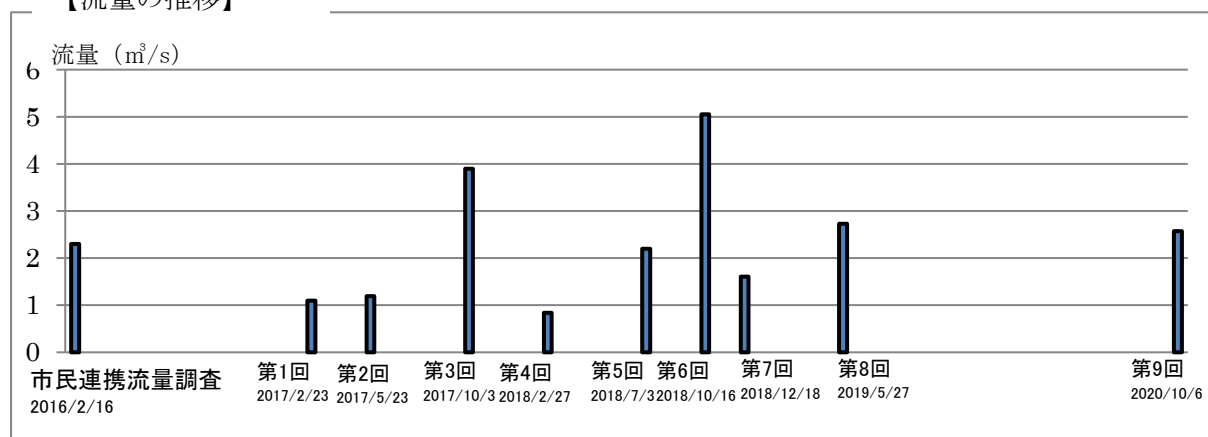
1m ごとに水深、各中間地点で流速(電磁流速計 東邦電探 CMT-10C 型)をそれぞれ測定し、各区分の流量を求め、各区分の流量を合計して全流量を求めた。水深が浅く流速計が使用できない箇所では浮子の 1m の流下時間より流速を求めた。

#### 【測定結果】(過去の測定結果を含む)

| 測定日                    | 川幅 (m) | 水深 (c m)    | 流速 (m/s)     | 流量 (m <sup>3</sup> /s) |
|------------------------|--------|-------------|--------------|------------------------|
| 市民連携流量調査 (2016. 2. 16) | 33. 0  | —           | 0. 2～0. 61   | 2. 3                   |
| 第 1 回 (2017. 2. 23)    | 18. 5  | 6. 4～22. 5  | 0. 14～0. 61  | 1. 10                  |
| 第 2 回 (2017. 5. 23)    | 18. 6  | 6. 3～22. 3  | 0. 13～0. 65  | 1. 19                  |
| 第 3 回 (2017. 10. 3)    | 24. 9  | 11. 0～35. 0 | 0. 018～0. 38 | 3. 90                  |
| 第 4 回 (2018. 2. 27)    | 14. 8  | 1. 5～74. 3  | 0. 0～0. 25   | 0. 84                  |
| 第 5 回 (2018. 7. 3)     | 13. 9  | 0. 0～35. 0  | 0. 30～1. 02  | 2. 20                  |
| 第 6 回 (2018. 10. 16)   | 33. 0  | 11. 5～43. 0 | 0. 35～0. 79  | 5. 05                  |
| 第 7 回 (2018. 12. 18)   | 33. 0  | 0. 0～32. 5  | 0. 0～0. 74   | 1. 61                  |
| 第 8 回 (2019. 5. 27)    | 25. 0  | 0. 5～41. 5  | 0. 41～0. 99  | 2. 73                  |
| 第 9 回 (2020. 10. 6)    | 9. 83  | 0～52. 0     | 0. 0～0. 95   | 2. 57                  |

※第 1 回～第 4 回の流速の測定には、電磁流速計 TAHAYA UC-204 を使用した。

#### 【流量の推移】



### 3. 環境の現状と取組状況の評価

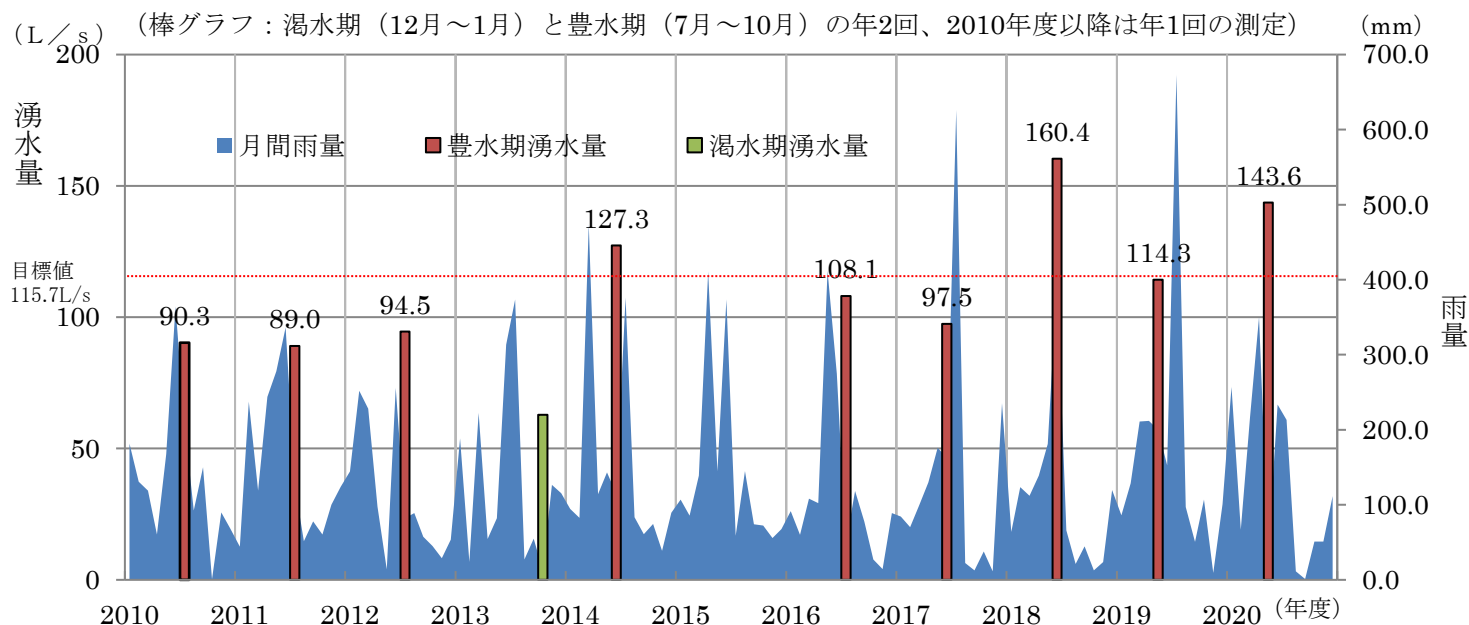
#### 1-2 湧水確認地点数・湧水量

目標値:【地点数】179箇所

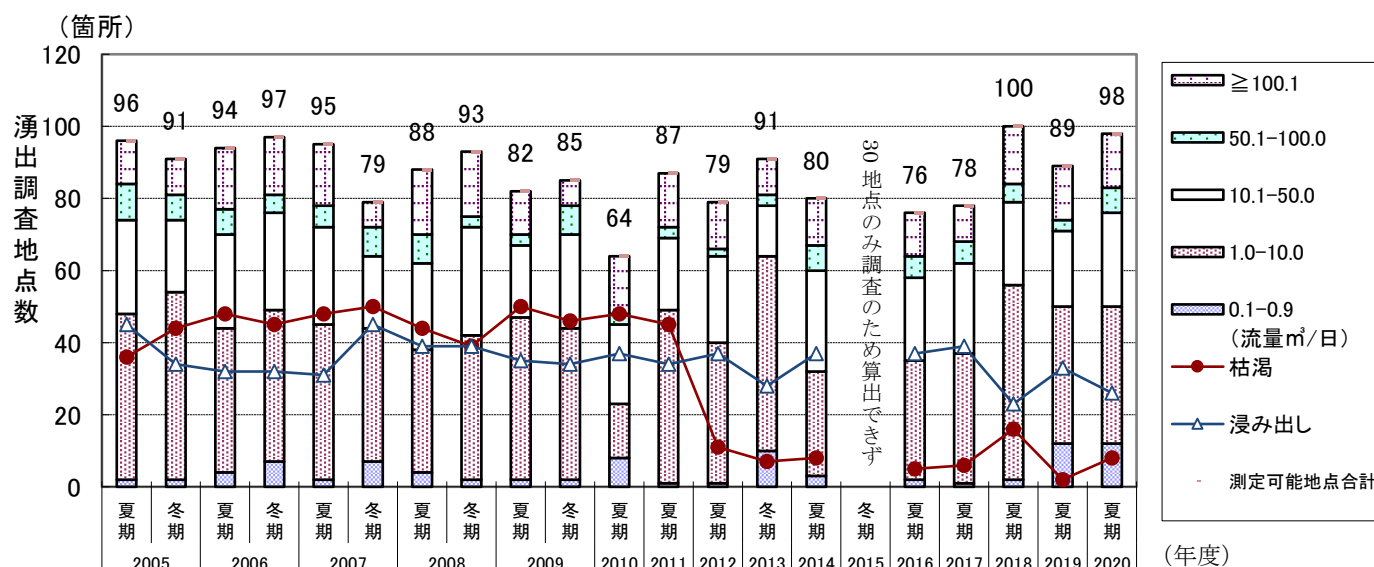
【湧水量】10,000t/日 (115.74L/s)

(2020年度)

◇ 指標 16 : 月別雨量と調査地点の総湧水量



(参考 4) 湧水地点の状況



2020年の日野市内全域の総湧水量調査(湧水現況調査)は2020年8月24日～29日の間に実施されました。湧水量を調査した地点数は147地点でしたが、実際に湧水量を測定できた地点は101地点となりました。総湧水量は12,407 m³/日(143.604L/秒)となりました。この値は湧水量調査報告書(2021年4月)の中から七生中学校と豊田小学校の自噴水、浅川河岸(測定不能)、東平山公園の4地点を除外したものです。前年の総湧水量調査は2019年7月9日～7月30日の間に実施され、総湧水量は9,876

m<sup>3</sup>/日 (114.3 L/秒)であり、今回の結果は前年より降水量は少なかったものの、湧水量は多くなりました。

調査した 147 地点の中で、「浸みだし・溜り」や「枯渇」などの地点は 34 地点となり、全地点の約 23.1% に達しました。

2020 年度の降水量(気象庁八王子観測地点)は 1,601mmであり、2019 年度の 2,028mm より少なくなりました。とくに 8 月の降水量は 37mm と少なく、この影響で年度降水量が少なくなったと考えられます。

総湧水量の 2011 年以降の経年変化を表1に示します。各年度で調査時期が異なりますが、2018 年度に最も多く(13,853 m<sup>3</sup>/日)、2013 年度に最も少なくなりました(5,430 m<sup>3</sup>/日)。湧水量に関連する降水量は、2012 年度は 2011 年度に比べ少なくなりましたが、総湧水量はやや増加していました。また 2017 年度の湧水量は 2016 年度より少なくなりましたが、降水量は多くなっていました。これらの原因として調査時期やその降水量の違いおよび調査地点の変化などが考えられます。2015 年度は 30 地点のみで調査されたため、総湧水量を算出することができませんでした。

表 1 総湧水量の経年変化 (2011 年度～2020 年度)

| 調査年月                   | 総湧水量 (m <sup>3</sup> /日) (L/s) | 年度降水量 (mm) |
|------------------------|--------------------------------|------------|
| 2011 年 7 月～8 月         | 7,690 (89.0)                   | 1,799      |
| 2012 年 7 月～9 月         | 8,165 (94.5)                   | 1,344      |
| 2013 年 12 月～2014 年 2 月 | 5,430 (62.8)                   | 1,595      |
| 2014 年 9 月～11 月        | 10,399 (127.3)                 | 1,745      |
| 2015 年 2 月             | 算出できず                          | 1,733      |
| 2016 年 10 月～11 月       | 9,340 (108.1)                  | 1,422      |
| 2017 年 9 月             | 8,425 (97.5)                   | 1,669      |
| 2018 年 7～8 月           | 13,855 (160.4)                 | 1,306      |
| 2019 年 7 月             | 9,876 (114.3)                  | 2,028      |
| 2020 年 8 月             | 12,407 (143.6)                 | 1,601      |

湧水の状況を湧水量ごとに分け整理すると次のようになります(表2)。

湧水量が 100.1 m<sup>3</sup>/日以上 (1.16L/秒以上)の地点数は 15 地点で全体の 10.2%となりました。湧水量が 1.0～10 m<sup>3</sup>/日 (0.01～0.12L/秒)の地点数が最も多く、38 地点で全体の 25.9%となりました。

表 2 湧水量ごとの地点数

| 総湧水量 (m <sup>3</sup> /日) |            | 地点数 | 割合 (%) |
|--------------------------|------------|-----|--------|
| (m <sup>3</sup> /日)      | L/秒        |     |        |
| 100.1 以上                 | 1.16 以上    | 15  | 10.2   |
| 50.1～100                 | 0.58～1.15  | 7   | 4.3    |
| 10.1～50                  | 0.12～0.57  | 26  | 17.7   |
| 1.0～10                   | 0.01～0.12  | 38  | 25.9   |
| 0.1～0.9                  | 0.001～0.01 | 12  | 8.2    |
| 測定可能な地点合計 (3 地点を除外)      |            | 98  | 66.7   |
| 浸み出し・溜り                  |            | 26  | 17.7   |
| 枯渇                       |            | 8   | 5.4    |
| その他(測定不能)                |            | 11  | 7.5    |
| 測定不可能な地点合計 (1 地点を除外)     |            | 45  | 30.6   |
| 集計から除外                   |            | 4   | 2.7    |
| 調査地点総計                   |            | 147 | 100.0  |

### 3. 環境の現状と取組状況の評価

湧水の状況を地域別に分けて整理すると次のようになります(表3)。

黒川清流公園など日野台地上位面(100m 崖線)からの湧水地点数は 39 地点で全体の 26.5%ですが湧水量は全体の 66.2%を占めました。中央図書館下など日野台地下位面(80m 崖線)からの湧水地点数は 20 地点で全体の 13.6%、湧水量は全体の 28.8%になりました。一方、小沢緑地など多摩丘陵からの湧水地点数は 84 地点と最も多く、全体の 57.1%に達しましたが、湧水量は全体の 4.9%に過ぎませんでした。また、測定不可能な地点は(しみだし、枯渇-消失など)は 45 地点となりました(表 4)。地域別では多摩丘陵で 30 地点で最も多くなりました。今後、丘陵の開発などにより湧水が失われることが考えられます。

表3 地域別に分けた調査地点数と湧水量

|                          | 湧水量<br>( $\text{m}^3/\text{日}$ ) | 湧水量<br>( $\text{L}/\text{s}$ ) | 湧水量<br>(%) | 湧水地点数<br>(箇所) | 湧水地点数<br>(%) |
|--------------------------|----------------------------------|--------------------------------|------------|---------------|--------------|
| 日野台地上位面<br>(100m崖線)からの湧水 | 8,227                            | 95.1                           | 66.2       | 39            | 26.5         |
| 日野台地下位面<br>(80m崖線)からの湧水  | 3,571                            | 41.3                           | 28.8       | 20            | 13.6         |
| 多摩丘陵からの湧水                | 613                              | 7.1                            | 4.9        | 84            | 57.1         |
| 集計から除外                   |                                  |                                |            | 4             | 2.7          |
| 総計                       | 12,407                           | 143.6                          | 100.0      | 147           | 100.0        |

表4 地域別に分けた測定不可能な地点数

|                  | しみだし | 枯渇・消失 | 採取不可能 | 計  |
|------------------|------|-------|-------|----|
| 日野台地上位面 (100m崖線) | 5    | 0     | 3     | 8  |
| 日野台地下位面 (80m崖線)  | 1    | 3     | 3     | 7  |
| 多摩丘陵             | 20   | 7     | 3     | 30 |
| 計                | 26   | 10    | 9     | 45 |

環境基本計画の目標値は湧水地点数 179 か所、湧水量  $10,000 \text{ m}^3/\text{日}$ であり、2020 年度は湧水地点数で目標値を達成することができませんでした。目標値を達成するためには湧水地域の環境を保全・修復することが重要です。

湧水量は降水量や季節により変化しますが、湧水地域の宅地化など土地利用の変化により、減少や枯渇することが考えられます。今後もさらに長期的な推移を見ながら湧水地域の保全を考える必要があります。

### 1-3 用水の水質



#### 指標 17：各用水路の水質分析結果

市内の河川・用水(調査対象)は、2016 年度まではすべて「B 類型」、2017 年度からは多摩川を除き「A 類型」に指定されていますが、目標値は、目標を設定した時点での類型指定「B 類型」の環境基準に適合することとしています。

2020 年度は、2019 年度の結果とほぼ同じで、すべての地点で生物化学的酸素要求量(BOD)の B 類型基準値 (3mg/L 以下) を満足する良好な値で、目標値を達成していました。

※A 類型基準値は、2mg/L 以下

#### 河川の類型指定とは

水質汚濁に係る環境基準を定める際に、水域の利用目的、水質汚濁の状況、水質汚濁源の立地状況等を考慮して、水域の類型が指定されます。この類型により適用される環境基準値が異なります。河川については 6 類型(AA、A、B、C、D、E)に分けられており、AA 類型が最もきれいな水域、E 類型が最も汚れた水域という位置づけです。

#### 生物化学的酸素要求量(BOD)とは

水中の有機物が好気性微生物により分解される過程で消費される水中の酸素量のことで、河川における有機物による水質汚濁の指標となっています。

目標値:生活環境の保全に関する環境基準 B 類型に適合

(B 類型環境基準値 BOD 3mg/L 以下)  
(2020 年度)

| 調査地点名       |                    | BOD(mg/L) |      |      |
|-------------|--------------------|-----------|------|------|
|             |                    | 2018      | 2019 | 2020 |
| 多摩川(石田大橋付近) |                    | 1.1       | 1.0  | 1.0  |
| 浅川(落合地内)    |                    | 0.6       | 0.8  | 0.8  |
| 用水路         |                    | 0.6       | 1.0  | 0.7  |
|             | 日野用水上堰(よそう森堀)      | 0.6       | 0.8  | 0.8  |
|             | 豊田用水(豊田 2 丁目地内)    | 0.9       | 0.8  | 1.0  |
|             | 豊田用水(堀之内緑道)        | 1.1       | 1.0  | 0.8  |
|             | 黒川水路(黒川清流公園)       | 0.5       | 0.5  | 0.6  |
|             | 上田用水(延命寺・日枝神社付近)   | 1.6       | 1.1  | 1.3  |
|             | 新井用水(新井用水親水路)      | 0.9       | 1.0  | 0.8  |
|             | 平山用水(平山東公園・ふれあい水辺) | 0.9       | 0.7  | 0.7  |
|             | 落川用水(落川公園)         | 1.2       | 0.9  | 1.2  |
|             | 向島用水(向島用水親水路)      | 0.7       | 0.6  | 0.7  |
| 流入河川        | 谷地川(連光寺グランド周辺)     | 0.9       | 0.7  | 0.8  |
|             | 根川(クリーンセンター付近)     | 2.1       | 1.6  | 1.4  |
|             | 程久保川(程久保川ワンド)      | 0.9       | 0.8  | 1.1  |

2018 年度：多摩川・浅川・上田用水は年 1 回(8 月)の測定値、  
2019 年度：多摩川・浅川・上田用水は年 1 回(8 月)の測定値  
程久保川は年 2 回(5 月、8 月)の平均値、  
向島用水は年 3 回(5 月、8 月、11 月)の平均値  
2020 年度：多摩川・浅川は年 1 回(2019 年 8 月)の測定値  
上田用水・程久保川は年 2 回(8 月、11 月)の平均値  
向島用水は年 3 回(5 月、11 月、2 月)の平均値  
上記以外については年 4 回(5 月、8 月、11 月、2 月)の平均値

### 1-4 河川・用水・湧水の水生生物



#### 指標 18：河川・用水・湧水の水生生物の確認状況

2020 年度の調査は 2019 年度と同様に 8 月に実施されました。確認された底生生物の種数は河川で 51 種(多摩川 48 種、浅川 27 種)、用水路で 99 種、流入河川で 55 種となり、2019 年度と比べ増加しました。魚類の種数は、河川で 14 種(多摩川 12 種、浅川 8 種)、用水路で 16 種、流入河川で 16 種、全調査地点では 24 種となり、2019 年度より増加しました。確認された付着藻類の種数は 42 種(多摩川 14 種、浅川 34 種)となり、2019 年度に比べ多摩川で減少が見られました。確認された水草の種数は用水路で 20 種、流入河川で 13 種、全体では 22 種となりました。

底生生物、魚類、付着藻類の種数の経年変化をみると、2016 年度以降は目標値をほぼ満足する水準で推移しているといえます。

目標値:底生生物:90 種

魚類:15 種

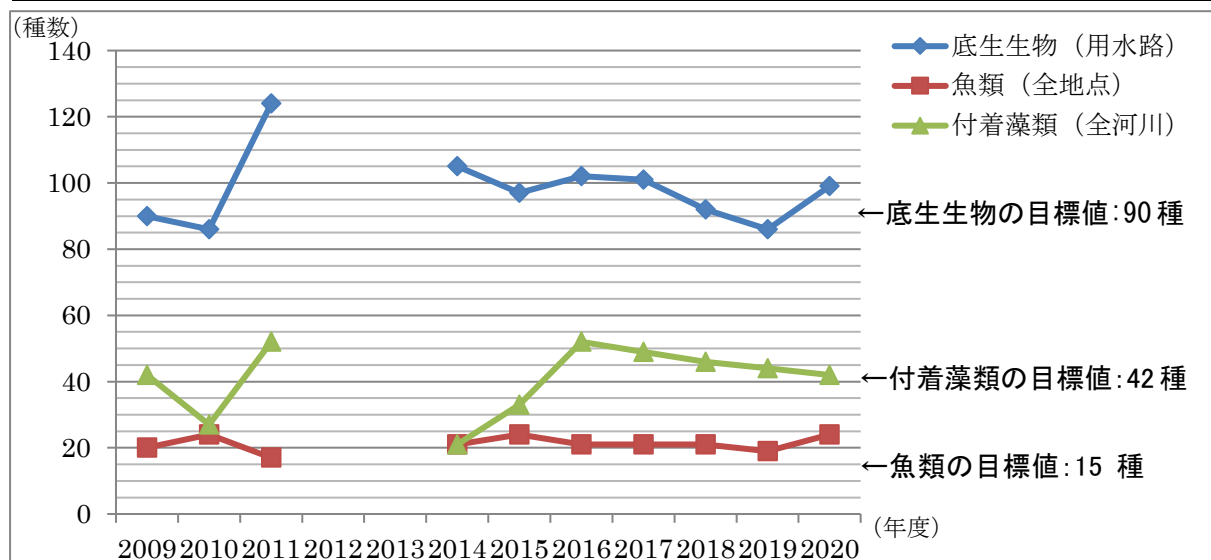
付着藻類:42 種

(2020 年度)

### 3. 環境の現状と取組状況の評価

水生生物の確認種数

| 調査地点        | 調査年度 | 2019 年度 |    |    |    |      |    |    |   | 2020 年度 |    |    |    |      |    |    |   |
|-------------|------|---------|----|----|----|------|----|----|---|---------|----|----|----|------|----|----|---|
|             |      | 底生生物    |    | 魚類 |    | 付着藻類 |    | 水草 |   | 底生生物    |    | 魚類 |    | 付着藻類 |    | 水草 |   |
| 多摩川         |      | 28      | 38 | 9  | 10 | 36   | 44 | —  | — | 48      | 51 | 12 | 14 | 14   | 42 | —  | — |
| 浅川          |      | 33      | 38 | 4  | 10 | 32   | 44 | —  | — | 27      | 51 | 8  | 14 | 34   | 42 | —  | — |
| 用水路 (10 地点) |      | 86      |    | 16 |    | —    |    | 20 |   | 99      |    | 16 |    | —    |    | 20 |   |
| 流入河川 (3 地点) |      | 48      |    | 13 |    | —    |    | 15 |   | 55      |    | 16 |    | —    |    | 13 |   |
| 全調査地点       |      | —       |    | 19 |    | 44   |    | 21 |   | —       |    | 24 |    | 42   |    | 22 |   |



本調査で確認された重要種は、底生生物調査で 3 種、魚類調査では 11 種、水草調査では 5 種で計 19 種となりました。底生生物調査で確認された重要種はマメシジミ属の一種が 7 地点で、ホンサナエが 1 地点で、ミズバチが 1 地点で確認されました。魚類の重要種として、「環境省レッドリスト 2020 年」で絶滅危惧ⅠB類とされているムサシノジウズカケハゼが黒川水路、上田用水、新井用水で確認されました。また、絶滅危惧Ⅱ類とされているアカザが多摩川、日野用水下堰で、ミナメダカが上田用水、落川用水、程久保川で、準絶滅危惧とされているドジョウが多摩川及び用水路 5 地点で確認されました。その他に「東京都レッドリスト 2013 年」に記載されているアブラハヤ、カマツカ、ニゴイ、ヒガシシマドジョウ、ナマズ、スジエビ、モクズガニの 7 種が確認されました。水草の重要種としては、「環境省レッドリスト 2020 年」で準絶滅危惧とされているミクリが上田用水で確認された他、「東京都レッドリスト 2013 年」に記載されているセキショウモ、エビモ、ササバモ、マコモの 4 種が確認されました。

確認された外来種は、底生生物調査・魚類調査で 10 種、水草調査で 5 種の合計 15 種でした。底生生物調査および魚類調査では、特定外来生物に指定されているオオクチバスが程久保川で、コクチバスが多摩川、谷地川で確認されました。また生態系被害防止外来種リストに記載されているコモチカワツボが 3 地点で、フロリダマミズヨコエビが 9 地点で、アメリカザリガニが 10 地点で、グッピーが 1 地点で確認されました。その他の外来種としては、アメリカツノウズムシが 13 地点で、サカマキガイが 1 地点で、ヒロマキミズマイマイが 2 地点で、カワリヌマエビ属の 1 種が調査した全地点で確認されました。近年、多摩川水系ではオオクチバス・コクチバスの分布域が拡大していますので、今後も注目して監視する必要があります。水草では特定外来生物であるオオカワヂシャが流入河川 2 地点で確認されました。同じく特定外来生物であるオオフサモは今年度の調査で確認されませんでした。これらの種は近年、多摩川水系で分布を広げています。特にオオカワヂシャは本調査で 2014 年度に初めて確認され、本年度まで毎年確認されています。



アブラハヤ



カマツカ



ムサシノジュズカケハゼ



ヒガシマドジョウ

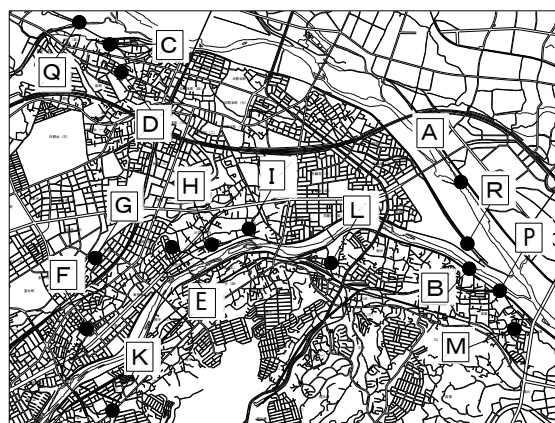
### (参考 5) 水生生物による水質の生物学的判定

#### (1) 調査の概要

調査期間： 2020 年 8 月 4 日～6 日

調査地点： 河川(多摩川、浅川)、用水路等、流入河川を含む 15 地点 (図 A から R 参照)

調査内容： 底生生物、魚類、付着藻類(河川のみ)、水草(用水路、流入河川のみ)、BOD、BOD 負荷量(用水、流入河川のみ)、DO(溶存酸素)、pH



#### (2) 水生生物による水質判定

水生生物による水質判定は長期間の水質変動の平均的な状態を把握することができますが、生物には環境に対する適応性があるため、指標生物と水質の関係は絶対的なものではありません。

##### ① 底生生物による水質判定

多くの地点で「きれいな水域」や「きれいな水域～わりあいきれいな水域」と判定されましたが、用水路 1 地点で「わりあいきれいな水域～汚れている水域」、用水路 3 地点と流入河川 1 地点で「汚れている水域」、流入河川 1 地点で「汚れている水域～とても汚れている水域」と判定されました。

##### ② 魚類による水質判定

河川では多摩川・浅川ともに「きれいな水域」と判定されました。用水路では「きれいな水域」が 5 地点、「わりあいきれいな水域」が 3 地点で認められましたが、1 地点で「汚れている水域」と判定されました。流入河川では 2 地点で「きれいな水域」、1 地点で「わりあいきれいな水域」と判定されました。今回の水生生物調査では全般的に多くの地点で水質は良好と判定されました。

#### (3) 理化学的水質と生物学的的水質判定結果の比較

調査地点のBOD値は、全ての地点で A 類型の環境基準を満たす 2mg/L 以下で、「きれいな水域」と判定されました。生物学的的水質判定による水辺の評価についても多くの地点で「わりあいきれいな水域」以上であると判定されました。BODによる理化学的水質判定結果と生物学的的水質判定結果を比較すると、

### 3. 環境の現状と取組状況の評価

両者の結果は概ね一致しました。しかし、底生生物調査では豊田用水上流、上田用水、落川用水、根川、程久保川で、魚類調査では上田用水で、「よごれている水域」以下と判定されました。これらの地点では河床がコンクリート張りである、水量が少ない、水の流れが遅い、など、きれいな水域の指標種である底生生物や魚類の生息に適していない環境と考えられます。

水生生物による水質判定

| 分類   | 調査地点 |                      | 2019 年度 |    |            | 2020 年度         |    |            |
|------|------|----------------------|---------|----|------------|-----------------|----|------------|
|      |      |                      | 底生生物    | 魚類 | BOD(mg/L)* | 底生生物            | 魚類 | BOD(mg/L)* |
| 河川   | A    | 多摩川（日野市多摩川総合グラウンド付近） | A～B     | A  | 1.0        | A～B             | A  | 0.8        |
|      | B    | 浅川（クリーンセンター付近）       | A～B     | A  | 0.8        | A～B             | A  | 0.6        |
| 用水路等 |      | 用水路                  |         |    |            |                 |    |            |
|      | C    | 日野用水下堰（東光寺市宮住宅前水路）   | A～B     | B  | 0.7        | B               | B  | 0.6        |
|      | D    | 日野用水上堰（よそう森堀）        | A～B     | B  | 0.6        | A～B             | B  | 0.7        |
|      | F    | 豊田用水（取付口）            | C       | A  | 0.9        | A～B             | A  | 1.0        |
|      | E    | 豊田用水（堀之内縁道）          | B～C     | A  | 1.0        | C               | A  | 0.8        |
|      | G    | 黒川水路（黒川清流公園）         | A～B     | A  | 0.5        | A～B             | A  | 0.7        |
|      | H    | 上田用水（延命寺・日枝神社付近）     | C～D     | C  | 1.1        | C               | C  | 1.5        |
|      | I    | 新井用水（新井用水水親水路）       | C       | B  | 1.2        | B～C             | A  | 0.7        |
|      | K    | 平山用水（平山東公園・ふれあい水辺）   | B       | A  | 0.6        | A～B             | B  | 0.7        |
|      | M    | 落川用水（落川公園）           | B～C     | B  | 0.8        | C               | A  | 1.1        |
|      | L    | 向島用水（向島用水親水路）        | B       | B  | 0.6        | 通水していなかったため調査せず |    |            |
|      |      | 流入河川                 |         |    |            |                 |    |            |
|      | Q    | 谷地川（多摩川合流点前）         | A～B     | A  | 0.7        | A～B             | A  | 0.8        |
|      | R    | 根川（クリーンセンター付近）       | B～C     | C  | 1.7        | C               | B  | 1.4        |
|      | P    | 程久保川（程久保川ワンド）        | C       | A  | 1.0        | C～D             | A  | 1.1        |

\*BOD の値は、水生生物の調査時期である 8 月の値

水質階級：その生物がよく出現する水域 A=きれいな水域（os） B=わりあいきれいな水域（βm）

C=汚れている水域（αm） D=とても汚れている水域（ps）

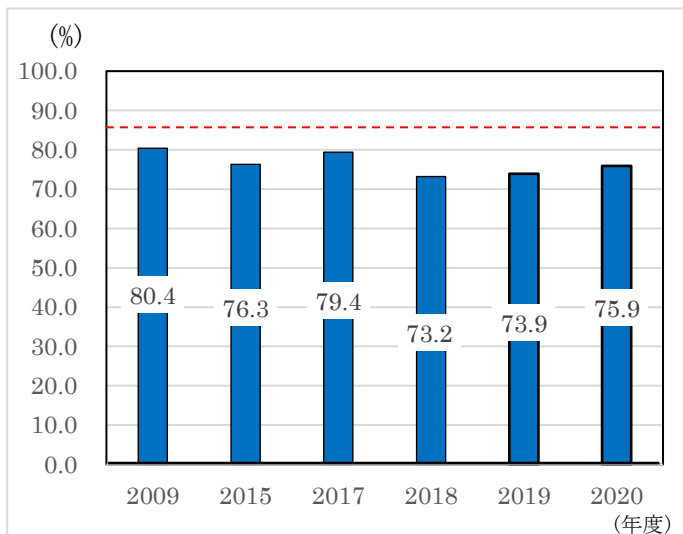
#### 1-5 水辺に親しみやうるおいを感じる市民の割合

指標 19：水辺に親しみやうるおいを感じる市民の割合

目標値:85.0%  
(2020 年度)

2020 年度の市民意識調査の「日野市の良いところ」の設問における「自然環境が良い(水とみどり、農のある風景など)」への回答率は 75.9%で、2019 年度より 2.0 ポイント増加しましたが、目標を達成することが出来ませんでした。しかし、依然として「日野市の良いところ」として最も多くの回答率を得ています。

今後も、様々な施策により自然環境を保全し、市民の皆様へより日野の自然の良さを実感していただき、次世代へ引き継げるよう努めます。



## 2.<市の取組状況>

| 目標        | 施策の方向         | 施策             | 具体的な取組                                                                                                 | 実施状況                                                                                                                |
|-----------|---------------|----------------|--------------------------------------------------------------------------------------------------------|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 水文化を伝えるまち | 健全な水循環の構築     | 水循環に寄与する方策の検討  | 市内の水収支の実態や、重要箇所における降水量と湧水量の関係、湧水周辺の生態系などを調査する。調査結果をもとに、地下水かん養、水辺の環境保全から水利用、治水までを含めた水循環に寄与する方策を検討する。    | 湧水量及び地下水位計測調査を継続実施した。(緑と清流課)<br>→ 指標 16(P24)<br>プロジェクトチームにより浅川の流量測定を実施した。(環境共生部)                                    |
|           |               | 用水の保全・活用       | (仮)用水路改修・補修計画の策定                                                                                       | 用水カルテプロジェクトによる用水路実態調査等をもとに、用水路の役割や周辺の状況に合わせた保全・改修・補修・開渠化計画を作成する。<br>(緑と清流課)                                         |
|           |               | 湧水・地下水の保全      | 地下水揚水量の把握                                                                                              | 法令に基づく揚水量の報告を徹底し、急激な揚水量の増加による地下水位の低下や湧水の枯渇、地盤沈下等が起こらないよう監視する。<br>(環境保全課)<br>→ 指標 20(P32)                            |
|           | 雨水浸透・貯留利用の推進  | 雨水浸透・貯留施設の設置促進 | 家庭や事業所への雨水浸透・貯留施設の設置を呼びかけるとともに、補助金の交付を推進する。また、公共施設でも積極的に雨水浸透・貯留利用を推進する。                                | 新築・増改築の雨水処理方法の相談時に丁寧に水循環や雨水涵養の大切さ、雨水浸透の指導を行った。(緑と清流課)<br>→ 指標 21(P32)                                               |
|           | 水質の保全         | 水質の実態把握        | 水質調査・生物調査の実施                                                                                           | 用水、河川、湧水、地下水の水質調査や、用水、河川の生物調査を実施し、水質や生態系の状態を継続的に把握する。<br>(緑と清流課)<br>用水等の水質調査・水生生物調査を実施した。(環境保全課)<br>→ 指標 17.18(P27) |
|           |               | 水質汚濁の防止        | 生活排水及び污水处理の施設整備                                                                                        | 汚水管の整備や下水道接続の促進(戸別指導、工事費用融資あっせん)、下流部の汚濁状況の情報提供などを実施する。<br>(下水道課)<br>→ 指標 22(P34)                                    |
|           | 協働による水辺の保全・活用 | 流域連携による活動の推進   | 流域連携による水源かん養の活動や、水辺づくりなどを通じた啓発活動を推進する。                                                                 | 八王子市との浅川流域連携事業により「第10回あさかわ写真コンクール」を実施し、浅川の保全を啓発した。<br>(緑と清流課)                                                       |
|           |               | 水辺に親しむ活動の推進    | 用水やビオトープをはじめとする水辺に親しめる場や機会を創出するとともに、水辺の楽しさや大切さを伝えることのできる指導者の確保に努める。                                    | 水辺の楽校の活動において、子どもたちとの米作りを通じ、用水路の大切さを認識した。<br>また、水辺のある風景日野50選ガイドツアーを実施した。(みずとくらす・ひのとの共催)。<br>(緑と清流課)<br>→ 指標 23(P34)  |
|           |               | 水辺の保全・管理活動の推進  | 用水守制度を充実するとともに、地域や学校、用水守等が用水組合や農業者の用水管理活動を支援するための新たな活動を進める。また、清掃や草刈りなど、河川敷の美化・保全活動を行っている団体や個人への支援を行なう。 | 用水守制度を通じ、ボランティアの方々による継続した清掃活動が実施された。<br>また、環境月間の一環で、日野用水の清掃活動を実施した。<br>(緑と清流課)<br>→ 指標 24(P35)                      |

### 3. 環境の現状と取組状況の評価

#### 資料編

#### 2.-1 健全な水環境の構築 関連

(指標 20) : 地下水揚水量

| 年度                               | 2016 | 2017 | 2018 | 2019 | 2020 |
|----------------------------------|------|------|------|------|------|
| 地下水揚水量<br>(万m <sup>3</sup> )     | 252  | 122  | 325  | 292  | 327  |
| 1事業所当たり揚水量<br>(千m <sup>3</sup> ) | 76   | 37   | 90   | 73   | 65   |
| 事業所数                             | 33   | 33   | 36   | 40   | 50   |

##### 揚水量とは

ここでいう揚水量とは、出力が 300 ワットを超えるモーター等で汲み上げた地下水の量のことです。

過度に地下水を汲み上げることによる空洞化が、地盤沈下の原因の一つとされています。

地下水汲み上げによる地盤沈下は、戦前から観測されており、戦争により多くの工場などが休業したため、一時的に下げ止まりをみせたものの、戦後は更に被害が大きくなりました。

このため 1960 年代より工業用水法やビル用水法、温泉法、環境確保条例等により規制され現在に至っています。

地下水の揚水量計測は、過度の汲み上げによる地盤沈下が起きないよう、規制値を超えて汲み上げていないか監視することが目的であり、監視することで地盤沈下の進行を止めることにつながっています。

#### 2.-2 雨水浸透・貯留施設の設置促進 関連

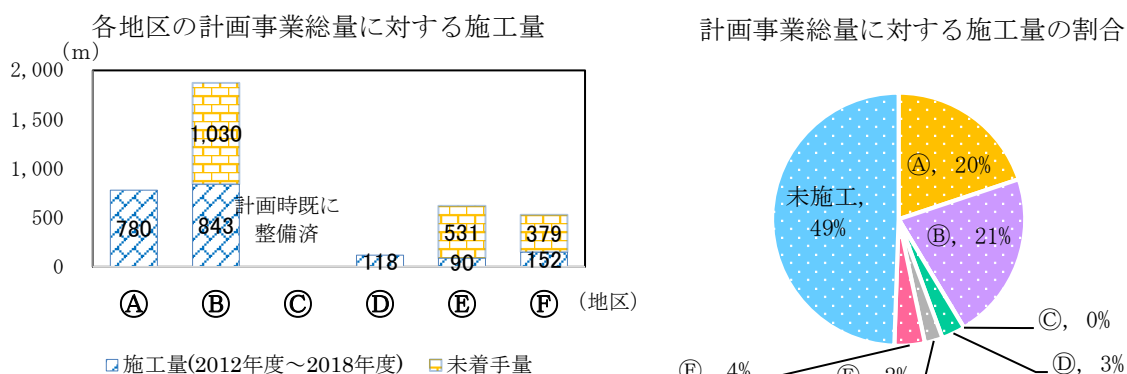
(指標 21) : 雨水浸透ます設置個数

| 年度                   | 2016  | 2017  | 2018  | 2019  | 2020  |
|----------------------|-------|-------|-------|-------|-------|
| 新規設置数                | 18    | 10    | 5     | 10    | 7     |
| 1994 年度以降前年までの<br>累積 | 6,478 | 6,496 | 6,506 | 6,511 | 6,521 |

##### 雨水浸透ますとは

雨水浸透ますは、屋根などに降った雨水を地下に浸透させるための施設です。雨水を地下に浸透させることで、雨水の分散化による河川の洪水防止等の治水対策への貢献、涵養域拡大による緑の保全と育成、湧水の回復による河川の清流復活、地下水の還元による地盤沈下防止などが期待できます。

(参考 6) 第二次日野市バリアフリー特定事業計画の透水性舗装整備状況



透水性舗装とは

透水性舗装とは、道路路面に降った雨水を直接路床へ浸透させ、地中に還元する機能を持つ舗装です。

本項では、第二次日野市バリアフリー特定事業計画により設定された計画事業量と、実際の整備状況を示しています。

| グラフ凡例：地区名<br>(施工量/地区計画事業<br>総量) | 路線内訳                                 | 計画事業量  | 施工量    | 実施予定期間<br>または実施年度 |
|---------------------------------|--------------------------------------|--------|--------|-------------------|
| ①：日野駅周辺<br>(780m/780m)          | 幹線市道Ⅰ－２０号線                           | 100m   | 100m   | 2017 年度           |
|                                 | 幹線市道Ⅰ－１３号線                           | 100m   | 100m   | 2014 年度           |
|                                 | 幹線市道Ⅰ－１４号線                           | —      | 施工済    | 整備済               |
|                                 | 幹線市道Ⅰ－９号線                            | 108m   | 108m   | 2016 年度           |
|                                 | 幹線市道Ⅰ－１０号線                           | —      | 0m     | 未定                |
|                                 | 市道Ｂ３３号線                              | —      | 0m     | 未定                |
|                                 | 都道１６９号線                              | 472m   | 472m   | 2013 年度           |
|                                 | 都道１６９号線                              | —      | 0m     | 未定                |
| ②：豊田駅周辺<br>(843m/1,873m)        | 都道４１号稲城日野線（川崎街道）                     | —      | 施工済    | 整備済               |
|                                 | 幹線市道Ⅱ－４４号線                           | 173m   | 173m   | 2014 年度           |
|                                 | 市道Ｅ１０３号線                             | 295m   | 295m   | 2014 年度           |
|                                 | 幹線市道Ⅰ－１２号線                           | 295m   | 295m   | 2014 年度           |
|                                 | 幹線市道Ⅰ－１２号線                           | 80m    | 80m    | 2014 年度           |
|                                 | 市管理道路                                | —      | 施工済    | 整備済               |
|                                 | 駅前ロータリー（区画整理事業で整備予定）                 | 130m   | 0m     | 2014 年度～2017 年度   |
|                                 | 日野都市計画道路３・４・１５号線                     | 310m   | 0m     | 2016 年度～2018 年度   |
|                                 | 区画整理事業管理道路                           | —      | 施工済    | 整備済               |
|                                 | 日野都市計画道路３・４・１９号線                     | 260m   | 0m     | 2014 年度～2017 年度   |
| ③：高幡不動駅周辺<br>(-)                | 日野都市計画道路３・４・１５号線                     | 180m   | 0m     | 2018 年度～2020 年度   |
|                                 | 日野都市計画道路３・４・１９号線                     | 150m   | 0m     | 2014 年度～2017 年度   |
| ④：百草園駅周辺<br>(118m/118m)         | 幹線市道Ⅱ－８号線                            | —      | 施工済    | 整備済               |
|                                 | 河川管理用通路（両側）                          | 118m   | 118m   | 2012 年度           |
|                                 | 幹線市道Ⅱ－６２号線                           | —      | 施工済    | 整備済               |
| ⑤：南平駅周辺<br>(90m/621m)           | 幹線市道Ⅱ－５号線                            | —      | 施工済    | 整備済               |
|                                 | 都道１７３号線（北野街道）                        | 231m   | 90m    | 事業中～2020 年度       |
|                                 | 都道１７３号線（北野街道）                        | 390m   | 0m     | 2012 年度～2020 年度   |
| ⑥：平山城址公園駅周辺<br>(152m/531m)      | 都道１７３号線（北野街道）                        | 291m   | 0m     | 事業中～2016 年度       |
|                                 | 都道１５５号線町田・平山・八王子線<br>（立体交差点部～交差点接続部） | 88m    | 0m     | 2013 年度～2016 年度   |
|                                 | 都道１５５号線町田・平山・八王子線                    | 152m   | 152m   | 2015 年度           |
| 総 量                             |                                      | 3,923m | 1,983m |                   |

### 3. 環境の現状と取組状況の評価

#### 2.-3 水質の保全 関連

(指標 22) : 下水道普及率

| 年度      | 2016  | 2017  | 2018  | 2019  | 2020  |
|---------|-------|-------|-------|-------|-------|
| 下水道人口比率 | 95.2% | 95.5% | 95.7% | 95.9% | 96.0% |

下水道普及率とは

$$\text{下水道普及率} = \frac{\text{公共下水道使用可能人口}}{\text{行政人口}}$$

#### 2.-4-1 協働による水辺の保全・活用の推進 関連

(指標 23) : 水辺イベントの開催数

| 年度   |       | 2016 | 2017 | 2018 | 2019 | 2020 |
|------|-------|------|------|------|------|------|
| 開催件数 | 水辺の楽校 | 23   | 23   | 23   | 25   | 5    |
|      | 市主催   | 10   | 10   | 10   | 8    | 8    |
|      | その他   | 28   | 28   | 28   | 28   | 3    |
| 合計件数 |       | 61   | 61   | 61   | 61   | 16   |

※2020 年度は新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、水辺イベントは減少

(参考 7) : 「ビオトープづくり」の取組件数

| 年度            | 累積件数 | 取組開始学校・団体           |
|---------------|------|---------------------|
| 2001 以前       | 4    | 七生中、潤徳小、滝合小、日野三小    |
| 2002          | 4    |                     |
| 2003          | 6    | 仲田小、日野一小            |
| 2004          | 9    | 滝合ワンド、日野二小、南平小      |
| 2005          | 10   | 日野六小                |
| 2006          | 11   | 多摩平保育園              |
| 2007          | 12   | 平山小                 |
| 2008          | 13   | 日野四小                |
| 2009          | 13   |                     |
| 2010          | 13   |                     |
| 2011          | 13   | 多摩平保育園移転に伴いビオトープも移設 |
| 2012～<br>2020 | 13   |                     |

2012 年度以降、新規の取り組みはありませんでした。

(指標 24) : 「用水守」の登録団体数

| 年度  | 2016 | 2017 | 2018 | 2019 | 2020 |
|-----|------|------|------|------|------|
| 団体数 | 57   | 44   | 48   | 16   | 17   |
| 人数  | 408  | 399  | 401  | 408  | 420  |

※2019 年度から団体数が大きく減少したのは団体から個人登録を外したためで、  
全体の人数としては大きな変化はありません。

#### 用水守(ようすいもり)とは

日野市では、恵まれた水環境を次世代に伝えるため、用水路・湧水地等での清掃、草刈、緑化等のボランティア活動をしていただける方を「用水守」として登録いただき、その活動を支援しています。

## 3.<市民コメント>

### 1.<環境の現状>

白書冒頭の環境白書作成の経緯に「この環境白書の特色は環境基本計画で設定された分野ごとに計画の進捗を図るための数値目標を掲げ、それらの達成度から環境問題への対応を評価し、翌年の事業に反映しているところです。」とあります。

これができているか、それを実行していくためにはどうすべきかを検討すべき時と考えます。

10 年後に目指す環境の姿に対し、環境の状況を測る指標・目標を決めての現状把握であるが、収集されたデータをそのままとめ、目標値への到達程度の評価が行われているも、収集されたデータの妥当性(計測回数、計測時期、計測方法)・課題・その対応の検討があまりなされず、現状把握での PDCA とくに CA への取組が必要と考えます。

既に10年に及ぶ経年データがある現状、各指標の傾向から指標、目標値、データ収集(計測回数、計測時期、計測方法)を見直す必要があると考えます。

### 2.<市の取組状況>

環境基本計画中間検証報告書で決めた重点施策の方向性及び重点施策及び推進方法での取組状況が把握されていません。第2次環境基本計画では、計画の着実な推進のために、推進体制、進捗管理を定めました。環境基本計画推進会議水分野重点施策進行管理シートまとめの内容が反映されていません。

# ごみ分野

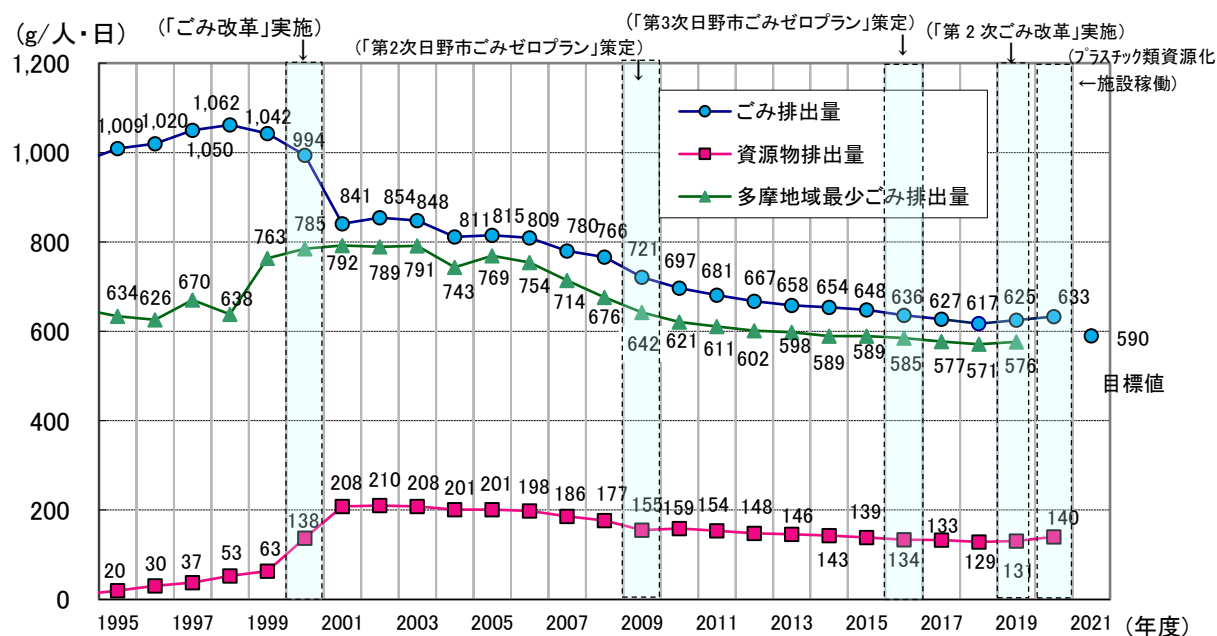
## < 目 標 > ごみゼロのまち

### 1. <環境の現状>

#### 1.-1 1人1日当たりのごみ排出量

目標値: 590g/人・日  
(2021 年度)

☺ 指標 25 : ごみ・資源排出原単位



※多摩地域最少ごみ排出量は、本書編集時点で最新となる 2019 年度までの数値を掲載しています。

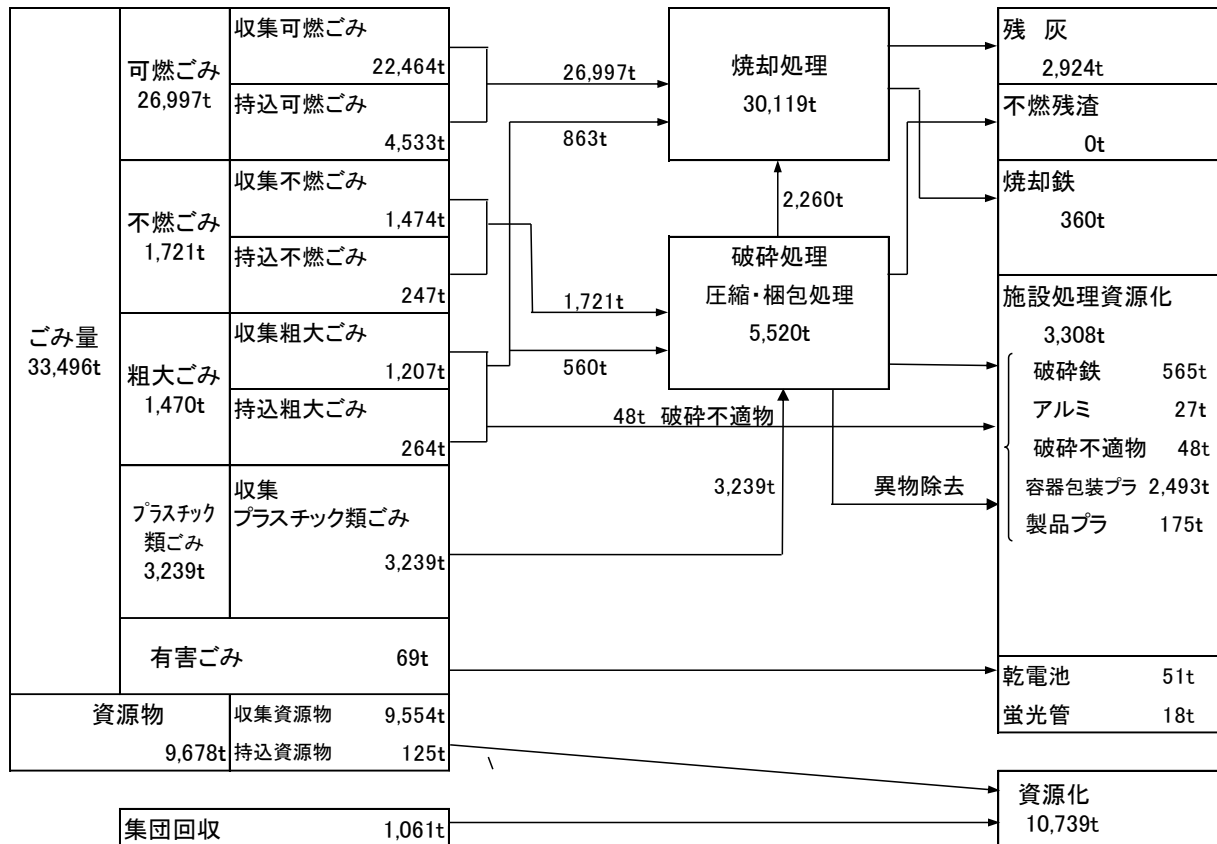
- ① 1人1日当たりのごみ排出量は、総ごみ量÷各年10月1日現在人口÷年間日数で算出。
- ② 総ごみ量は国や市の統計に準じて、可燃・不燃・粗大・有害・資源物の収集と持込量の合計とした。
- ③ 資源物排出量は、上記の式の総ごみ量を資源物収集量(集団回収量は除く)に置き換えて算出した。

1人あたりのごみ排出量は2018年度まで年々減少を続けてきましたが、2019年度から増加に転じています。なお、2019年度は、多摩地域のほとんどの市町村が増加の傾向です。理由としては、消費税率の変更に伴う駆け込み需要によるごみの排出量の増加や、新型コロナウイルス感染拡大防止のために在宅する時間が増えたことによる巣ごもり需要の増加、家の整理を行なう世帯が増加した結果、ごみの排出量が増えたことが原因の一つと考えられます。

第2次ごみ改革で、環境負荷のさらなる低減化を目指し、日野市で停滞している資源ごみの再利用、プラスチックごみの適正処理と削減、処理エネルギーの効率的利用に取り組むとともに、市民1人1人のごみに対する意識向上を図るなど、新たな施策の検討を進め、目標達成に向けて減量に取り組んでいきます。

(参考8) ごみの行方

2021 年 3 月まで



※剪定枝チップ化は、持込資源物に含む。

※小数点以下、端数処理を行っています。

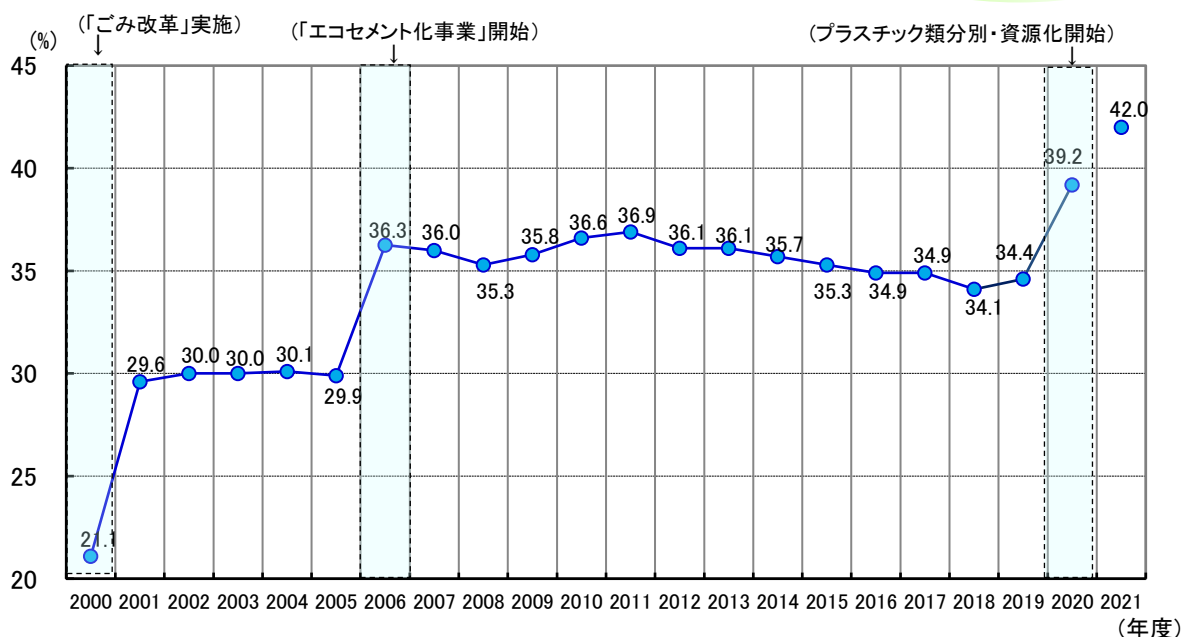
### 3. 環境の現状と取組状況の評価

#### 1. -2資源化率

◇ 指標 26 : 総資源化率

目標値: 42%

(2021 年度)



2020 年度の総資源化率は前年度より 4.8 ポイント増加し 39.2%でした。2000 年 10 月のごみ改革及び 2006 年 7 月より開始された焼却灰のエコセメント化事業等により、総資源化率は、13.8%だった第 1 次環境基本計画の策定時（1999 年）に比べ大幅に向上し、2006 年度以降は 36%前後で推移していましたが、近年若干の減少傾向になっていました。

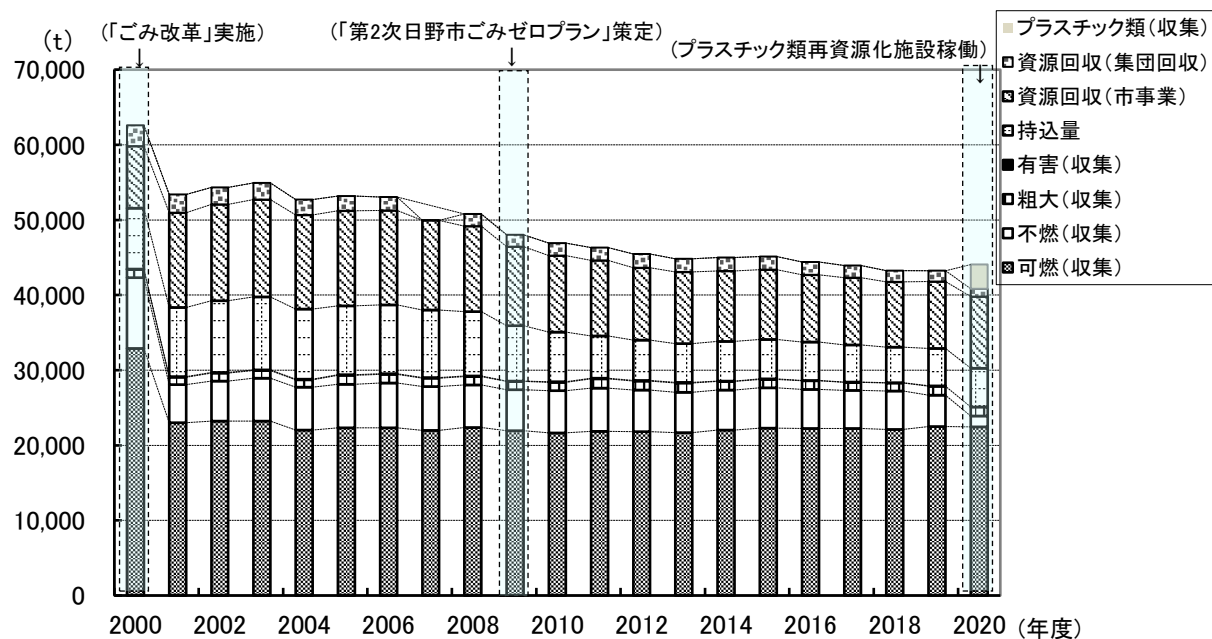
世界的な海洋プラスチックごみの問題、2019 年 10 月からの「食品ロス削減の推進に関する法律」の施行、2020 年 7 月からのレジ袋有料化など、国レベルでプラごみに関する問題意識は年々高まっています。

2020 年 1 月からプラスチック類の戸別収集を開始し、プラスチック類資源化施設が稼働（本格稼働は 4 月）したことにより、総資源化率が大幅に向上しました。2021 年度の目標値を達成するためには 2.8 ポイント資源化率を向上させる必要があることから、今後も総資源化率の向上に努めるとともに、都内初の SDG s 未来都市としての取り組みを、関係部署と連携を図りながら行なっていく予定です。

$$\text{資源化率} = \frac{(\text{資源ごみ量} + \text{施設処理資源化量} + \text{エコセメント化量} + \text{その他資源化量} + \text{集団回収量})}{(\text{総ごみ量} + \text{集団回収量})}$$

※エコセメント化量については、2006 年度データより計上しています。

(参考 9) ごみ量内訳



2020年1月からプラスチック類ごみの分別収集が始まり、不燃ごみ量が前年度と比べ大幅に減少しました。

可燃ごみ量については、日野市の人口が増加傾向にあるものの、可燃ごみの年間収集量が概ね一定であることから、市民及び法人一人当たりの可燃ごみ排出量が減少傾向にあると考えられます。

引き続き、市民の協力によりごみ量を削減できるよう、啓発に取り組んでいきます。

### 3. 環境の現状と取組状況の評価

## 2. <市の取組状況>

| 目標      | 施策の方向        | 施策                       |                      | 具体的な取組                                                                                                         | 実施状況                                                                                                          |
|---------|--------------|--------------------------|----------------------|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| ごみゼロのまち | ごみ排出量の低減     | リフューズ（発生回避）の促進           | レジ袋無料配布中止の拡大         | 一部スーパー等で実施しているレジ袋無料配布中止を市内全域に拡大するために、3者（市民、事業者、市）によるレジ袋無料配布中止に向けた共同会議を継続して進めていく。                               | 2020年7月より、全国でレジ袋が有料化され、レジ袋無料配布中止は達成された。引き続き、さらなるレジ袋の削減を目指して、市民、事業者、市の3者で取り組んでいく。<br>(ごみゼロ推進課)<br>→指標 27(P.41) |
|         |              | リターン（回収ボックスのある店頭への返却）の促進 | 容器包装お返し大作戦の展開        | 容器包装の店頭回収を促進するため、回収を実施している販売店の情報提供、販売店への協力依頼等を実施する。                                                            | 店頭回収協力店として、新たに2店舗が加わった。引き続き協力店の拡大を目指すとともに、利用の周知を進める。<br>(ごみゼロ推進課)<br>→指標 28(P.41)                             |
|         | リサイクルの推進     | 資源物回収の推進                 | 分別ルールの徹底             | プラスチック製容器包装や古紙類・繊維類、びん・缶類をごみとして排出しないよう、分別方法を周知・徹底する。それにより、不燃ごみの減量化も促進する。                                       | 広報やごみ情報誌エコー等で継続的に啓発を行っている。<br>(ごみゼロ推進課)<br>→指標 29(P.41)                                                       |
|         |              | 生ごみリサイクルの推進              | 生ごみや剪定枝の地域内循環の拡大     | 生ごみや落ち葉、剪定枝を堆肥化して利用する地域内循環を拡大する。                                                                               | せせらぎ農園にて、地域の家庭から出る生ごみを肥料として、野菜等を栽培している。剪定枝は、2020年12月で拠点収集廃止した後も、クリーンセンターで月1回受入れ・資源化を実施。<br>(ごみゼロ推進課)          |
|         |              |                          | 生ごみの家庭内循環（自家処理）の普及促進 | 生ごみの減量化と堆肥化を促進するため、コンポスト容器購入補助や生ごみリサイクルステッカーの配布を実施する。                                                          | ダンボールコンポストを中心に、家庭での生ごみまい肥化を促進するため、生ごみ処理器に補助を実施。<br>→指標 30,31(P.42,43)<br>(ごみゼロ推進課)                            |
|         | 市民・事業者への啓発   | 市民の意識向上・行動促進             | 情報提供ツールの充実           | ごみ回避・発生抑制に重点をおいて、市民がすべきことを広報やHP、市民団体主催の講座等で啓発するとともに、携帯電話サービスの活用など、新たな情報提供方策を検討する。また、市民・市民団体と連携し、各種キャンペーンを実施する。 | 広報やごみ減量情報誌エコーに加え、ごみ分別アプリも活用し、市民のみなさまへの情報提供を行っている。<br>(ごみゼロ推進課)<br>→指標 32～34(P.43,44)                          |
|         | 協働によるごみゼロの実現 | コミュニティ単位での取組             | 新聞紙の民間回収への移行         | 関係機関との調整のもと、新聞紙の分別収集を販売店回収、集団回収へと移行し、地域の取り組みのひとつとして位置づける。                                                      | 引き続き自治会での集団回収を中心に、民間回収による、効率的な資源化を目指している。<br>(ごみゼロ推進課)<br>→指標 35(P.44)                                        |

## 資料編

### 2-1 ごみ排出量の低減

(指標 27) : マイバック持参率・レジ袋辞退率

| 年度       | 2016 | 2017 | 2018 | 2019 | 2020    |
|----------|------|------|------|------|---------|
| マイバッグ持参率 | 67%  | 64%  | 62%  | 65%  | —       |
| レジ袋辞退率   | 55%  | 54%  | 54%  | 57%  | (85.6%) |

※2020 年度は新型コロナウイルス感染拡大により、出口調査は中止しましたが、レジ袋辞退率については、大手スーパーに調査を行いました。その結果、2020 年 7 月の全国一律有料化の影響により、レジ袋辞退率は大幅に上昇しました。

(指標 28) : ペットボトル、発泡トレーの行政回収量

| 年度        | 16  | 17  | 18  | 19  | 20  |
|-----------|-----|-----|-----|-----|-----|
| ペットボトル(t) | 346 | 363 | 376 | 374 | 406 |
| 発泡トレー(t)  | 152 | 158 | 152 | 106 | —   |

※2020 年度からプラスチック類再資源化施設が稼働したことにより、発泡トレー類はプラスチック類として分別収集処理を開始したため、発泡トレーの 2020 年値がありません。

### 2-2 リサイクルの促進

(指標 29) : 焼却ごみの組成

| 年             |        | 16     | 17     | 18     | 19     | 20     |
|---------------|--------|--------|--------|--------|--------|--------|
| 可燃ごみ<br>(t)   | 紙      | 7,187  | 6,356  | 6,594  | 6,569  | 9,698  |
|               | 生ごみ    | 2,403  | 2,867  | 2,744  | 2,385  | 5,902  |
|               | 布      | 1,024  | 1,356  | 708    | 877    | 1,019  |
|               | 草木     | 1,713  | 956    | 1,482  | 1,620  | 919    |
|               | プラスチック | 7,209  | 8,023  | 9,404  | 8,683  | 3,783  |
|               | ゴム・皮革  | 423    | 467    | 266    | 675    | 498    |
| 不燃物<br>(t)    | 金属     | 356    | 244    | 288    | 427    | 246    |
|               | ガラス    | 134    | 89     | 0      | 67     | 15     |
|               | 土砂・陶器類 | 801    | 667    | 44     | 135    | 179    |
| その他可燃物(t)     | その他可燃物 | 1,001  | 1,200  | 597    | 1,057  | 205    |
| 家庭系可燃ごみ収集量(t) |        | 22,251 | 22,225 | 22,126 | 22,495 | 22,464 |

※2020 年 1 月よりプラスチック類資源化施設が稼働（本格稼働は同年 4 月）したことで、焼却ごみに含まれるプラスチックの量が大幅に減少しました。

### 3. 環境の現状と取組状況の評価

(参考 10) 焼却ごみの組成割合 (湿ベース)

| 年      |        | 16    | 17    | 18    | 19    | 20    |
|--------|--------|-------|-------|-------|-------|-------|
| 可燃ごみ   | 紙      | 32.5% | 26.9% | 33.4% | 31.7% | 43.2% |
|        | 生ごみ    | 16.7% | 25.4% | 19.8% | 19.0% | 26.3% |
|        | 布      | 4.3%  | 5.3%  | 3.7%  | 3.0%  | 4.5%  |
|        | 草木     | 9.6%  | 4.9%  | 11.0% | 8.1%  | 4.1%  |
|        | プラスチック | 25.7% | 28.1% | 26.9% | 29.8% | 16.8% |
|        | ゴム・皮革  | 1.4%  | 1.4%  | 0.6%  | 2.2%  | 2.2%  |
| 不燃物    | 金属     | 1.1%  | 0.8%  | 0.7%  | 1.1%  | 1.1%  |
|        | ガラス    | 0.4%  | 0.2%  | 0.2%  | 0.2%  | 0.1%  |
|        | 陶器類    | 3.1%  | 2.1%  | 0.2%  | 0.3%  | 0.8%  |
| その他可燃物 | その他可燃物 | 5.2%  | 4.9%  | 3.5%  | 4.6%  | 0.9%  |

(指標 30) : 生ごみ減量・資源化への取組世帯数

| 年度                         | 16    | 17    | 18    | 19    | 20    |
|----------------------------|-------|-------|-------|-------|-------|
| 生ごみ処理器<br>補助件数(電気式を除く)     | 12    | 20    | 12    | 9     | 18    |
| ダンボールコンポストの件数              | 154   | 171   | 173   | 180   | 214   |
| ダンボールコンポスト基材<br>(竹パウダー)の件数 | 234   | 290   | 239   | 242   | 284   |
| 累計(件)                      | 3,235 | 3,716 | 4,140 | 4,571 | 5,087 |

#### ダンボールコンポストとは

文字どおりダンボールでできており、安価で、プラスチック製品よりも環境にやさしいものです。お庭や畑のない家庭でも手軽に体験できるようにと、市民と協働して開発し、市内福祉施設と協力して作製しました。生ごみを混ぜ込む基材には竹から作った「竹パウダー」(竹を細かく破碎したもの)を使用したり、ダンボールに被せる虫除けカバーは、古布リサイクル品から作ったりするなど、工夫と試行錯誤を重ねた日野市オリジナル品です。



(指標 31) : 生ごみリサイクルステッカー掲示世帯数

| 年度        | 16    | 17    | 18    | 19    | 20    |
|-----------|-------|-------|-------|-------|-------|
| 世帯数(当該年度) | 89    | 92    | 136   | 119   | 104   |
| 累計(件)     | 1,370 | 1,462 | 1,598 | 1,717 | 1,821 |

生ごみリサイクルステッカーとは

家庭での生ごみ処理の輪が更に広がるよう、また、生ごみを可燃ごみとして出さない人が市内にどの位いるのかわかるよう、玄関ドアなどに掲示するステッカーです。



## 2-3 市民・事業者への啓発

(指標 32) : 環境学習出前講座の実施回数

| 年度   | 16 | 17 | 18 | 19 | 20 |
|------|----|----|----|----|----|
| 実施回数 | 36 | 35 | 31 | 3  | -  |

※2020 年度は新型コロナウイルス感染拡大の影響を受け、開催中止

(指標 33) : ごみ相談窓口への相談件数

| 年度   | 16    | 17    | 18    | 19    | 20 |
|------|-------|-------|-------|-------|----|
| 相談件数 | 5,412 | 5,863 | 6,405 | 7,492 | -  |

※2020 年度は新型コロナウイルス感染拡大の影響を受け、休止

最新の情報提供手段「ごみ分別アプリ」とは

日野市ではごみ関連情報を確認できるスマートフォン・タブレット用無料アプリ「日野市ごみ分別アプリ」を配信しています。

アプリ内では、収集スケジュール、ごみ分別辞典、ごみの出し方、ごみ関連マップなどの情報確認や、出し忘れ防止アラート等の機能を使用することが可能です。

「ごみ分別アプリ」は右の QR コードからダウンロードできます。



アイフォン用



アンドロイド用



### 3. 環境の現状と取組状況の評価

(指標 34) : クリーンセンター見学者数

| 年度      | 2016  | 2017  | 2018 | 2019 | 2020 |
|---------|-------|-------|------|------|------|
| 見学者数(人) | 1,255 | 1,247 | －    | －    | 396  |

※2018 年度及び 2019 年度はクリーンセンター建替え工事のため、見学中止

※2020 年度は、新型コロナウイルス感染症の影響により、一部を除き中止。

(指標 35) : 新聞紙の行政回収量

| 年度       | 16  | 17  | 18  | 19  | 20  |
|----------|-----|-----|-----|-----|-----|
| 行政回収量(t) | 451 | 405 | 326 | 307 | 296 |

## 3.<市民コメント>

### ■レジ袋無料配布中止への取り組み

レジ袋無料配布中止を市内全スーパーに拡大するため、スーパー・市民団体・行政による「レジ袋無料配布中止に向けた共同会議」を定期的に開催してきました。しかし、こうした地域での自主的な取り組みには限界があることから、国は 2019 年 12 月に法律により全小売店にレジ袋有料化を義務付け、2020 年 7 月 1 日から実施しています。肝心なのは、市民がマイバッグを持参し、レジ袋を買わないようにすることです。

### ■容器包装お返し大作戦！

市は、2010 年 4 月以来、ペットボトルと発泡トレーの収集頻度を 2 週に 1 回から 4 週に 1 回に減らすことによって販売店への返却を推進してきました。

これまでは、発泡トレーなど一部の容器包装プラスチックごみのみを分別収集し、大半のプラごみは不燃ごみとしていましたが、2020 年 1 月から、発泡トレーを含め、すべてのプラごみを一括収集すると同時に、収集を有料化しています。発泡トレーの販売店への返却への影響としては、収集の有料化によって返却が促進される一方、収集頻度が 4 週に 1 回から週 1 回に増えることから返却が後退するというプラス・マイナス両面が考えられます。

### ■全プラスチックごみ一括収集の効果

すべてのプラごみを一括収集することによって、2020 年度の総資源化率は 39.2%となり、前年度の 34.4%から 4.8 ポイント上昇しています。

また、収集の有料化により、2020 年度のプラごみ＋不燃ごみ（これまではプラごみが混入）の 1 人 1 日当たり排出量は、前年度の 73.6 g から 4.5 g 減少して 69.1 g となっています。収集有料化は、プラごみの発生抑制と発泡トレーの販売店への返却を促し、プラごみの排出を削減する効果が期待できそうです。

#### ■ダンボールコンポストの普及啓発活動

「生ごみリサイクルサポーター連絡会」では、ダンボールコンポストを普及させるため、これまで、使い方講習会や各種イベントでの展示・説明・チラシ配布を実施するとともに、市のごみ情報誌『エコー』の「市民のページ」や『生ごみ菌ちゃん通信』などの媒体を利用してきました。

ダンボールコンポスト申込者に対してダンボールコンポストの認知経路についてのアンケート調査を行ったところ、認知経路としては、講習会やイベントよりも『エコー』や広報のようなマス媒体の方が圧倒的に多いことがわかりました。今後は、『エコー』や広報とともに、2020年7月に開設した「ひの・まちの生ごみを考える会」のホームページ「なまごみへらそ！」を活用していきます。

#### ■生ごみの地域内循環

「まちの生ごみ活かし隊」は、新井地区の人たちとともに、約160世帯の生ごみを戸別回収し、「せせらぎ農園」の畑に直接投入して野菜を栽培しています。

ここは、新しい都市農業の一つのかたちとして、また、地域の人たちの居場所や農体験を通しての食育や環境教育の場として、各方面から注目され、毎年市内外から2,500人前後の見学者が訪れています。

しかしながら、新井の農地一帯の区画整理が計画されており、市に要望して、持続的な利用が可能な土地を確保してもらいました。

# 地球温暖化分野

## < 目 標 > 低炭素社会を築くまち

### 1. <環境の現状>

#### 1. -1 二酸化炭素排出量

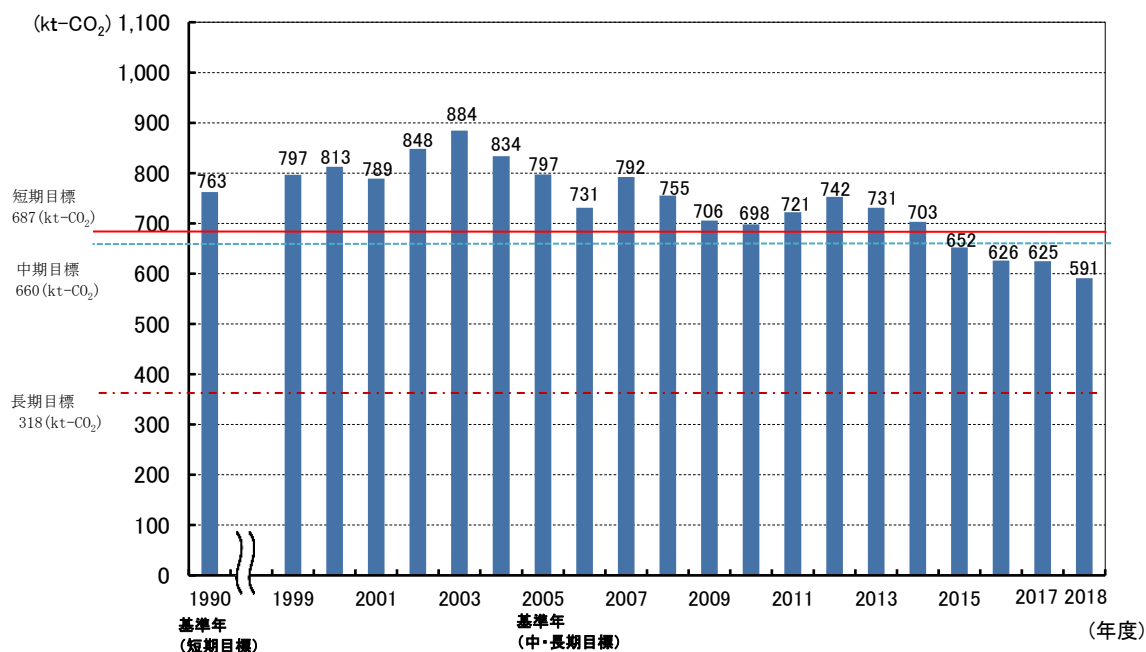
☺ 指標 36 : 二酸化炭素排出量 (日野市全体)

削減率

短期目標 10% (2015 年度): 基準年度 1990 年

目標値: 中期目標 17% (2020 年度): 基準年度 2005 年

長期目標 60% (2050 年度): 基準年度 2005 年



### 【中期目標は達成！みんなの力で長期目標の達成を】

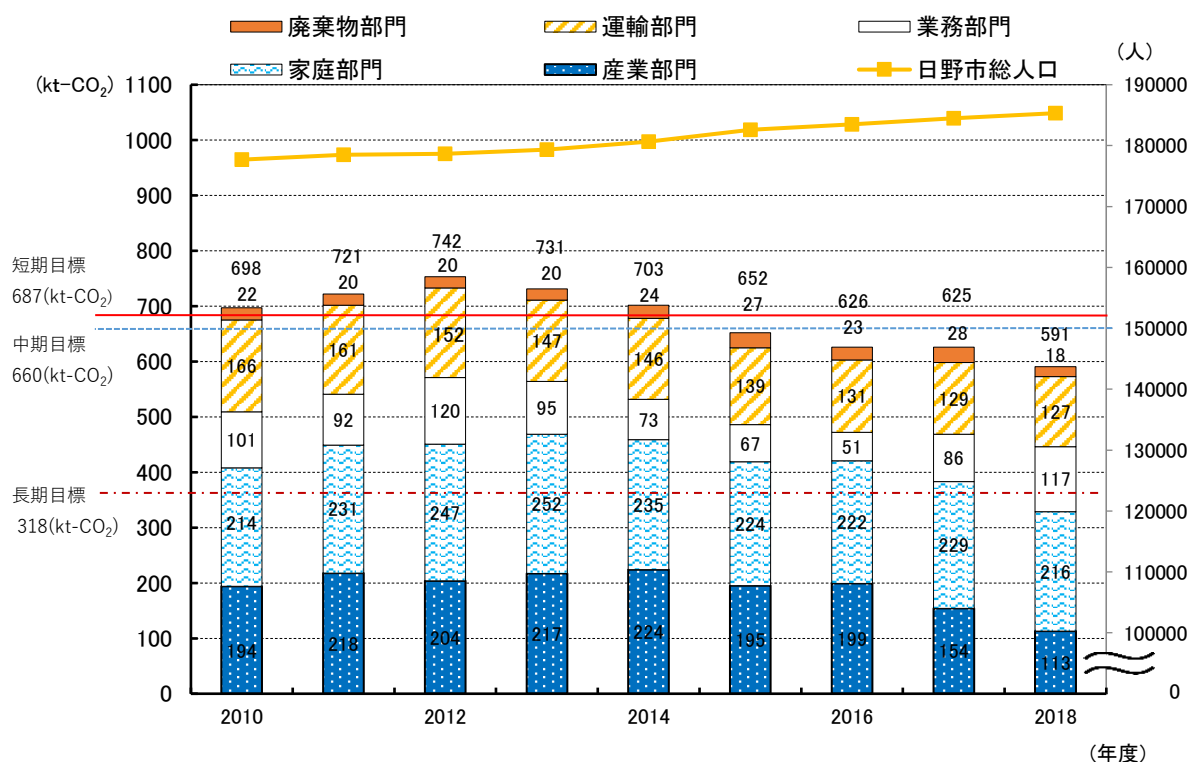
日野市では 2012 年 3 月に「第 3 次日野市地球温暖化対策実行計画」を策定し、2017 年 3 月に見直し版を策定し、二酸化炭素排出量の目標値を定めました。

二酸化炭素排出量は、オール東京 62 市区町村共同事業「みどり東京・温暖化防止プロジェクト」がまとめた数値を使用しています。(2018 年度の数値が最新)

2013 年度からは減少が続き、2020 年度までに達成すべき中期目標を達成しました。

次の長期目標 (2050 年までに 318kt-CO<sub>2</sub>) については、国等の動向を踏まえ、現状より高い目標を今後設定していく可能性があります。目標を達成するためにも、継続した取り組みが大切です。

☺ 指標 36：二酸化炭素排出（日野市 部門別）



## 【「産業部門」が大幅に減りました】

前ページの指標 36 の 2010 年度からについて、部門ごとの推移を表したグラフです。

2018 年度は業務部門で増加し、廃棄物・運輸・家庭・産業の各部門で減少しました。

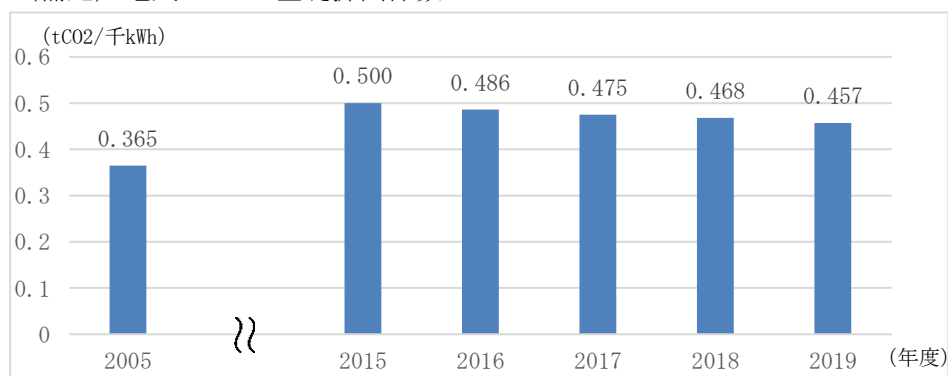
特に産業部門は、前年度から 2 割以上、2010 年度から 4 割以上の削減となりました。

最も大きな排出部門である家庭部門では、日野市の総人口が増加している中、近年はわずかに減少または横ばいの傾向です。家庭部門が全排出量の 36.5% を占めていることから、家庭部門の二酸化炭素排出量の削減が一層求められます。

継続して CO<sub>2</sub> の排出を減らすためには、より多くの市民が自分事として、一人ひとりが省エネに取り組む必要があります。

### 3. 環境の現状と取組状況の評価

(補足) 電気の CO<sub>2</sub> 基礎排出係数



数値の出典：東京電力ホールディングス㈱ホームページ

エネルギーから排出する CO<sub>2</sub> を計算する際には、排出係数という数値を用います。

電気の CO<sub>2</sub> 排出係数は、発電方法の違いから、電気事業者ごと・年度ごとに異なります。

上のグラフでは、例として東京電力ホールディングス㈱の CO<sub>2</sub> 基礎排出係数を示しました。

2005 年の基準年と比べて、2011 年東日本大震災に伴う原子力発電停止及び火力発電増加の影響により、近年は CO<sub>2</sub> 基礎排出係数が高くなっていると考えられます。この係数が高くなると、同じ量の電気を使っているにもかかわらず、より多くの CO<sub>2</sub> が排出されることとなります。

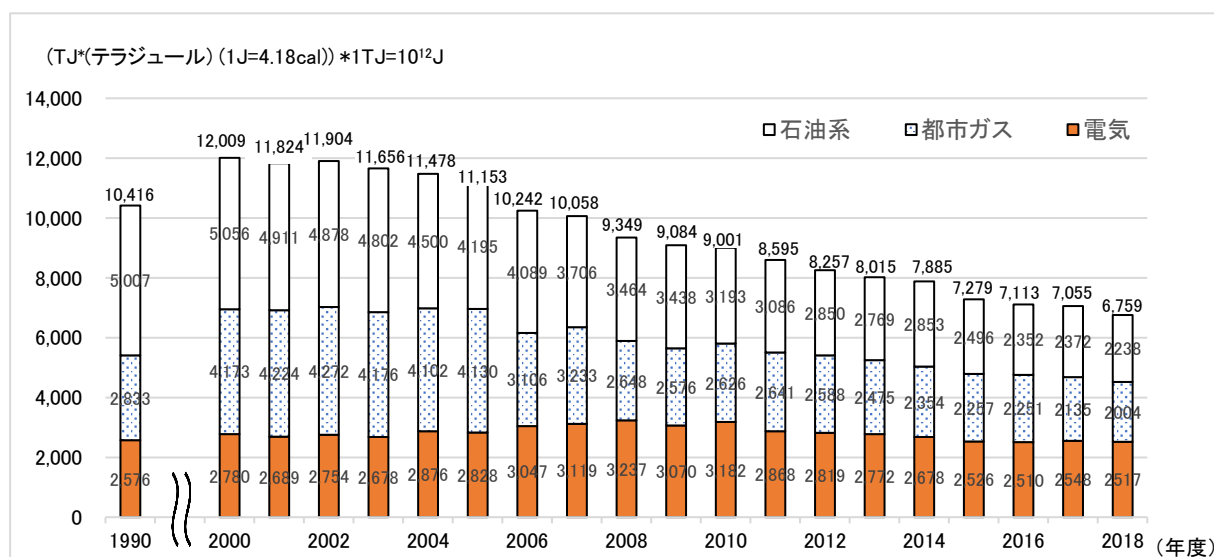
## 1.-2 エネルギー使用量

(参考 11) 日野市のエネルギー使用量

第2次環境基本計画では目標値が設定されていましたが、第3次地球温暖化対策実行計画では二酸化炭素排出量に目標が集約されているため、エネルギー使用量の目標値は設定されていません。そのため、参考扱いとします。

エネルギー使用量は、2006年以降は減少傾向にあり、特に石油系の使用量が大幅に減少しています。

日野市のエネルギー使用量



出典：オール東京 62 市区町村共同事業 「多摩地域の温室効果ガス排出量」 報告書

### 3. 環境の現状と取組状況の評価

#### 1.-3 公共交通機関(ミニバス・バス)の整備率

目標値: 80.0%

(2020 年度)

☺ 指標 37: 公共交通機関(ミニバス・バス)の整備率

| 年度   | 公共交通機関の整備率 |
|------|------------|
| 2011 | 79.0%      |
| 2012 | 79.2%      |
| 2013 | 79.6%      |
| 2014 | 79.6%      |
| 2015 | 80.1%      |
| 2016 | 80.1%      |
| 2017 | 80.1%      |
| 2018 | 80.1%      |
| 2019 | 73.6%      |
| 2020 | 73.9%      |

「日野市地域公共交通総合連携計画 2019-2028」の策定にともない、2019 年度から交通空白地域の再定義を行いました。

2018 年度以前では、日野市においては交通空白地域の定義を「鉄道駅から 500m 圏外、またはバス停から 200m 圏外」としていたところ、2019 年度からはこの定義を踏襲しつつ、道路勾配に応じ、200m よりも短い圏域も含むこととしました。以前よりも厳しい定義としたため、整備率は下がりましたが、2018 年度以前の定義

では目標を達成しています。2020 年度にバス停を 2 箇所新設したため、整備率が上がりました。

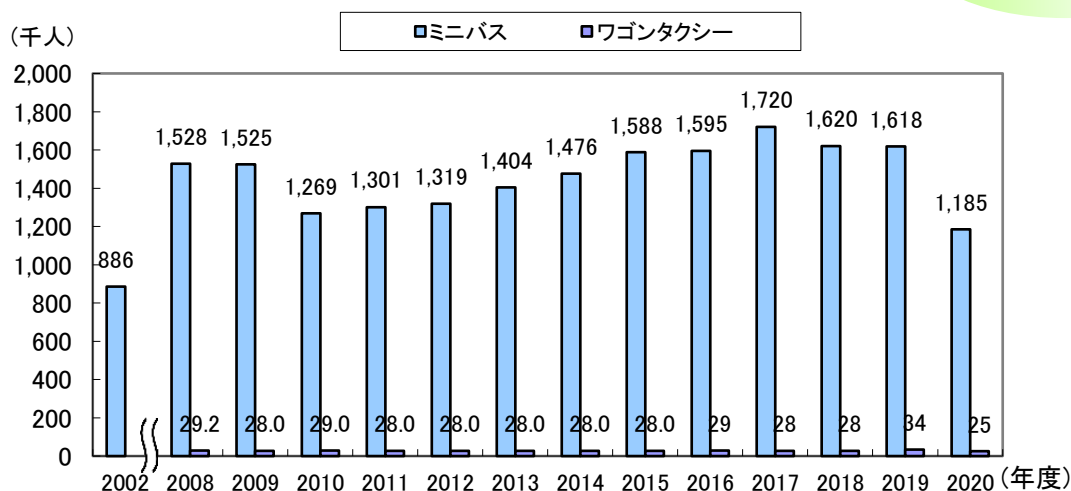
#### 1.-4 公共交通機関(ミニバス・バス)の利用人数

ミニバス

目標値: 158 万人

(2020 年度)

☹ 指標 38: 市内連絡バス(ミニバス)年間利用者数



公共交通機関を拡充することにより、利便性の向上や、利用者の増加による温室効果ガスなどの排出削減が期待されます。

2020 年度のミニバスの利用者は、前年度より 433,000 人減少し 1,185,000 人となりました。この大幅な減少の理由としては、新型コロナウイルス感染症の影響により外出が大幅に減ったことが考えられます。しかしながら 2015 年度から 2019 年度までは連続して目標値を超えています。

ミニバスの利用者は、2002 年度\*と 2019 年度を比較すると約 1.8 倍に増加しました。路線・運行時間帯の拡充を行ない利便性の向上が図られたことや、通勤・通学者の利用増、高齢社会の到来による免許証返納等に起因し、マイカーから公共交通への移動手段の変換などが主な理由と考えられます。 \*運行開始は 1986 年 8 月 20 日

ワゴンタクシーの利用者は、前年度より 9,000 人減少し、25,000 人でした。減少した主な理由は、上記ミニバスと同様に新型コロナウイルスの影響と考えられます。

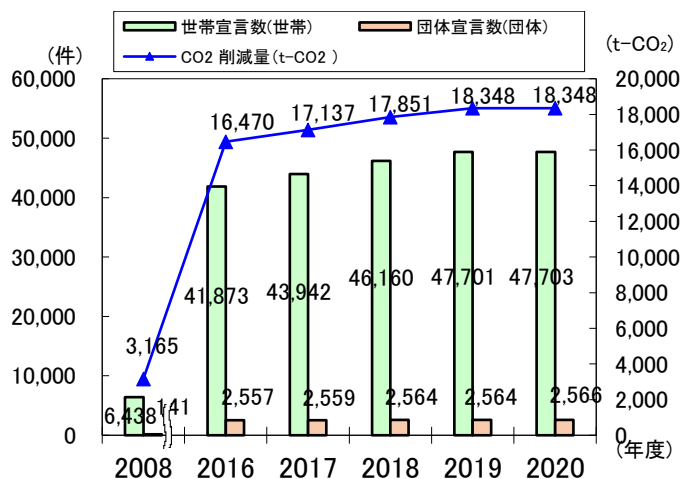
## 1.-5 「ふだん着で CO<sub>2</sub> をへらそう宣言」の宣言数及び CO<sub>2</sub> 削減量

☺ 指標 39 : 「ふだん着で CO<sub>2</sub> をへらそう宣言」の宣言数及び CO<sub>2</sub> 削減量

目標値 : 35,000 世帯

2,500 団体

16,160t-CO<sub>2</sub>



2020 年度は新型コロナウイルス感染症拡大防止の影響で、市主催イベントが軒並み中止され、市民への啓発活動を行うことが出来ませんでした。そのため「ふだん着で CO<sub>2</sub> をへらそう宣言」の宣言数は微増に留まりましたが、増加を続けており、2019 年度はイベントにおける宣言数獲得運動に力を入れ、新たに 1,541 件の世帯宣言数を得ました。引き続き市民の皆様へ、日々の生活での CO<sub>2</sub> 削減のご協力をお願いしていきます。

### 3. 環境の現状と取組状況の評価

## 2. <市の取組状況>

| 目標         | 施策の方向            | 施策                    |                          | 具体的な取組                                                                                                    | 実施状況                                                                                                                                                                           |
|------------|------------------|-----------------------|--------------------------|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 低炭素社会を築くまち | 省エネルギーの推進        | 家庭における省エネルギーの促進       | CO <sub>2</sub> の見える化の推進 | ワットチェッカーの貸し出しやモニターによる省エネ実践、身近にふれるもの(食料品、省包装商品など)のCO <sub>2</sub> 削減効果のデータ化などにより、CO <sub>2</sub> の見える化を図る。 | 2020年度のワットチェッカー・省エネナビの貸し出しは、それぞれ2件ずつでした。省エネセミナー等の環境学習についてはコロナ禍で実施できませんでした。また2020年1月から日野市でプラスチック類分別回収が始まったこともあり、今後は容器包装削減についても意識向上を図ってまいります。<br>(環境保全課)<br>→指標 40(P.53)         |
|            |                  |                       | 「ひのっ子エコアクション」の推進         | 市民団体と市関連部署との連携により、各学校での「ひのっ子エコアクション」をさらに推進する。それによって、環境配慮行動を当たり前のようにできるひのっ子を育み、家庭での取組にもつなげていく。             | 「ひのっ子エコアクション」(事務局:教育委員会庶務課)の運営委員として環境保全課職員が参加しているが、令和2年度はコロナの影響もあり未実施。また環境保全課職員が講師となり、各校の担当教員向けに行っている環境研修も実施できませんでした。<br>(環境保全課)                                               |
|            |                  | 工場や事業所の省エネルギーの促進      | 省エネ診断の支援                 | 小規模な工場や事業所でも省エネ診断をできるよう、省エネ診断に関する情報提供や省エネ診断員の紹介等を行なう。                                                     | 2020年度の省エネ診断参加事業者数は1件で、累計25件にとどまっています。CO <sub>2</sub> 削減のみならず、光熱水費という経費削減につながるメリットを伝えられるよう、周知方法についても検討し、少しでも事業所の省エネが進むよう努めています。<br>(環境保全課)<br>→指標 41(P.53)                     |
|            | 新エネルギーの導入        | 家庭への太陽光発電等の導入促進       | 太陽光発電等導入補助の実施            | 国・都が推進する太陽光発電システムや太陽熱温水器、高効率機器等の導入を促進するために、日野市としても上乗せの補助を実施する。                                            | 2019年度を最後に太陽光発電等導入補助金事業を終了しました。<br>(環境保全課)<br>→指標 42(P.54)                                                                                                                     |
|            |                  | 公共施設における太陽光等新エネルギーの活用 | 太陽光、太陽熱、風力等の積極的な活用       | 公共施設において、新築、改築、大規模修繕等の各種事業に合わせて、積極的な新エネルギーの導入を図る。                                                         | 各学校の修繕等の際に、再生可能エネルギー設備の設置を検討しています。2020年度は太陽光発電システムの導入はありませんでした。<br>(環境保全課)<br>→指標 43(P.54)                                                                                     |
|            | 交通環境に配慮した交通体系の構築 | 自動車利用時の排出ガスの低減        | 渋滞の解消                    | 交差点改良や道路の拡幅、バイパス化、路上駐車規制、ITS(※)の導入、荷さばき用の駐車場の確保等により渋滞を解消し、自動車のスムーズな定速走行を促進することで、CO <sub>2</sub> 排出量を抑制する。 | ・舗装の走行性(走行時の安定性)が低下することで自動車の燃費が悪化し、二酸化炭素の排出量は増加する傾向にある。<br>・道路課では、2012年度に車道舗装補修計画(10年計画)を策定し、2013年度より市道の舗装補修を実施している。<br>・この舗装補修により、自動車の燃費悪化の抑制を図っている。<br>(道路課)<br>→指標 44(P.54) |

※ITS(高度道路交通システム):交通渋滞の緩和、円滑な輸送効率の確保、環境の保全などを目指し、最先端の情報通信技術や制御技術を用いて人と道路と車両を一体のシステムとして構築する新しい道路交通システムの総称

## 資料編

### 2-1 省エネルギーの推進

(指標 40) : ワットチェッカー等貸出状況

| 年度   | ワットチェッカー |       | 省エネナビ |       | 環境家計簿活用件数  |
|------|----------|-------|-------|-------|------------|
|      | 貸出数      | 累計貸出数 | 貸出数   | 累計貸出数 | (エコキング回収数) |
| 2016 | 29       | 250   | 2     | 145   | 14,399     |
| 2017 | 12       | 262   | 6     | 151   | 14,473     |
| 2018 | 10       | 272   | 4     | 155   | 14,040     |
| 2019 | 1        | 273   | 1     | 156   | 13,583     |
| 2020 | 2        | 275   | 2     | 158   | 7,135 ※    |

※新型コロナウイルス感染症拡大による影響のため、年2回行っているエコキング回収が1回のみの実施となったことにより、例年と比べ数値が半減しています。

#### ワットチェッカーとは

消費電力量等を簡単に測定できる機器であり、コンセントに設置して、対象家電の電源プラグを差し込んで測定します。

#### 省エネナビとは

家庭の分電盤に設置して電力消費量を計測し、モニターに表示する機器です。

#### 環境家計簿とは

家庭で使用した電気やガスなどを記録し、どのくらいのCO<sub>2</sub>を排出しているかを確認するものです。

日野市では、市内の全小学校を対象に年2回、「エコキング」と称して1日環境家計簿の作成呼びかけと集計をしています。エコキングは、市民・事業所・市による「環境基本計画推進会議CO<sub>2</sub>グループ」が実施しています。

(指標 41) : 省エネ診断の参加事業者数

| 年度         | 16 | 17 | 18 | 19 | 20 |
|------------|----|----|----|----|----|
| 参加事業者数(単年) | 0  | 0  | 2  | 1  | 1  |
| 参加事業者数(累計) | 21 | 21 | 23 | 24 | 25 |

### 3. 環境の現状と取組状況の評価

#### 2-2 新エネルギーの導入

(指標 42) : 太陽光発電等の補助金による導入促進事業

| 年度                    | 2016 | 2017 | 2018 | 2019 | 2020 |
|-----------------------|------|------|------|------|------|
| 太陽光発電 (件)             | 38   | 37   | 36   | 28   | -    |
| 高効率給湯設備<br>(件)        | 5    | 5    | 15   | 11   | -    |
| 累計 (件)<br>(2011 年度より) | 287  | 329  | 380  | 419  | -    |

※2020 年度においては、目標導入累計数を達し、太陽光発電システム等の設置に関して啓発が浸透し、補助金が伴わずとも普及が進んでいる状況を考慮して、補助金制度を廃止しています。

(指標 43) : 公共施設の新エネルギー導入状況

| 年度   | 新エネルギー導入状況 (kW) ※ | 備考                                                                                    |
|------|-------------------|---------------------------------------------------------------------------------------|
| 2016 | 194 (29)          | 日野第二中学校 29kW                                                                          |
| 2017 | 194.36 (0.36)     | カワセミハウス、百草台自然公園、市民の森スポーツ公園、多摩平第一公園 各 0.09kW 計 0.36kW                                  |
| 2018 | 194.36 (0)        | 新規導入なし                                                                                |
| 2019 | 198.035 (3.675)   | 南平小学童クラブ 3.675 kW                                                                     |
| 2020 | 198.035 (0)       | 新規導入なし<br>※日野市単独の所有ではありませんが、浅川清流環境組合の可燃ごみ処理施設では、30 kW の太陽光パネル及び 5,190kW のごみ発電を導入しました。 |

※2009 年度からの累計。カッコは単年度の導入数値

#### 2-3 環境に配慮した交通体系の構築

(指標 44) : 都市計画道路の整備率

| 年度        | 都市計画道路の整備率 (%) |
|-----------|----------------|
| 2010      | 89.9           |
| 2011～2020 | 92.8           |

### 3.<市民コメント>

1. 家庭部門の排出比率が36.5%と高いが、これは、多くの工場が海外も含めて、他に移転したことが大きな原因。世界的には、家庭部門の比率は、14%程度。家庭部門の削減は、重要であるものの、生活パターン(過剰消費)を変えていくことがより重要である。
2. 色々な施策を行っているものの、国、都との連携を重視した計画、施策が必要。市独自の施策でも良いが、現時点では、国、都に対して見劣りが否めない。
3. 温暖化対策は、2030年までが非常に重要なので、数値目標をかなり高くする必要がある。太陽光パネルの家庭、公共施設、工場の屋根、コンビニを含めた店舗の屋根設置推奨。また、特典を計画すべき。
4. 時代の変化に対応すべく、企業(re100企業含む)、大学との連携、強力を推進する。また、工場等廃熱水を出すものを家庭に持って来る仕組みを構築する。
5. 一般市民に啓発する前に、小学校、中学校の校長、教師に何回かけて、研修会実施。
6. マンションの充電ステーション設置、蓄電池の普及促進を国、都と連携して行う。

# 生活環境分野

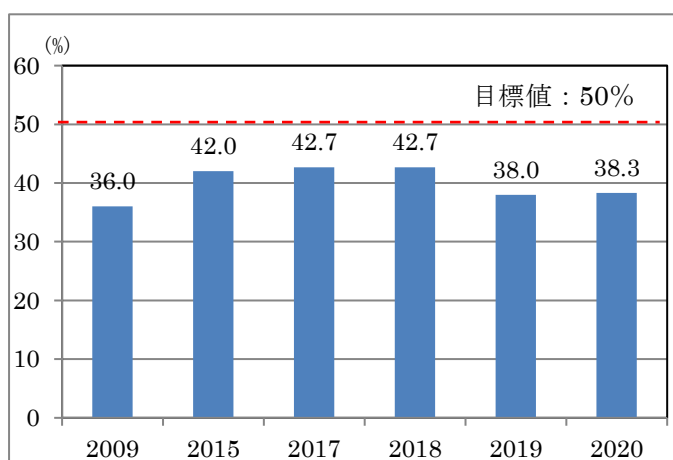
## ＜ 目 標 ＞ 心やすらぐ住みよいまち

### 1.＜環境の現状＞

#### 1.-1 心やすらぐ快適な生活環境であると感じる市民の割合

☹ 指標 45：心やすらぐ快適な生活環境であると感じる市民の割合

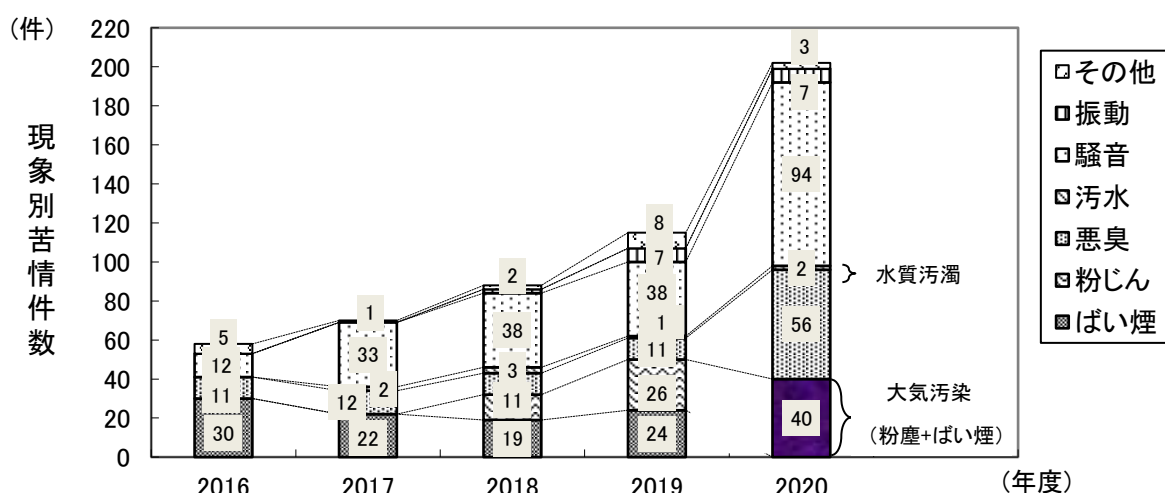
目標値：50.0%  
(2020 年度)



2020 年度の市民意識調査による「きれいな水や空気・騒音やポイ捨てがないなど、良好な生活環境が確保されている」という項目へ「そう思う」又は「どちらかといえばそう思う」と回答した率は 38.3%で前年度から 0.3 ポイント増加しました。

残念ながら目標値に達することは出来ませんでしたが、引き続き快適な生活環境の実現に向けた取組みを実施し、向上に努めます。

(参考 12) 苦情受付件数



市に寄せられた環境・公害に関する 2020 年度の苦情件数は 202 件となりました。

騒音・悪臭に関する苦情件数が大幅に傾向しました。騒音は、新型コロナウイルスによる在宅化進行によって、近隣の騒音が気になるケースが増加したと考えられます。同様に、悪臭も在宅化進行によって、農地等で行われる野焼きが気になるケースが大幅に増加したと考えられます。

## 2.〈市の取組状況〉

| 目標          | 施策の方向          | 施策              | 具体的な取組           | 実施状況                                                                                                                  |
|-------------|----------------|-----------------|------------------|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 心やすらぎ住みよいまち | 日常生活をとりまく環境の充実 | 快適な生活環境の確保      | PRの実施            | 誰もが快適に暮らし安らぐ生活環境を維持・確保するために、一人ひとりが近隣に配慮した行動を心がけるようPRを実施した。<br>(環境保全課)<br>→指標 46(P.58)                                 |
|             |                |                 | 苦情に対する適切な対応      | 市民等から生活環境に関わる苦情・要望等が寄せられた場合には、状況を確認し、適切に対応する。<br>(環境保全課)                                                              |
|             | 公害対策の推進        | 大気・土壌・地下水汚染等の防止 | 大気汚染物質の監視        | 窒素酸化物、大気中のダイオキシン類の濃度を継続的に測定する。数値の悪化を防ぐため引き続き監視を行なうと共に、光化学スモッグなど健康に影響を与える情報は速やかに公表する。<br>(環境保全課)<br>→指標 47～50(P.58,59) |
|             |                | 騒音・振動対策の推進      | 道路交通騒音の測定及び対策の実施 | 道路交通騒音を定期的に測定し、現状の把握に努める。また、環境基準(または要請限度)を超過するなどの場合には、関係部署と連携し、適切な処置を講ずるよう努める。<br>(環境保全課)<br>→指標 51(P.61)             |
|             |                |                 | 航空機騒音についての対策     | 市内の航路に該当する地点の航空機騒音を定期的に測定し、現状把握に努めた。また、環境基準を超えることはなかったが、市民等からの苦情・要望等に対しては、適切な処置を講じた。<br>(環境保全課)<br>→指標 52(P.62)       |

### 3. 環境の現状と取組状況の評価

#### 資料編

#### 2.-1 日常生活をとりまく環境の充実

(指標 46) : マナーアップのための啓発活動状況

| マナーアップのための<br>啓発活動状況 | 2016 年度 | 2017 年度 | 2018 年度 | 2019 年度 | 2020 年度 |
|----------------------|---------|---------|---------|---------|---------|
| 喫煙マナーアップ<br>キャンペーン   | 3       | 3       | 0       | 1       | 1       |
| 広報によるマナー啓発           | 8       | 8       | 8       | 8       | 8       |
| 犬・猫の飼い方講習会           | 3       | 4       | 3       | 3       | 1       |
| 自治会によるマナー啓発          | 2       | 2       | 2       | 2       | 2       |
| 計                    | 16      | 17      | 13      | 14      | 12      |

#### 2.-2 公害対策の推進

(指標 47) : 浮遊粒子状物質(SPM)年平均値

| 年度                                   | 15    | 16    | 17    | 18    | 19    |
|--------------------------------------|-------|-------|-------|-------|-------|
| 日野市<br>(川崎街道百草園)(mg/m <sup>3</sup> ) | 0.018 | 0.015 | 0.015 | 0.017 | 0.015 |
| 多摩部平均 (mg/m <sup>3</sup> )           | 0.020 | 0.017 | 0.017 | 0.017 | 0.015 |
| 都平均 (mg/m <sup>3</sup> )             | 0.025 | 0.023 | 0.023 | 0.019 | 0.017 |

なお、本書編集時点での最新データとなる 2019 年度の微小粒子状物質(PM<sub>2.5</sub>)の同測定局結果は、1 年平均値が 0.0103mg/m<sup>3</sup>、1 日平均値が 0.0236mg/m<sup>3</sup> となり、環境基準(H21.9.9 環境省告示)である「1 年平均値が 0.015mg/m<sup>3</sup> 以下であり、かつ、1 日平均値が 0.035mg/m<sup>3</sup> 以下であること。」を下回るものとなりました。

#### 浮遊粒子状物質

#### (SPM: Suspended Particulate Matter)とは

大気中に浮遊している粒径 10 μm 以下の粒子と定義されています。

その構成成分は多種多様で、例えば自動車(主にディーゼル車)の排気ガスに含まれている燃焼の際のスス等(排気管一次粒子)や、タイヤや路面が摩耗して堆積し、自動車の走行によって巻き上げられるもの、海塩粒子、土壌粒子等も含まれますし、ガス状物質として大気中に放出されたものが粒子に変化して、硝酸塩等になる二次生成粒子と呼ばれるものも含まれます。

#### 環境基準

「1時間値の1日平均値が 0.10mg/m<sup>3</sup> 以下であり、かつ、1時間値が 0.20mg/m<sup>3</sup> 以下であること。」

(S48. 5.8 告示)

#### 微小粒子状物質(PM<sub>2.5</sub>)とは

大気中に浮遊している粒径 2.5 μm(1 μm は 1mm の千分の 1)以下の小さな粒子のことで、従来から環境基準を定めて対策を進めてきた浮遊粒子状物質(SPM:10 μm 以下の粒子)よりも小さな粒子です。

PM<sub>2.5</sub> は非常に小さいため(髪の毛の太さの 1/30 程度)、肺の奥まで入りやすく、呼吸器系への影響に加え、循環器系への影響が心配されます。

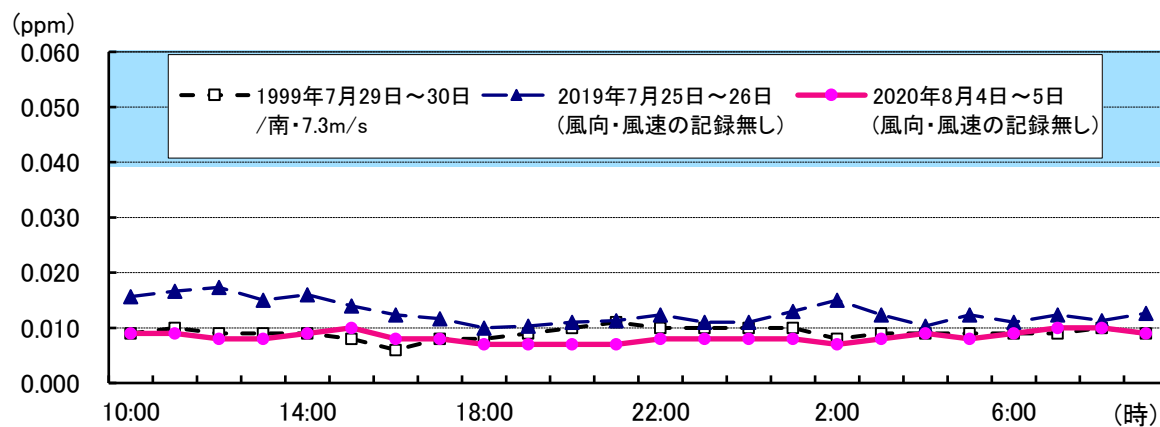
粒子状物質には、物の燃焼などによって直接排出されるものと、硫黄酸化物(SO<sub>x</sub>)、窒素酸化物(NO<sub>x</sub>)、揮発性有機化合物(VOC)等のガス状大気汚染物質が、主として大気中での化学反応により粒子化したものがあります。発生源としては、ボイラー、焼却炉などのばい煙を発生する施設、コークス炉、鉱物の堆積場等の粉じんを発生する施設、自動車、船舶、航空機等、人為起源のもの、さらには、土壌、海洋、火山等の自然起源のものもあります。

(出典：環境省「微小粒子状物質(PM<sub>2.5</sub>)に関する情報」  
<http://www.env.go.jp/air/osen/pm/info.html>)

(指標 48): 二酸化窒素の年平均濃度

| 西暦        | 2015  | 2016  | 2017  | 2018  | 2019  |
|-----------|-------|-------|-------|-------|-------|
| NO2 (ppm) | 0.016 | 0.015 | 0.016 | 0.015 | 0.013 |

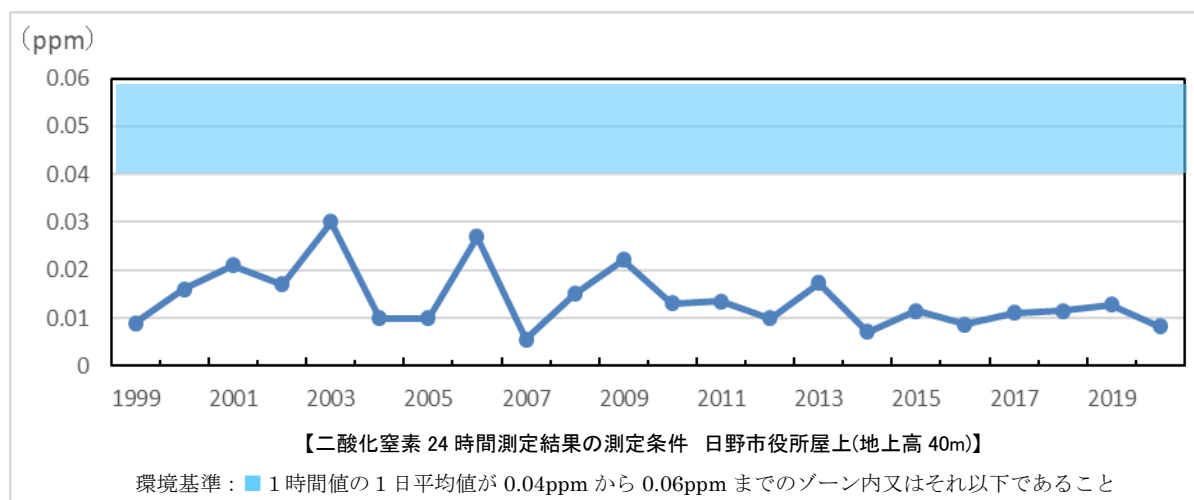
(指標 49): 二酸化窒素 24 時間測定結果(日野市役所屋上)



【二酸化窒素 24 時間測定結果の測定条件 日野市役所屋上(地上高 40m)】

環境基準: ■ 1 時間値の 1 日平均値が 0.04ppm から 0.06ppm までのゾーン内又はそれ以下であること

(指標 49): 二酸化窒素 24 時間測定結果(各年度データ・日野市役所屋上)



【二酸化窒素 24 時間測定結果の測定条件 日野市役所屋上(地上高 40m)】

環境基準: ■ 1 時間値の 1 日平均値が 0.04ppm から 0.06ppm までのゾーン内又はそれ以下であること

※各年度ごとに測定した日(1 日間)24 時間の平均データ

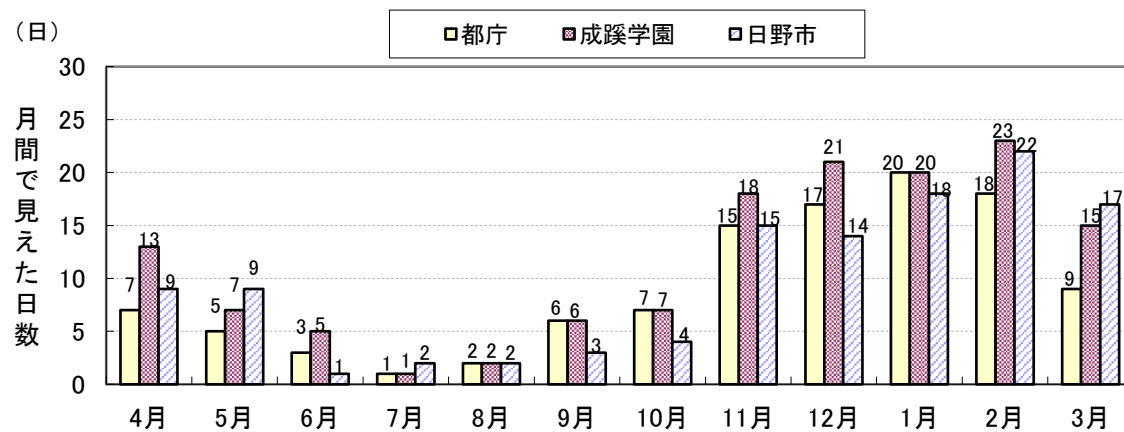
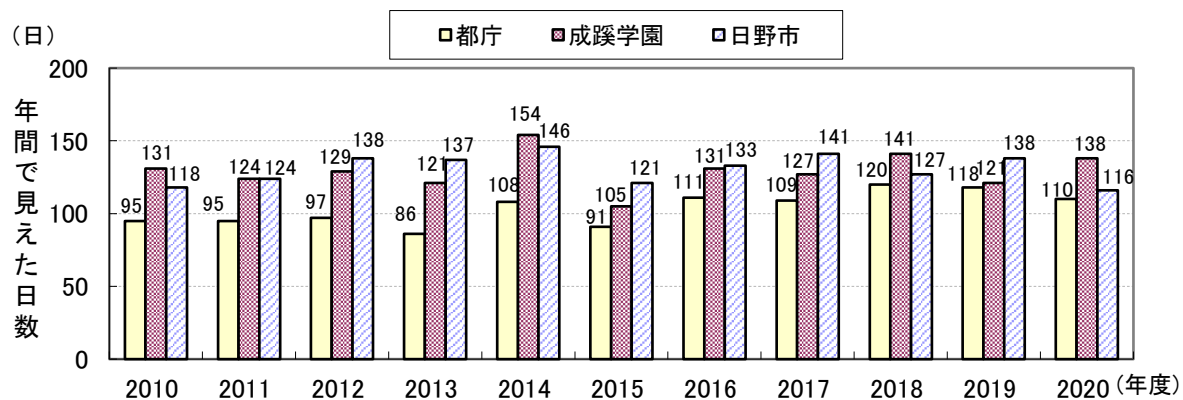
(指標 50): 雨の酸性度

| 年度     | 2016 | 2017 | 2018 | 2019 | 2020 |
|--------|------|------|------|------|------|
| 年平均 PH | 5.2  | 5.0  | 5.1  | 5.2  | 6.0  |

### 3. 環境の現状と取組状況の評価

(参考13) 富士山ウォッチング(富士山が見えた回数)

※各3地点とも、毎日定時に観測し、かすかに見える日を含んでカウントしている。



都庁 = 毎日9時に観測 場所: 新宿区都庁舎35階 (標高191.5m)

成蹊学園 = 毎日9時に観測 場所: 武蔵野市吉祥寺北町 (標高56.0m)

日野市 = 毎日8時に観測 場所: 南平5丁目 (七生中南東角交差点付近: 標高75.0m)

(指標 51):道路交通騒音

(dB)

| 路線名                | 測定地点                       | 昼間   | 夜間   |
|--------------------|----------------------------|------|------|
| 国道 20 号<br>バイパス    | 市立病院<br>(多摩平 4-3-1)        | 68.6 | 64.5 |
|                    | JA 日野支店<br>(万願寺 6-35-13)   | 70.0 | 66.6 |
| 都道 155 号           | 富士電機社宅前<br>(旭が丘 1-8)       | 64.5 | 59.8 |
| 都道 173 号<br>(北野街道) | 第 6 分団消防小屋前<br>(平山 5-1-19) | 65.5 | 60.2 |
| 都道 41 号<br>(川崎街道)  | 三沢浄水場前<br>(三沢 1-19-1)      | 60.7 | 57.1 |
| 503 号線<br>相模原立川線   | 東部会館前<br>(石田 1-11-1)       | 67.1 | 61.0 |
| 環境基準               |                            | 70   | 65   |
| 要請限度               |                            | 75   | 70   |

**騒音測定方法について**

毎正時から 10 分間測定を行い、(1 時間の等価騒音レベルを算出し)各時間区分の等価騒音レベルを演算。

【等価騒音レベル】時間内で変動する騒音レベルのエネルギー的な平均値で、人に感じられる感覚的なうるささとの対応に優れているといわれる。

【環境基準】人の健康を保護し、生活環境を保全する上で維持されることが望ましい騒音レベルで、目標値となる。(環境基本法)

【要請限度】道路管理者に改善を要請することのできる騒音レベル。(騒音規制法)  
単位は dB(デシベル)

道路交通騒音(昼間 6～22 時)

(dB)

| (年度) | 昼間<br>6～22 時 |            |             |                 |            |                      |
|------|--------------|------------|-------------|-----------------|------------|----------------------|
|      | 国道 20 号バイパス  |            | 都道 155 号    | 都道 173 号        | 都道 41 号    | 503 号線<br>相模原<br>立川線 |
|      | 市立病院         | 農産物直売<br>所 | 富士電機社宅<br>前 | 第 6 分団消防小屋<br>前 | 三沢浄水場<br>前 | 東部会館前                |
| 16   | 68.0         | 69.0       | 64.0        | 70.0            | 63.0       | 65.0                 |
| 17   | 69.0         | 69.0       | 64.0        | 68.0            | 62.0       | 69.0                 |
| 18   | 69.0         | 69.0       | 64.0        | 66.0            | 61.0       | 68.0                 |
| 19   | 68.3         | 70.3       | 61.0        | 64.5            | 61.9       | 67.1                 |
| 20   | 68.6         | 70.0       | 64.5        | 65.5            | 60.7       | 67.1                 |

### 3. 環境の現状と取組状況の評価

道路交通騒音(夜間 22～6 時)

(dB)

| (年度) | 夜間<br>22～6 時 |            |             |                 |            |                      |
|------|--------------|------------|-------------|-----------------|------------|----------------------|
|      | 国道 20 号バイパス  |            | 都道 155 号    | 都道 173 号        | 都道 41 号    | 503 号線<br>相模原<br>立川線 |
|      | 市立病院         | 農産物直売<br>所 | 富士電機社宅<br>前 | 第 6 分団消防小屋<br>前 | 三沢浄水場<br>前 | 東部会館前                |
| 16   | 64.0         | 65.0       | 60.0        | 66.0            | 59.0       | 61.0                 |
| 17   | 65.0         | 65.0       | 60.0        | 64.0            | 58.0       | 63.0                 |
| 18   | 65.0         | 65.0       | 60.0        | 62.0            | 59.0       | 63.0                 |
| 19   | 64.9         | 67.1       | 57.5        | 60.6            | 58.4       | 59.7                 |
| 20   | 64.5         | 66.6       | 59.8        | 60.2            | 57.1       | 61.0                 |

(指標 52):横田飛行場に係る航空機騒音

| 年度       | 16   | 17   | 18   | 19   | 20   |
|----------|------|------|------|------|------|
| 騒音(Lden) | 53.0 | 51.4 | 51.4 | 50.7 | 51.0 |

※環境基準値は 57(Lden)です。

#### Ldenとは

「時間帯補正等価騒音レベル」のことで、各飛行機の騒音を、聞こえ始めから聞こえ終わりまでの人が受ける騒音エネルギーで測定した値です。

### 2.-3 放射線測定

(参考 14) 市内空間放射線量測定

| 市内空間放射線量測定<br>(平均マイクロシーベルト/毎時) | 2020 年度 |       |       |       |       |       |
|--------------------------------|---------|-------|-------|-------|-------|-------|
|                                | 4 月     | 5 月   | 6 月   | 7 月   | 8 月   | 9 月   |
| (参考)東京都新宿区百人町                  | 0.038   | 0.037 | 0.038 | 0.036 | 0.036 | 0.036 |
| ねんも公園                          | 0.06    | 0.07  | 0.05  | 0.05  | 0.04  | 0.05  |
| 程久保運動広場                        | 0.05    | 0.06  | 0.04  | 0.05  | 0.04  | 0.04  |
| 旭が丘中央公園                        | 0.03    | 0.05  | 0.04  | 0.03  | 0.04  | 0.03  |
| 多摩平第一公園                        | 0.05    | 0.05  | 0.04  | 0.05  | 0.04  | 0.04  |
| 小構公園                           | 0.06    | 0.07  | 0.07  | 0.08  | 0.04  | 0.05  |
| 市民の森スポーツ公園                     | 0.05    | 0.06  | 0.05  | 0.04  | 0.04  | 0.04  |
| やと公園                           | 0.05    | 0.06  | 0.06  | 0.06  | 0.04  | 0.05  |
| 南平公園                           | 0.07    | 0.06  | 0.06  | 0.06  | 0.05  | 0.06  |

| 市内空間放射線量測定<br>(平均マイクロシーベルト/毎時) | 2020 年度 |       |       |       |       |       |
|--------------------------------|---------|-------|-------|-------|-------|-------|
|                                | 10 月    | 11 月  | 12 月  | 1 月   | 2 月   | 3 月   |
| (参考)東京都新宿区百人町                  | 0.037   | 0.036 | 0.037 | 0.037 | 0.036 | 0.036 |
| ねんも公園                          | 0.05    | 0.07  | 0.06  | 0.06  | 0.05  | 0.05  |
| 程久保運動広場                        | 0.04    | 0.05  | 0.05  | 0.06  | 0.05  | 0.05  |
| 旭が丘中央公園                        | 0.04    | 0.04  | 0.05  | 0.05  | 0.05  | 0.04  |
| 多摩平第一公園                        | 0.05    | 0.04  | 0.05  | 0.05  | 0.05  | 0.06  |
| 小構公園                           | 0.06    | 0.06  | 0.06  | 0.06  | 0.06  | 0.06  |
| 市民の森スポーツ公園                     | 0.05    | 0.06  | 0.06  | 0.06  | 0.06  | 0.07  |
| やと公園                           | 0.06    | 0.06  | 0.06  | 0.06  | 0.07  | 0.07  |
| 南平公園                           | 0.06    | 0.06  | 0.07  | 0.07  | 0.06  | 0.05  |

調査期間:月 1 回(2019 年 4 月以降)

調査地点:市内の中学校区を基準にして 8 分割し、各校区内の 1カ所を測定場所とする。計 8 カ所。

調査内容:高さ 1 メートル位置にて、5 分間保持後、30 秒ごとに 5 回測定した空間放射線量の平均値を測定結果とする。

測定機器:RAE Systems 社製「DoseRAE2 PRM-1200」

| 中学校区    | 測定場所                |
|---------|---------------------|
| 三沢中学校区  | ねんも公園(高幡)           |
| 第三中学校区  | 程久保運動広場(程久保)        |
| 第四中学校区  | 旭が丘中央公園(旭が丘5丁目)     |
| 第二中学校区  | 多摩平第一公園(多摩平4丁目)     |
| 大坂上中学校区 | 小構公園(日野台1丁目)        |
| 第一中学校区  | 市民の森スポーツ公園(日野本町7丁目) |
| 平山中学校区  | やと公園(平山3丁目)         |
| 七生中学校区  | 南平公園(南平4丁目)         |



国の基準※では、0.23 マイクロシーベルト/毎時以上の地域が除染対象となります。2020 年度の測定結果は、基準を超える地点はなく、健康に影響を与える数値ではありませんでした。また、局地的に高い測定値を示す場所(ホットスポット)は確認されませんでした。

※国の基準:『平成 23 年 3 月 11 日に発生した東北地方太平洋沖地震に伴う原子力発電所の事故により放出された放射性物質による環境の汚染への対処に関する特別措置法』(2011 年 8 月公布)

#### 4. 環境への取組状況

### 4. 環境への取組状況

本章では、日野市における行政の取り組みを紹介します。

#### 行政による環境への取組状況

ここでは、行政が主体となっていて行なっている環境への取り組みについて記載しています。

**環境保全課**（市役所 3 階 TEL:042-514-8294、042-514-8298 カワセミハウス TEL:042-581-1164）

| 実施日      | テーマ                                  | 目的・対象・内容                                                                             | 参加人数    |
|----------|--------------------------------------|--------------------------------------------------------------------------------------|---------|
| 5 月      | 春の市内一斉清掃                             | まちの環境美化・自治会等地域団体                                                                     | 中止      |
| 6. 13    | みんなの環境セミナー<br>「駅のツバメ」                | JR 豊田駅周辺のツバメの巣の観察を<br>ととして、まちの魅力を再発見する                                               | 8       |
| 6. 27    | オオブタクサ引き抜き大会                         | 外来種のオオブタクサの除去。カワセ<br>ミハウス協議会の行事として実施                                                 | 30      |
| 7. 23    | みんなの環境セミナー<br>「黒川清流公園で昆虫採集を<br>しよう！」 | 昆虫採集をととして、日野の昆虫につ<br>いての理解を深めてもらう                                                    | 27      |
| 7. 23～24 | カワセミハウス標本・写真展<br>「日野の昆虫たち」           | 標本と写真、解説をととして、日野の<br>昆虫についての理解を深めてもらう                                                | -       |
| 7. 25    | みんなの環境セミナー<br>「トコロジストになろう！」          | 特定の分野だけでなく、その地域の地<br>理や地質、歴史や文化など幅広い分野<br>に興味を持つ人「トコロジスト」の育<br>成<br>(黒川マイスター講座の公開講座) | 4       |
| 8 月      | 第 4 回浅川アユまつり                         | 市民が水辺に親しむイベントとして、<br>伝統漁法体験、釣り体験、環境活動団<br>体のブース出展など                                  | 中止      |
| 8. 7～13  | 黒川清流公園の身近な自然写<br>真展                  | イオンモール多摩平の森を会場とし<br>て実施。会場からほど近い黒川清流公<br>園の豊かな自然を紹介                                  | -       |
| 8. 27～30 | カワセミハウス環境パネル展                        | カワセミハウス協議会環境分科会に<br>参加する団体をはじめ環境団体の活<br>動紹介                                          | -       |
| 9. 20～26 | カワセミハウス写真展<br>「日野の魚たち」               | 日野に生息する魚の写真とその解説<br>や、多摩川漁業協同組合日野支部の魚<br>を増やす取組みの紹介をととして日<br>野の魚たちについての理解を深めて<br>もらう | -       |
| 11. 28   | 秋の市内一斉清掃                             | まちの環境美化・自治会等地域団体                                                                     | 12, 800 |
| 12. 3    | みんなの環境セミナー<br>「黒川清流公園の冬を探そ<br>う！」    | 冬の黒川清流公園での湧水の大切さ<br>の学習、雑木林に来る野鳥観察<br>(市民環境大学の公開講座)                                  | 5       |
| 12. 5    | 工作教室「木の実でつくろう」                       | マツボックリや木の実を使ったクリ<br>スマスツリーづくり                                                        | 28      |

行政による環境への取組状況

|         |                                             |                                                                                          |               |
|---------|---------------------------------------------|------------------------------------------------------------------------------------------|---------------|
| 12.5    | 見て聞いて知ろう・くろかわシリーズ「冬の雑木林で落ち葉かき～落ち葉の役割を考えよう～」 | カワセミハウス協議会環境分科会が企画・実施。雑木林で落ち葉かきを体験、講師より昔の落ち葉利用や雑木林での落ち葉の役割などについて話を聞き、現代における落ち葉の役割について考えた | 9             |
| 1.24～30 | カワセミハウス写真展「日野の野鳥たち」                         | 写真、解説をとおして、日野の野鳥についての理解を深めてもらう                                                           | -             |
| 1.29    | みんなの環境セミナー「生物多様性ってなに？」                      | 「生物多様性とはどんなことか」「どんな行動や実践が必要か」等について学ぶ<br>(黒川マイスター講座の公開講座)                                 | 1             |
| 1.30    | みんなの環境セミナー「親子で楽しむ野鳥かんさつ」                    | 野鳥が見やすい冬の雑木林での親子を主な対象とした野鳥観察                                                             | 17            |
| 3.7     | つんで楽しい！よもぎだんご                               | カワセミハウス協議会環境分科会が企画・実施。ヨモギを実際に摘んで、よもぎ団子の作り方について学習し、ヨモギ以外の食べられる野草や毒のある野草についても学習した          | 15            |
| 通年      | エコアラ・エコクマによる環境学習（出前講座）                      | 主に保育園・幼稚園を対象として、日野市の環境キャラクター「エコアラ」「エコクマ」による環境学習                                          | 中止            |
| 通年      | 市民環境大学                                      | 東京農工大学名誉教授 小倉紀雄氏による通年講座。身近な環境から地球規模の環境まで幅広く学ぶ                                            | 修了者 20        |
| 通年      | 黒川マイスター講座                                   | 湧水と緑豊かな黒川清流公園周辺の魅力を伝え、その自然環境の豊かさを広めていただく「マイスター」を育成                                       | 認定証<br>被授与者 6 |
| 通年      | 環境学習支援（小学校への出張授業など）                         | 「ひのどんぐりクラブ」による市内小学校等への環境学習の支援                                                            | 2,931         |

緑と清流課（市役所 3階 TEL:042-514-8309）

| 実施日               | テーマ              | 目的・対象・内容                                                        | 参加人数          |
|-------------------|------------------|-----------------------------------------------------------------|---------------|
| 2020.4.1<br>～5.31 | 緑の募金             | 事業所、老人クラブ等の団体や個人に緑化推進のため、緑の募金への協力を依頼                            | —             |
| 4.20～9.2          | 第10回 あさかわ写真コンクール | 八王子市との浅川流域連携事業の取組みの一つ(募集期間 4/20～9/2、表彰式 中止)                     | 応募総数<br>360   |
| 4月                | 多摩川・浅川クリーン作戦     | 多摩川・浅川の同時清掃                                                     | 中止            |
| 6.8               | 身近な水環境の全国一斉調査    | 浅川、多摩川、程久保川及び市内を流れる用水の水質調査(全国水環境マップ実行委員会主催)                     | 101<br>(浅川流域) |
| 6月                | コスモスアベニュー事業      | 新型コロナウイルス感染症の拡大防止のため、コスモスアベニュー事業(第23回)は中止。(緑と清流課にてコスモスの種まき等を実施) | 中止            |

#### 4. 環境への取組状況

|              |                            |                                                |      |
|--------------|----------------------------|------------------------------------------------|------|
| 6 月          | ホテルの観察会                    | 真堂が谷戸にて実施した市民参加イベント。ホテルの生態についての座学の後、ホテルの観察を行う。 | 中止   |
| 8 月          | 子どもの交流事業                   | 八王子市との浅川流域連携事業                                 | 中止   |
| 8 月          | 用水守懇談会                     | 用水守連絡会、活動内容の報告及び意見交換                           | 中止   |
| 9. 26        | シンポジウム<br>「ヨーロッパの水車と日本の水車」 | 水と緑の日野・市民ネットワーク主催講演会                           | 約 50 |
| 10. 5～10. 30 | ミニ水族館開設                    | 市役所 1 階フロアにて実施                                 | －    |
| 10. 5～10. 30 | 緑と清流ポスター展                  | 市役所 1 階フロアにて実施<br>(応募総数 509 点)                 | －    |
| 10. 25       | 日野用水清掃 (クリーンデー)            | 栄町 5 丁目交差点からコープとうきょう日野駅前店までの日野用水 (約 2km) の清掃   | 20   |
| 年間           | 程久保川クリーンデー                 | 5 月、10 月と 2 回実施                                | －    |
| 年間           | 自然観察会                      | 日野みどりの推進委員会と共催 年間 5 回実施                        | －    |
| 年間           | 浅川・潤徳水辺の楽校行事               | 浅川・向島用水親水路を中心に年間 17 回の行事を開催 (5 回のみ実施)          | －    |
| 年間           | 滝合水辺の楽校行事                  | 7、8、11、2 月実施                                   | －    |

#### ごみゼロ推進課 (クリーンセンター 日野市石田 1-210-2 TEL:042-581-0444)

| 実施日         | テーマ              | 目的・対象・内容                 | 参加人数 |
|-------------|------------------|--------------------------|------|
| 2021. 1. 14 | 清掃活動             | 日野第四中学校                  | 679  |
| 年間          | クリーンセンター<br>施設見学 | 自治会・ごみゼロ推進員、その他団体、一般市民ほか | 396  |

※新型コロナウイルス感染症拡大の影響で、2020 年度は出前授業や夏休みのイベントは中止。

#### 文化スポーツ課 (市役所 3 階 TEL: 042-514-8465)

| 実施日                            | テーマ         | 目的・対象・内容                                                                                               | 参加人数 |
|--------------------------------|-------------|--------------------------------------------------------------------------------------------------------|------|
| 2020. 8. 2<br>～<br>2021. 3. 14 | ちょこっとウォーキング | ちょこっとウォーキングは市内外各所を巡り、健康増進及び市民の親睦を図ることを目的に実施するウォーキングです。また、四季に応じた自然に親しむコースを取り入れることで、運動を通して自然の魅力を発信しています。 | 273  |

#### 子育て課 (市役所 2 階 TEL:042-514-8579)

| 実施日 | テーマ      | 目的・対象・内容                                                         | 参加人数 |
|-----|----------|------------------------------------------------------------------|------|
| 中止  | 自然の中で遊ぼう | 檜原村「都民の森」を散策し、自然観察・木工を行う<br>小学校 3 年生～小学校 6 年生<br>小動物・昆虫・植物の観察、木工 | －    |
| 中止  | 自然の中で遊ぼう | 檜原村「都民の森」を散策し、自然観察・木工を行う<br>小学校 3 年生～小学校 6 年生<br>小動物・昆虫・植物の観察、木工 | －    |

行政による環境への取組状況

|            |          |                                                                                                  |           |
|------------|----------|--------------------------------------------------------------------------------------------------|-----------|
| 中止         | 自然の中で遊ぼう | 檜原村「都民の森」を散策し、自然観察・木工を行う<br>小学校3年生～小学校6年生<br>小動物・昆虫・植物の観察、木工                                     | -         |
| 11.15～3.14 | 自然の中で遊ぼう | 緑の大切さを感じる 小学校5年生～中学校3年生<br>野外炊飯・テント泊・キャンプファイヤー<br>11/15、12/19の2回実施、1/17は中止、2/14は3/14に延期したが中止となった | 延べ<br>114 |
| 中止         | 自然の中で遊ぼう | 緑の大切さを感じる 市内の子ども<br>子どもたちが自発的に活動やルールを創出した中での<br>遊びや体験、キャンプ活動ほか<br>野外炊飯・レクリエーション                  | -         |
| 中止         | 自然の中で遊ぼう | 緑の大切さを感じる 市内の子ども<br>たき火、ピザ焼き、工作、ネイチャーゲーム                                                         | -         |

中央公民館（日野市日野本町 7-5-23 TEL:042-581-7580）

| 実施日                 | テーマ                                      | 目的・対象・内容                                                                                                                            | 参加人数 |
|---------------------|------------------------------------------|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|------|
| 2020.4.20<br>～12.7  | 田んぼの学校<br>(2コース)                         | 水田での稲作りを通じて日野市の農業、環境、地域コミュニティを考える。対象は市民。<br>コロナ禍の中、外作業といえソーシャルディスタンスを考え、密になりそうな場合は2部制で行い、例年行っていた収穫祭(餅つき大会など)は中止とした。                 | 498  |
| 2020.8.4<br>(全1回)   | オリジナルエコバッグづくり講座                          | 令和2年7月1日のレジ袋有料化に伴い環境不可軽減を目的とした、自分だけのオリジナルマイバッグを作成。対象は市民                                                                             | 11   |
| 2020.12.13<br>(全1回) | 星空ツアーに出かけよう！                             | 三沢中地区在住の元プラネタリウム解説員を講師に迎え、オリオン座流星群の日に合わせて星空に関する講座を実施。講義内では講師自身の登山経験も合わせ、広大な自然について学んだ。                                               | 69   |
| 2021.1.15<br>(全1回)  | みんなで作る！みんなで使う！日野菜しんぶん紙エコバッグプロジェクト in 公民館 | 新聞紙エコバックづくりは老若男女問わず簡単に作れることから、誰でもできる地域貢献であり、身近なSDGs実践でもある。SDGs未来都市に選ばれた日野にふさわしい市民活動である。同時にSDGsについての理解を深め、SDGsに対する意識を持ってもらう。対象：市民    | 10   |
| 2021.1.26<br>(前1回)  | ～ふろしき王子がやってくる～令和スタイルの風呂敷を学ぶ              | レジ袋の有料化によって様々なエコバッグの利用が叫ばれているが、日本古来の風呂敷の利用に目を向けてみた。風呂敷は使わない時は小さくたたみ、使う目的によって形を変えられる、とてもエコで便利なものである。風呂敷の利用を通してエコについて考えるきっかけとする。対象：市民 | 18   |

#### 4. 環境への取組状況

|                                  |                              |                                                                                                              |    |
|----------------------------------|------------------------------|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------|----|
| 2021. 2. 27<br>～3. 27<br>(全 5 回) | ひの市民大学「明星大学連携コース」<br>“エコ”の技術 | 明星大学との連携講座。「水力」「カーボンニュートラル」「スターリングエンジン」「船舶」「電車」の5つの観点から5人の講師によるエコの先端技術を紹介する講座。Zoomによるオンライン講座で実施した。           | 84 |
| 2021. 3. 23<br>(全 1 回)           | 今一度、ごみの処理について考えてみよう          | 家庭から排出されるごみや資源物の処理について勉強するとともに、プラスチック類ごみ資源化施設を見学します。普段、いかにプラスチックに依存した生活を送っているかを認識していただき、大量消費の生活を見直すきっかけとします。 | 25 |

#### 郷土資料館（日野市程久保 550 TEL:042-592-0981）

新型コロナウイルス感染症拡大防止のための休館期間 令和2年3月4日～6月1日

| 実施日          | テーマ                                   | 目的・対象・内容                                                       | 参加人数  |
|--------------|---------------------------------------|----------------------------------------------------------------|-------|
| 6. 2～7. 5    | 企画展「七生丘陵ハイキングの今昔」                     | 日野市の七生丘陵を含む地域は、多摩丘陵自然公園に1950年に指定された。ハイキングコースの歴史などを紹介。          | 79    |
| 7. 11～9. 27  | 企画展「どっき土器展2020 考古学入門」                 | 古代の人々は、自然の恵みをを得て生活をしてきた。日野市の遺跡や発掘調査の方法などを紹介。                   | 287   |
| 9. 12～11. 29 | 特別展「みんなのひの宝モノ語り展」<br>第一会場 新選組のふるさと歴史館 | 自然に寄り添い、季節とともに暮らしてきた日野の人々。日々の暮らしや仕事に用いた道具や、年中行事などを紹介。          | 2,765 |
| 10. 3～3. 28  | 特別展「みんなのひの宝モノ語り展」<br>第二会場 郷土資料館       | 郷土資料館会場では、七生地域を中心に紹介した。                                        | 496   |
| 年間活動         | 七生丘陵の自然と歴史調査                          | 人の暮らしと自然とのかかわりを調査し、散策会やパネル展示などの普及活動も行なった。市民との協働調査。             | --    |
| 年間活動         | 真慈悲寺調査研究                              | 百草の地に中世に存在した大寺院「真慈悲寺」の調査や普及活動を市民と協働で実施。百草の丘陵地域の歴史を伝える活動を行なった。  | --    |
| 年間活動         | どんど焼き行事についての調査報告書の発行                  | 例年実施してきたどんど焼は、2年度は実施しなかったが、市民協働で実施した市域のどんど焼き行事についての調査報告書を発行した。 | --    |

#### 生涯学習課（市役所 5 階 TEL:042-514-8765）

| 実施日                      | テーマ | 目的・対象・内容                                                           | 参加人数  |
|--------------------------|-----|--------------------------------------------------------------------|-------|
| 2021. 1. 11（無観客・オンライン開催） | 成人式 | 新成人対象。配布プログラムに市の環境保全イメージキャラクターを紹介。例年は来場者のみへの配布だが、2020年度は全対象者に郵送した。 | 1,951 |

(公財)日野市環境緑化協会 (日野市神明 2-13-1 TEL:042-585-4740)

| 実施日                     | テーマ                 | 目的・対象・内容                                                                                                                                                                           | 参加人数                          |
|-------------------------|---------------------|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-------------------------------|
| 2020. 4. 25             | 緑のリサイクル             | 市民から提供された植物を配布<br>(新型コロナウイルス感染症拡大防止のため中止)                                                                                                                                          | —                             |
| 2020. 5 月               | ガーデニングコンテスト         | 市民からガーデニング作品を募集<br>(新型コロナウイルス感染症拡大防止のため中止)                                                                                                                                         | —                             |
| 2020. 5. 19<br>～6. 2    | ガーデニングコンテスト<br>写真展  | 市役所、市民ホールにてガーデニングコンテスト応募者全員の写真を展示<br>(新型コロナウイルス感染症拡大防止のため中止)                                                                                                                       | —                             |
| 2020. 7. 11             | 子ども昆虫教室             | 市内の小学生を対象に昆虫の話や標本観察、屋外での昆虫採集を実施                                                                                                                                                    | 参加者<br>15 名                   |
| 2020. 9. 18             | カサギク貴重品種の<br>配布     | 日野市だけが継承しているカサギクの貴重品種「白多摩・黄多摩」をプランターに植付け、観賞用として小中学校等の公共施設に配布                                                                                                                       | 33 箇所                         |
| 2020. 10. 30<br>～11. 11 | 配布苗：菊花コンテスト         | 市民プラザにて実施。表彰式は生活・保健センターにてポットマム、スプレー菊、大菊の種類別に合計 21 点を表彰<br>(応募数)・市民一般の部 合計 22 鉢<br>・老人クラブの部 合計 100 鉢<br>・小学校の部 合計 110 鉢<br>・大菊の部 合計 13 鉢                                            | (苗配布)<br>5,712 株<br>(個人・団体含む) |
| 2020. 12 月              | 作文集「緑のまち」発行         | 市内小学校 4・6 年生を対象に環境に関する作文を募集して審査を行ない、入選作 100 編及びカット入選 59 作品を掲載した作文集を発行                                                                                                              | 応募総数<br>2,041 編               |
| 2021. 1. 5<br>～1. 15    | 緑の写真展               | 市役所、市民ホールにて実施。<br>テーマ 1「日野の四季」 10 点を展示<br>テーマ 2「わが家の緑」 5 点を展示                                                                                                                      | 応募者<br>6 名                    |
| 2021. 3 月               | 第19回<br>スプリングフェスタひの | 実行委員会と共催<br>(新型コロナウイルス感染症拡大防止のため中止)                                                                                                                                                | 来場者<br>—                      |
| 年 間                     | 緑化講習会               | ○大菊の育て方講習会 7 月 17 日<br>○ポットマム・スプレー菊の育て方講習会 8 月 7 日<br>○庭木の手入れ講習会 10 月 2 日<br>○稲わら・竹細工講習会 12 月 18 日<br><br><新型コロナウイルス感染症拡大防止のため中止した講習会><br>・春の草花・家庭果樹の管理講習会(2 月)<br>・ガーデニング講習会(3 月) | 参加者<br>合計<br>92 名             |

## 5. 環境関連決算額（2019 年度）

※本書編集時点で最新となる 2019 年度のデータを掲載しています。

歳入

| 環境関連決算額（2019 年度） |                       |            |
|------------------|-----------------------|------------|
| 分 野              | 項 目                   | 決算額(単位 千円) |
| 緑                | 市民農園使用料               | 3,702      |
|                  | 公園使用料                 | 13,356     |
|                  | 緑地保全地域植生維持管理費         | 978        |
|                  | 程久保川・谷地川遊歩道維持費        | 12,000     |
|                  | 環境緑化基金繰入金             | 262,000    |
| 水                | 河川使用料                 | 6,855      |
| ごみ               | 清掃手数料                 | 696,964    |
|                  | 循環型社会形成推進交付金          | 866,937    |
|                  | ごみ処理関連施設及び周辺環境整備基金繰入金 | 1,402,360  |
|                  | 資源物売り払い代金             | 51,332     |
|                  | 周辺環境整備費               | 600,000    |
| 地球温暖化防止          | 放置自転車等撤去手数料           | 2,852      |
|                  | 省エネ設備等導入支援事業          | 90,024     |
| 生活環境             | 墓地管理手数料               | 567        |
|                  | 工場認可手数料               | 23         |
|                  | 畜犬登録手数料               | 4,595      |
|                  | 屋外広告物許可手数料            | 1,198      |
|                  | 屋外広告物許可事務費            | 567        |
| 合計               |                       | 4,016,310  |

## 5. 環境関連決算額

歳出

| 環境関連決算額（2019 年度） |                     |            |
|------------------|---------------------|------------|
| 分 野              | 項 目                 | 決算額(単位 千円) |
| 緑                | 農業改善経費              | 23         |
|                  | 振興対策経費              | 6,710      |
|                  | 市民農園育成経費            | 4,072      |
|                  | 援農制度育成経費            | 620        |
|                  | 都市農業シンポジウム経費        | 172        |
|                  | 認定農業者支援経費           | 1,066      |
|                  | 援農ボランティアコーディネート事業経費 | 72         |
|                  | 日野産ブランド支援事業経費       | 207        |
|                  | 学校給食供給支援事業経費        | 8,407      |
|                  | 七ツ塚ファーマーズセンター管理運営費  | 8,338      |
|                  | 農業体験農園支援経費          | 160        |
|                  | 生産緑地保全活用検討経費        | 3,992      |
|                  | 公園管理経費              | 143,204    |
|                  | 公園整備経費（公園事業をまとめた）   | 374,289    |
|                  | 緑化推進事業経費            | 27,866     |
|                  | 緑の保全事業経費            | 14,004     |
|                  | 七生丘陵の自然と歴史調査事業経費    | 139        |
|                  | 特別展日野の自然～鳥とともに～     | 0          |
|                  | 田んぼの学校運営業務委託料       | 224        |
| 水                | みんなで川へ繰り出そう！事業経費    | 20,860     |
|                  | 多摩川流域自治体交流事業負担金     | 279        |
|                  | し尿処理施設経費            | 10,645     |
|                  | し尿収集経費              | 29,468     |
|                  | し尿処理施設整備経費          | 2,725      |
|                  | 一般管理事務経費            | 2,072      |
|                  | 清流啓発事業経費            | 3,744      |
|                  | 雨水浸透施設設置事業経費        | 671        |
|                  | 湧水対策経費              | 361        |
|                  | 河川維持管理経費            | 206,593    |
|                  | 「水都・日野」事業経費         | 9,939      |
|                  | 河川新設改良経費            | 3,565      |
|                  | 下水道事業繰出金            | 1,664,764  |
|                  | みんなで川へ繰り出そう！事業経費    | 8,575      |

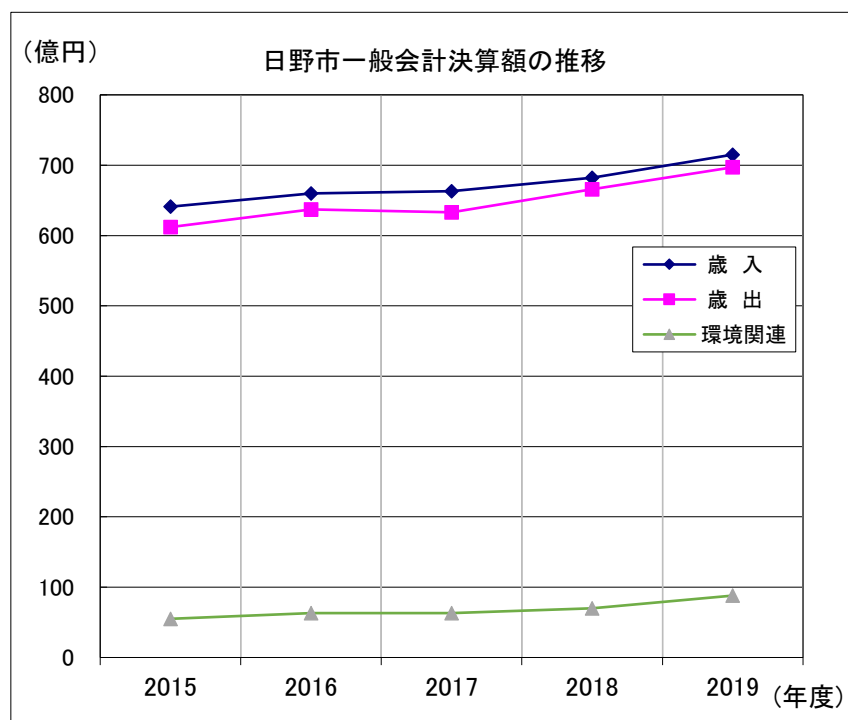
## 5. 環境関連決算額

| 分 野     | 項 目                        | 決算額(単位 千円) |
|---------|----------------------------|------------|
| ごみ      | 生ごみ処理機保守業務委託料              | 3,619      |
|         | 生ごみ処理機借上料                  | 47         |
|         | ごみ処理関連施設及び周辺環境整備基金         | 585,388    |
|         | ごみ処理関連施設及び周辺環境整備基金利子       | 138        |
|         | ペーパーレス会議システム及びタブレット端末借り上げ料 | 1,391      |
|         | 清掃総務費一般管理事務経費（人件費を除く）      | 25,669     |
|         | クリーンセンター維持経費               | 74,224     |
|         | ごみゼロ施策推進事業経費               | 180,783    |
|         | 資源回収奨励事業経費                 | 12,420     |
|         | 資源物回収事業経費                  | 410,473    |
|         | 容器包装リサイクル法関連事業経費           | 34,301     |
|         | 資源有効利用促進法関連事業経費            | 47         |
|         | 生ごみリサイクル事業経費               | 2,484      |
|         | 広域循環組合経費                   | 436,972    |
|         | 浅川清流環境組合経費                 | 266,648    |
|         | 3市ごみ減量市民会議経費               | 93         |
|         | ごみ処理施設経費                   | 121,351    |
|         | 可燃ごみ収集経費                   | 389,572    |
|         | 粗大ごみ収集経費                   | 62,936     |
|         | 不燃ごみ収集経費                   | 212,019    |
|         | 動物死体収集運搬経費                 | 1,698      |
|         | ごみ焼却施設運転管理・警備経費            | 110,519    |
|         | ごみ処理施設排出物調査経費              | 2,278      |
|         | クリーンセンター施設更新経費             | 2,779,972  |
|         | クリーンセンター施設整備経費             | 91,083     |
|         | P C B 廃棄物処理経費              | 67,708     |
|         | 新可燃ごみ処理施設周辺環境整備経費          | 42,075     |
| 地球温暖化防止 | ふだん着で行う CO2 削減事業経費         | 3,024      |
|         | L E D 街路灯借上料               | 49,181     |
|         | 自転車対策経費                    | 41,044     |
|         | 交通網整備支援経費                  | 195,990    |
| 生活環境    | 消費者啓発事業経費                  | 1,328      |
|         | 消費生活相談事業経費                 | 8,466      |
|         | 消費生活運動育成事業経費               | 670        |
|         | 食育推進会議運営経費                 | 326        |
|         | 生きものの共生事業                  | 2,480      |

## 5. 環境関連決算額

| 分 野  | 項 目                 | 決算額(単位 千円) |
|------|---------------------|------------|
| 生活環境 | ドッグラン運営事業経費         | 915        |
|      | 空き地環境保全経費           | 4          |
|      | 市内一斉清掃事業経費          | 1,607      |
|      | 喫煙マナーアップ経費          | 292        |
|      | 公害環境対策経費（人件費を除く）    | 5,437      |
|      | 空き家等対策経費            | 12,876     |
| 総合   | 環境審議会事務経費           | 98         |
|      | 環境保全推進経費            | 745        |
|      | カワセミハウス事業経費（人件費を除く） | 13,394     |
|      | 再生可能エネルギー活用推進事業経費   | 3,112      |
|      | ひの生きものプラン事業経費       | 359        |
|      | まちづくり条例経費           | 791        |
|      | まちづくり計画経費           | 22,861     |
|      | 開発指導・地区計画届出受理経費     | 284        |
|      | ユニバーサルデザイン事業経費      | 453        |
| 合計   |                     | 8,839,471  |

## 5. 環境関連決算額



日野市一般会計決算額の推移

2019 年度一般会計決算額

歳入 71,523,449,122 円

歳出 69,651,080,722 円

日野市一般会計決算額は、前年度比（歳出）4.6%増、環境関係決算額は 25.6%増。

## 6. 市役所の環境配慮の状況

### 日野市環境マネジメントシステム

日野市の事務事業における環境負荷の低減と環境保全への積極的な貢献を行う仕組みを確立し、運用することを目的とし導入しています。

#### <これまでの経過>

|                     |                                                                             |
|---------------------|-----------------------------------------------------------------------------|
| 2000 年度             | 日野市環境方針制定、マネジメントシステム運用開始、ISO14001 認証登録                                      |
| 2003 年度～<br>2007 年度 | 生活・保健センター、防災情報センター、水道事務所、建築指導課、環境情報センター、郷土資料館、中央公民館、高幡台分館、図書館（全館）を適用範囲に加えた。 |
| 2011 年度             | クリーンセンター事務所を加えた。                                                            |
| 2012 年度             | 認証期間の満了に合わせて ISO14001 自己適合宣言に移行（12/6）※                                      |
| 2014 年度             | 日野市独自の環境マネジメントシステム「ひのエコ」に移行                                                 |
| 2016 年度             | 環境方針に「市は市民・事業者・市民団体と連携・協力」を追記                                               |
| 2020 年度             | 監査方法を変更し、書類確認を自己確認形式とした。監査は被監査部署職員にインタビューを行うという形式に変更した。                     |

※自己適合宣言とは、外部機関からの認証ではなく、自らがシステムに適合していることを宣言するもの

#### <環境マネジメントシステムでの取り組み>

毎年度、各部署の事務事業がどれくらい環境に影響を与えるかを調査し、その結果を基に具体的な目標・目的を設定して各部署が取り組むプログラムを作り実行します（2020 年度は 63 プログラムを実施）。そして、各プログラムの達成状況を四半期ごとに評価し、進捗状況に応じて取り組み方法を見直すなどの改善を行ない、目標の達成に向けて行動しています。

#### <取り組みのチェック及び評価制度>

年に一度、環境監査を実施しています。これは、環境監査員に任命された職員が各職場に入り、各課の取り組み（プログラム）状況や、決められた手順に従い実施しているかチェックするものです。2020 年度は、一人一人の職員に対し、より深い環境への理解を深めてもらうことを目的に、監査方法を変更しました。例年環境監査員のみに行っていた監査を、被監査部署職員全員にインタビューを行い、各課の取り組みのみならず普段から実行していることを対話形式によって引き出すとともに、SDGs、プラスチック削減、ひのエコについての理解度を確認しました（2020 年度は 1 月 27 日、28 日、29 日実施）。



2020 年度環境監査風景

日野市では、2014 年 4 月に日野市独自の環境マネジメントシステム「ひのエコ」に移行しました。これは、環境方針に基づくシステムに関する事項を定め、日野市一丸となった環境改善と管理、維持を行なっていくもので、外部機関の検査が無いことから、自己チェックが大変重要となります。

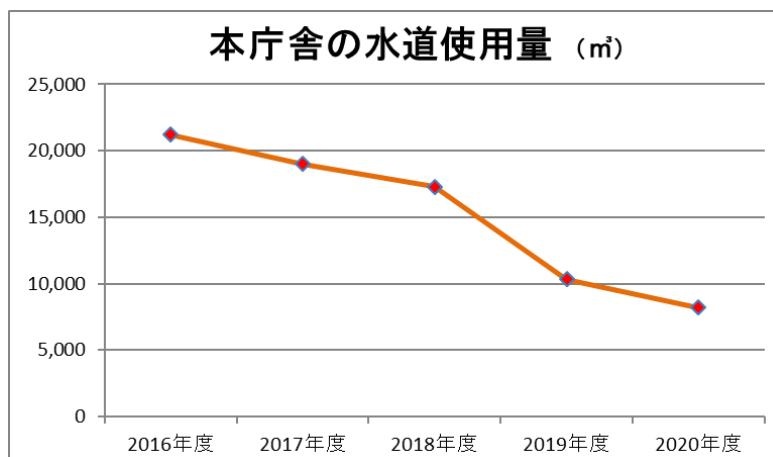
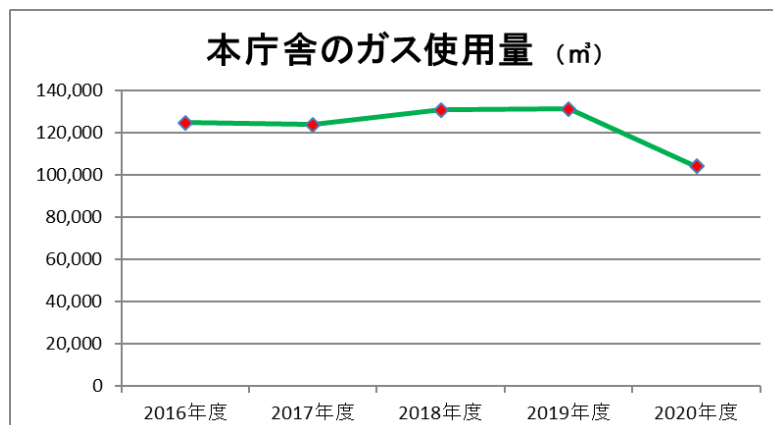
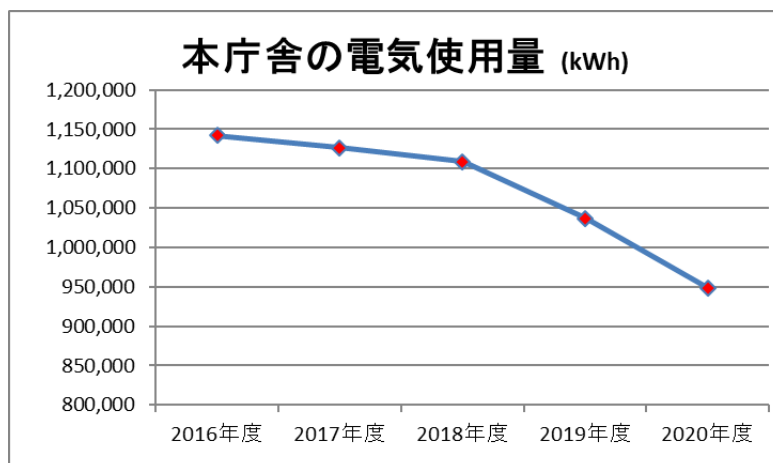
そこで、環境監査の充実を目的に府中市、昭島市、調布市と 2014 年 9 月に環境マネジメントシステムに係る相互環境監査に関する覚書を交換し、4 市での相互監査を行っています。ルールに従い各課が取り組んでいるのかを確認するほか、環境監査としてしっかり機能しているかについても 4 市でお互いにチェックしています。2020 年度は新型コロナウイルス感染症の影響により、書面開催となりました。

## 6. 市役所の環境配慮の状況

### 〔環境負荷低減の実績～本庁舎～〕

職員一人ひとりが省エネ・省資源の意識と取り組みを確実に実践してきました。直近5年の結果を下記のグラフに示しています。ISO14001 導入により、本庁舎内にあった冷蔵庫や電気ポットなどをほぼ撤去するなど、エネルギーの使用削減に向けた徹底した取り組みがスタートしました。その後、土曜開庁や1人1台パソコンの導入など、エネルギー消費増につながる施策もありましたが、職員は地道な環境配慮行動を実践してきました。

また、2018年度から2020年度にかけて市役所本庁舎において空調や照明機器の更新やトイレの改修を進めてきた効果として、電気と水道使用量に削減が見られます。今後も引き続き職員の意識を高め、環境負荷低減に取り組んでまいります。



## 7. 環境基本計画の推進体制

---

### 環境基本計画の推進

第2次環境基本計画策定から10年が経過しました。確実かつ継続的に計画に取り組むためには、推進体制の確立が非常に重要です。第1次計画の策定時にも推進体制を整備しましたが、役割分担が明確でなかったこともあり、効果的に進めることができませんでした。その課題を踏まえ、第2次計画では市・市民・事業者の役割を明確にしたうえで、市が進めるべき施策はその主管課が中心となり、市民の皆さんと定期的に検討して進めていく仕組みを整備しました。

現在、みどり分野、水分野、ごみ分野、CO<sub>2</sub>分野の4つの分野に分かれ、それぞれの主管課と定期的な会議を開催しています。

先人から受け継いだ豊かな自然を次の世代に引き継ぐために、多くの市民の皆さんと共に取り組んでいきたいと思えます。日野市の自然に関心のある方は、ぜひ各分野の会議に参加してください。

各分野の会議に参加し、計画を推進している市民の皆さんから、これまでの取組状況や課題などを報告します。

#### 【みどりグループ】

2020年度のみどりグループの活動は、市が買い取った六地蔵の草地での活動を開始しました。草原的な環境が貴重になりつつある現在、ここを在来の半自然草原的な草地環境として維持保全するために、定期的に草を刈り、年2回程度、植物のモニタリング調査を実施するというものです。明るい草地に生育する、注目すべき植物も見つかり、今後もこれを見守っていきたいと考えます。

みどりグループでは、市内の緑地の管理に着目し、2019年度から様々な提言を行ってきましたが、雑木林ボランティア講座の卒業生をつなぐ「お助けネットワーク」の仕組みづくりを提案・応援し、現在も運用が進んでいます。また、市内の市管理の緑地の台帳づくりも2019年度以来市に提案し、その具体的な台帳の内容について緑と清流課も一緒に詰めを行ってきました。市内に点在する緑地は主に雑木林が多いですが、これらの管理方針を緑地ごとにきちんと定める必要があります。それに基づいて市民に広く利活用してもらえるように管理を進めることが望まれますが、これに雑木林ボランティア講座の修了生の力を借りることができればよいと考えています。

また、第3次環境基本計画策定に関して、環境保全課と話し合いの場をもち、みどりグループからも提言を行いました。現在はどのような状況かは把握できていません。

#### 【水グループ】

2019年度は施策「健全な水循環の構築」には市内横断的なプロジェクトが必要という認識の上で、実施項目を

- ①水辺環境整備計画の時点修正のためのデータ収集と議論
- ②各課事業、プランについてヒヤリング
- ③水辺環境整備計画の時点修正及び環境基本計画改定に向けた準備

## 7. 環境基本計画の推進体制

としたが、台風 19 号対応や関係課担当との調整がうまくいかず、定例会も度々実施できず、十分な取組が出来なかったので、2020 年度は上記実施項目の継続とした。

令和元年度に出来なかった各課を集めたヒヤリングを実施（都市計画課・都市農業振興課）したが、継続的な会議にもならず、今後の水路の保全・活用を検討するためには、第 2 次環境基本計画に位置付けた施策の検証が必要だという意見になり、水グループの検証シートを作成したが、検証までは至らず次年度に送ることとなった。

主管課の業務が多すぎ、かつ目的が明確でないイベント、マスタープランはじめ種々基本計画への対応が全体状況に関係なく、それぞれ個々に対応され、かつ担当者の異動があるとこれまでの経緯がほとんど伝わらず、環境基本計画推進会議事務局からの指示・支援も不十分で、水グループ行政担当には過大な負担がかかっているように思われる。

### 【ごみグループ】

ごみグループとしては、「日野市ごみ減量推進市民会議」と「ひの・まちの生ごみを考える会」の 2 つの組織があり、それぞれごみゼロ推進課と毎月 1 回定例会議を持てていましたが、2020 年度はコロナ禍のため、しばしば休会を余儀なくされました。

「日野市ごみ減量推進市民会議」は、「日野市ごみゼロプラン」の推進組織であり、プラスチックごみや紙ごみの減量に向けて、マイバッグ持参によるレジ袋の削減と、容器包装や新聞紙の販売店回収の利用を促進するための啓発活動を行っています。

レジ袋削減と容器包装の店頭回収を推進するためには、スーパーとの「レジ袋無料配布中止に向けた共同会議」を定期的に開催しています。また、各スーパーの店頭でマイバッグ持参率調査を実施してきましたが、2020 年 7 月 1 日から法律により全国一斉にレジ袋有料化がスタートしましたので、2020 年度からマイバッグ持参率調査は中止しました。

なお、ごみ減量推進市民会議は、組織の拡大と活動の活性化を図るため発展的に解消し、2021 年度に「(仮称) ごみ減量・資源化推進協議会」を発足させる予定です。

一方、「ひの・まちの生ごみを考える会」は、生ごみの減量とともに、生ごみの堆肥化とそれを使った野菜作りや花作りを推進しています。2 つの下部組織があり、「生ごみリサイクルサポーター連絡会」は、家庭でのダンボールコンポストによる生ごみ堆肥化の普及活動を行い、「まちの生ごみ活かし隊」は、新井地区の人たちとともに約 160 世帯の生ごみを戸別回収し、「せせらぎ農園」の畑に投入して野菜や草花を栽培しています。

「せせらぎ農園」は、新しい都市農業の一つのかたちとして、また、地域の人たちの楽しい居場所として各方面から注目され、毎年市内外から 2,500 人前後の見学者が訪れています。

【CO<sub>2</sub>グループ】

CO<sub>2</sub>グループは、月に1回の定例会を開催し、「脱炭素社会を築くまち」を目標に、施策を進めようと努力しています。

令和2年度は、以下の項目を一部推進する予定でしたが、コロナウイルスの影響で推進が滞ってしまいました。

1. エコキングの取り組みを中学校に拡大する。
2. 国、東京都の脱炭素計画に連動または、上回る目標設定する。
3. RE100を宣言した企業とのミーティング、連携を計る。また、大学の環境部門とも連携を計る。
4. 温暖化対策として、一番効果が高いカーボンプライシングの啓発、導入支援を行う。
5. 小学校、中学校などの公共施設の太陽光パネル設置を東京電力、東京ガスとの連携で、2年以内に倍増する。

令和3年度は、強力に推進、スピード化したいと思います。

2030年度までが、地球破壊を止める貴重な時期です。よろしくお願いいたします。

## 8. 環境審議会の意見等

### (1) 審議会の意見

前回発行の白書(2019年度版)では下記のと通りの意見を日野市環境審議会からいただきました。

令和2年9月30日

日 野 市 長

大坪 冬彦 様

日野市環境審議会会長

千賀 裕太郎

#### 日野市環境審議会の意見について

日野市環境基本条例（平成7年条例第18号）第18条に基づき、令和元年度環境白書案について、令和2年9月30日に開催された日野市環境審議会で審議しました。意見は下記のとおりです。今後、施策を推進する際にはこれらの事項に十分に配慮するようお願いいたします。

#### 記

1 環境基本計画に位置付けられている、施策の成果を測るための以下の指標は、計画の目標との関係が明確ではない。次期計画策定時には、計画の目標とその指標の関係について、十分検討することが望ましい。

(1) 目標「みどりの原風景をつなぐまち」に対し、指標「市民一人当たりの都市公園面積」が適切に施策の成果を表しているか検討することが望ましい。

また、同指標「市民一人当たり都市公園面積」は、目標年度までに実施可能な内容であったか検討することが望ましい。

(2) 目標「低炭素社会を築くまち」に対し、指標「都市計画道路の整備率」が適切に施策の成果を表しているか検討することが望ましい。

2 「心やすらぐ快適な生活環境であると感じる市民の割合」が減少している。当該項目は市が実施した「市民意識調査」（令和元年度）の結果であるが、その原因や背景について分析し、市として取り組むべき内容の有無も含め、対応について検討することが望ましい。

前回の白書についてご審議いただいた日野市環境審議会の委員です。

日野市環境審議会 委員(※敬称略) 任期平成30年10月1日から令和2年9月30日まで

公募市民

岡村 和夫、井無田 将、古川 信之、野田 実

学識経験者

尾崎 義昭、瀬川 爾朗、千賀 裕太郎、田中 優、宮沢 清子

事業者

大久保 嘉則(日野市商工会)、疋田 久武(日野市商工会)、梅岡 元司(日野自動車(株) 安全環境推進部長)

環境保全関係行政機関、関係団体

金子 凱彦(日野の自然を守る会)、岸野 國男(日野市用水組合連合会長)、

荒井 和誠(東京都多摩環境事務所廃棄物対策課長)

## (2) 日野市環境審議会(令和2年9月30日)意見への対応について

(意見)

- 1 環境基本計画に位置付けられている、施策の成果を測るための以下の指標は、計画の目標との関係が明確ではない。次期計画策定時には、計画の目標とその指標の関係について、十分検討することが望ましい。
  - (1) 目標「みどりの原風景をつなぐまち」に対し、指標「市民一人当たりの都市公園面積」が適切に施策の成果を表しているか検討することが望ましい。  
また、同指標「市民一人当たり都市公園面積」は、目標年度までに実施可能な内容であったか検討することが望ましい。
  - (2) 目標「低炭素社会を築くまち」に対し、指標「都市計画道路の整備率」が適切に施策の成果を表しているか検討することが望ましい。

(対応)

- (1) 都市公園は、都市部におけるみどりの保全、生物多様性の確保の場、豊かな地域づくりに資する交流の空間など多様な機能を有しています。第2次環境基本計画では、良好な都市環境を形成するために、長期的な観点に立って都市公園を計画的に整備し、適切に管理していくために「市民一人当たりの都市公園面積」を指標として設定してきましたが、次期計画策定に向けては、まちづくりマスタープラン、みどりの基本計画、緑確保の総合的な方針等から、目標年度に応じた新しい指標の設定を検討致します。

## 8. 環境審議会の意見等

一方、該当指標の実現可能性について、当初この指標を設定した平成 22 年度から、日野市の人口は継続して増加（※）していることから、目標を達成するためには、人口増のペース以上に公園を設置しなければなりません。しかし、市の財政状況等により、都市計画公園予定地を計画的に購入することは大変難しい現状です。

（※平成 22 年 4 月：177,071 人 令和 2 年 4 月：186,731 人）

- （2） 都市計画道路が整備されることで、渋滞が緩和されるなど省エネの効果が期待される一方、公共交通機関ではなく車に乗るといったことが喚起されてしまう可能性があることから、当該指標が「低炭素社会を築くまち」に対する施策の成果を表しているか総合的に検討致します。

（意見）

- 2 「心やすらぐ快適な生活環境であると感じる市民の割合」が減少している。当該項目は市が実施した「市民意識調査」（令和元年度）の結果であるが、その原因や背景について分析し、市として取り組むべき内容の有無も含め、対応について検討することが望ましい。

（対応）

市民意識調査の当該項目は「きれいな水や空気、騒音やポイ捨てがないなど、良好な生活環境が確保されている」という質問です。きれいな水や空気については、市内で一定程度の評価があると考えられるものの、騒音に関する苦情が一定数寄せられていること（P56 参照）や、喫煙に関する相談が継続的に寄せられていることから、騒音やポイ捨てなどが当該項目の市民意識を減じている理由の一つと考えられます。また、居住地区によって「そう思う」もしくは「どちらかといえばそう思う」と答える割合に差があることから、地域特性を考慮した上で、今後の対応について検討致します。

## 9. 省エネ法に関する措置

---

「エネルギーの使用の合理化に関する法律」（以下、省エネ法という。）は、エネルギー消費量が大幅に増加している業務部門と家庭部門におけるエネルギーの使用の合理化をより一層推進することを目的に、2008年5月に改正されました。

日野市では、市長部局と教育委員会がそれぞれ個別の事業者として、所管する施設について国に対してエネルギー使用量の報告を行なっています。調査時点で最新データである2019年度分のエネルギー使用量は次のとおりです。

|       | エネルギー使用量（原油換算） | 対前年度比 |
|-------|----------------|-------|
| 市長部局  | 4,179kl        | 95.1% |
| 教育委員会 | 2,480kl        | 94.2% |

# 付表 指標・参考データ出典一覧

| 指標・参考データ |                               | ページ | 出典                                   |
|----------|-------------------------------|-----|--------------------------------------|
| 指標 1     | 土地利用現況調査「森林」の割合               | 15  | 東京都土地利用現況調査(都市計画課)                   |
| 指標 2     | 緑被率                           | 15  |                                      |
| 指標 3     | 農地面積                          | 16  | 農林水産省作物統計(都市農業振興課)                   |
| (参考 1)   | 生産緑地面積                        | 16  | 都市計画決定図書(都市計画課)                      |
| 指標 4     | 一人当たり都市公園面積                   | 17  | 日野市公園調書(緑と清流課)                       |
| (参考 2)   | 多摩地域の一人当たり都市公園面積              | 17  | 東京都建設局公園調書                           |
| 指標 5     | 市が寄付や買収等で取得した樹林地面積            | 19  | 緑と清流課                                |
| 指標 6     | 緑地信託面積                        | 19  |                                      |
| 指標 7     | 緑のトラストへの寄付件数                  | 19  | 緑のトラスト受付簿(環境保全課)                     |
| 指標 8     | 雑木林ボランティア講座修了者数               | 19  | 緑と清流課                                |
| 指標 9     | 市民農園等の面積                      | 19  | 都市農業振興課                              |
| 指標 10    | 援農人数                          | 20  |                                      |
| 指標 11    | 「市」の開催日数                      | 20  |                                      |
| 指標 12    | 学校給食における地元野菜等利用率              | 20  |                                      |
| 指標 13    | 給食野菜納品農業者数                    | 20  |                                      |
| 指標 14    | ウェルカムツリー、生け垣の助成件数             | 20  | 緑と清流課                                |
| 指標 15    | 浅川の平均河川流量・水位                  | 22  | 国土交通省京浜河川事務所                         |
| (参考 3)   | 浅川の流量測定結果                     | 23  | 国土交通省京浜河川事務所、日野市環境共生部                |
| 指標 16    | 月別雨量と調査地点の総湧水量                | 24  | 湧水量および地下水位計測調査業務委託・調査報告書(緑と清流課)      |
| (参考 4)   | 湧水地点の状況                       | 24  |                                      |
| 指標 17    | 各用水路の水質分析結果                   | 27  | 日野市水質調査 調査報告書(環境保全課)                 |
| 指標 18    | 河川・用水・湧水の水生生物の確認状況            | 27  | 日野市水生生物調査 調査報告書(環境保全課)               |
| (参考 5)   | 水生生物による水質の生物学的判定              | 29  |                                      |
| 指標 19    | 水辺に親しみやうるおいを感じる市民の割合          | 30  | 日野市市民意識調査結果報告書                       |
| 指標 20    | 地下水揚水量                        | 32  | 地下水揚水量一覧(環境保全課)                      |
| 指標 21    | 雨水浸透ます設置個数                    | 32  | 緑と清流課                                |
| (参考 6)   | 第二次日野市バリアフリー特定事業計画の透水性舗装整備状況  | 33  | 都市計画課、道路課                            |
| 指標 22    | 下水道普及率                        | 34  | 下水道課                                 |
| 指標 23    | 水辺イベントの開催数                    | 34  | 緑と清流課                                |
| (参考 7)   | 「ピオトープづくり」の取組件数               | 34  |                                      |
| 指標 24    | 「用水守」の登録団体数                   | 35  | 多摩地域ごみ実態調査(公益財団法人 東京市町村自治調査会)        |
| 指標 25    | ごみ・資源排出原単位                    | 36  |                                      |
| (参考 8)   | ごみの行方                         | 37  |                                      |
| 指標 26    | 総資源化率                         | 38  |                                      |
| (参考 9)   | ごみ量内訳                         | 39  |                                      |
| 指標 27    | マイバック持参率・レジ袋辞退率               | 41  | 大手スーパーでの出口調査(レジ袋無料配布中止に向けた共同会議)      |
| 指標 28    | ペットボトル、発泡トレイの行政回収率            | 41  | 日野市の清掃概要(ごみゼロ推進課)                    |
| 指標 29    | 焼却ごみの組成                       | 41  | ごみゼロ推進課                              |
| (参考 10)  | 焼却ごみの組成割合(湿ベース)               | 42  |                                      |
| 指標 30    | 生ごみ減量・資源化への取組世帯数              | 42  |                                      |
| 指標 31    | 生ごみリサイクルステッカー掲示世帯数            | 43  |                                      |
| 指標 32    | 環境学習出前講座の実施回数                 | 43  |                                      |
| 指標 33    | ごみ相談窓口への相談件数                  | 43  |                                      |
| 指標 34    | クリーンセンター見学者数                  | 44  |                                      |
| 指標 35    | 新聞紙の行政回収量                     | 44  | 日野市の清掃概要(ごみゼロ推進課)                    |
| 指標 36    | 二酸化炭素排出量                      | 46  | オール東京 62 市区町村共同事業「多摩地域の温室効果ガス排出量」報告書 |
| (参考 11)  | エネルギー使用量                      | 49  |                                      |
| 指標 37    | 公共交通機関(ミニバス・バス)の整備率           | 50  | 交通空白地域図(都市計画課)                       |
| 指標 38    | 市内連絡バス(ミニバス)年間利用者数            | 50  | 都市計画課                                |
| 指標 39    | 「ふだん着でCO2をへらそう宣言」の宣言数及びCO2削減量 | 51  | 環境保全課                                |
| 指標 40    | ワットチェッカー等貸出状況                 | 53  |                                      |
| 指標 41    | 省エネ診断の参加事業者数                  | 53  |                                      |
| 指標 42    | 太陽光発電等の補助金による導入促進事業           | 54  |                                      |
| 指標 43    | 公共施設の新エネルギー導入状況               | 54  |                                      |
| 指標 44    | 都市計画道路の整備率                    | 54  | 道路課                                  |
| 指標 45    | 心やすらぐ快適な生活環境であると感じる市民の割合      | 56  | 日野市市民意識調査結果報告書                       |
| (参考 12)  | 苦情受付件数                        | 56  | 環境保全課                                |
| 指標 46    | マナーアップのための啓発活動状況              | 58  |                                      |
| 指標 47    | 浮遊粒子状物質(SPM)年平均値              | 58  | 東京都環境局                               |
| 指標 48    | 二酸化窒素の年平均濃度                   | 59  |                                      |
| 指標 49    | 二酸化窒素 24 時間測定結果               | 59  | 窒素酸化物調査報告書(環境保全課)                    |
| 指標 50    | 雨の酸性度                         | 59  | 酸性雨市民モニターによる計測                       |
| (参考 13)  | 富士山ウォッチング(富士山が見えた回数)          | 60  | 東京都環境局・成蹊学園気象観測所・日野市                 |
| 指標 51    | 道路交通騒音                        | 61  | 環境保全課                                |
| 指標 52    | 横田飛行場に係る航空機騒音                 | 62  |                                      |
| (参考 14)  | 市内空間放射線量測定                    | 62  |                                      |



## エコクマ、エコアラ

地球温暖化で棲んでいるところを追われ、東京都日野市にやってきたエコクマ。日野市の多摩動物園で生まれたエコアラ。地球温暖化に心を痛め、エコ活動を始めたよ。

2人で力を合わせてがんばるぞ。応援よろしくね！



2020年度（令和2年度）

日野市環境白書

日野市環境基本条例第 18 条に基づく年次報告書

発行：2021 年(令和3年) 9 月 日野市

編集：日野市環境共生部環境保全課

〒191-8686 東京都日野市神明 1-12-1

TEL 042-514-8294

URL <https://www.city.hino.lg.jp>

身近な生きものと共生できる環境を次世代につなごう！